

## 古典文学基礎演習 [a]

[担当者] 野澤 真樹・川崎 千加  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

### ●本授業の概要：

古典を学ぶための基礎的な知識と方法を身につける。前半は古典文学の研究に必要な工具諸・データベースの使い方や、資料調査に際した留意点を学ぶ。また、後半は近世初期の作品の注釈に挑戦し、各自がその成果を反映したレジュメを用いた口頭発表を行う。また、第2～8回の授業では冒頭に資料の影印を用いた変体仮名の解説演習を行う。加えて本学の図書館を有効に利用できるよう、基本的な知識を概説し、その後図書館で資料・情報検索の練習を行なうとともに、読書の習慣を身につけるため、読書ノートを作成する。

### ●到達目標：

- ①変体仮名を解説するための基礎知識を身につける。
- ②読書領域を広げる。
- ③図書館を自在に利用し、辞書類・索引類・データベース類を活用できる。
- ④口頭発表の基本を身につける。
- ⑤他者の発表に対し有意義な質疑応答ができる。

### ●成績評価の基準：

授業への取り組み 10% (①～⑤)  
 口頭発表 40% (③④)  
 レポート (口頭発表レジュメの完成) 20% (⑤)  
 小テスト (変体仮名) 10% (①)  
 読書ノート 10% (②)  
 図書館オリエンテーション 10% (③)

### ●留意事項：

授業外学習に積極的に取り組むこと。  
 【川崎】オフィスアワーは、月7・8時限。  
 【野澤】オフィスアワーは、月5・6時限。

### ●実務経験の授業への活用方法：

15週の内2コマを大学図書館での図書館利用教育等の実務経験がある教員が担当する。図書館の蔵書検索、レファレンスブックによる情報探索などの実習を通して、大学での学びに役立つ図書館活用法の基礎を身につけてもらいたい。

### ●授業予定一覧：

1. ガイダンス、変体仮名の基礎
2. 変体仮名の解説
3. 辞書・先行研究との付き合い方
4. 図書館を利用した資料検索演習
5. 図書館オリエンテーション
6. 図書館オリエンテーション
7. 発表についての指導、発表デモンストレーション
8. 特殊文庫見学
9. 口頭発表 (1)
10. 口頭発表 (2)
11. 口頭発表 (3)
12. 口頭発表 (4)
13. 口頭発表 (5)
14. 口頭発表 (6)
15. 口頭発表の振り返り

- ※ 二回にわたって図書館オリエンテーションを行う。  
 図書館オリエンテーションの実施時期は初回に伝達する。  
 (上記の予定から変更になる可能性あり)  
 ※ 発表は、一回の授業につき二人が行う予定である。

### ●準備学習 (予習・復習) に必要な学修内容：

変体仮名の読解等、授業外学習を課す場合もある。  
 発表の際には、十分な準備をした上で、人数分の資料を印刷・持参すること。

### 【必携書 (教科書販売)】

『辞典かな』、笠間書院  
 『この一冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』、石黒圭、日本実業出版社

### 【必携書・参考書等 (教科書販売以外)】

<参考書等>  
 授業中に指示する。

## 古典文学基礎演習 [b]

[担当者] 東城 敏毅・川崎 千加  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

### ●本授業の概要：

本授業は、日本古典文学を学ぶための基礎的な知識を習得し、その方法を身につけることを目的とする。前半は、様々な作品の変体仮名を読解する練習を行ない、辞典の知識や古典文学作品を読み解くのに必要な方法を身につける。後半は、演習形式 (グループワーク・プレゼンテーション) により、写本や版本を用いた発表を実施し、翻刻・注釈・口語訳を行なう。また、本学の図書館で資料・情報検索の練習を行なう。さらに、読書の習慣を身につけるため、読書ノートを作成・提出してもらう。

### ●到達目標：

1. 変体仮名を理解し、写本・版本を読解できる。
2. 演習によって口頭発表の方法を身につけることができる。
3. 図書館を自在に利用し、辞書類・作品類を活用できる。
4. 読書ノートを作成することで、体系的な読書習慣を身につけることができる。

### ●成績評価の基準：

口頭発表40% (到達目標 1, 2, 3)  
 筆記試験40% (到達目標 1, 2, 3)  
 図書館オリエンテーション10% (到達目標 3, 4)  
 読書ノート10% (到達目標 4)

### ●留意事項：

発表者は事前に十分準備をしておくこと。

【東城】オフィスアワー：月曜日7・8時限

【川崎】オフィスアワー：月曜日7・8時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

15週の内2コマを大学図書館での図書館利用教育等の実務経験がある教員が担当する。図書館の蔵書検索、レファレンスブックによる情報探索などの実習を通して、大学での学びに役立つ図書館活用法の基礎を身につけてもらいたい。

### ●授業予定一覧：

- 1 導入・変体仮名について
- 2 変体仮名読解の練習①
- 3 変体仮名読解の練習②・辞書類の基礎知識
- 4 辞書類を活用する (図書館グループ演習、発表準備・方法の確認)
- 5 特殊文庫見学
- 6 図書館オリエンテーション①
- 7 図書館オリエンテーション②
- 8 発表資料の作成と発表方法について、レポートの書き方、変体仮名の練習③
- 9 発表①
- 10 発表②
- 11 発表③
- 12 発表④
- 13 発表⑤
- 14 発表⑥
- 15 発表⑦  
筆記試験

### ●準備学習 (予習・復習) に必要な学修内容：

毎回の授業では、事前に授業で扱う箇所について、理解を深めておくこと。発表の際には、十分に準備した上で実施すること。積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習も進めてほしい。

なお、発表者は受講者分のレジュメを印刷して配布する。

### 【必携書 (教科書販売)】

『論文・レポートの基本』、石黒圭、日本実業出版社  
 『辞典かな』、笠間書院

### 【必携書・参考書等 (教科書販売以外)】

<参考書等>  
 授業中に指示する。

## 古典文学基礎演習 [d]

[担当者] 原 豊二  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

古典文学を学ぶための基礎的な知識と方法を身につけていく。前半は様々な作品の写本(影印本)を用いて、変体仮名を読み解けるようにする。また、短冊や和本などの調査を行う。後半は演習形式の発表とし、竹取物語の写本(影印本)を用い、翻字・現代語訳・考察をしながら作品の読解をする。

本学の図書館を有効に利用できるような基本的な知識を概説し、資料・情報検索の指導を行う。さらに、読書の習慣を身に付けるため、読書ノートを作成・提出すること。

## ●到達目標：

1. 変体仮名を学び、写本・板本を読み解けるようにする。
2. 読書領域を広げる(読書ノートの作成)。
3. 図書館を自在に利用し、辞書類・索引類を活用できるようにする。
4. 口頭発表の基本を身につける。

## ●成績評価の基準：

- ・変体仮名をおおよそ読解できている。(到達目標1)
- ・読書ノートを作成しつつ、読書領域が広がっている。(到達目標2)
- ・図書館を利用しつつ、辞書類・索引類を活用できている。(到達目標3)
- ・口頭発表を行い、それをレポートとしてまとめることができている。(到達目標4)

## ●留意事項：

オフィスアワー： 月曜日5,6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 ガイダンス 文献学・書誌学の考え方
- 2 変体仮名を読む(あ～の)
- 3 変体仮名を読む(は～ん、合字)
- 4 変体仮名を読む(歌集)
- 5 変体仮名を読む(物語)
- 6 博物館・資料館への見学
- 7 短冊の調査
- 8 和本の調査
- 9 発表についての指導
- 10 発表(1)
- 11 発表(2)
- 12 発表(3)
- 13 発表(4)
- 14 発表(5)
- 15 発表(6)

## ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

この授業は必修科目であり、大学生活の中で基礎となる大切なことを教えます。よって、原則として欠席は認められません。積極的に授業に取り組むことが求められます。また、変体仮名については、自身で積極的に習得するように心掛けてください。

## 【必携書(教科書販売)】

『字典 かな』(笠間書院)  
 石黒圭『論文・レポートの基本』(日本実業出版、第1期で購入済み)

## 【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<参考書等>  
 授業中に指示する。

## 近代文学基礎演習 [a]

[担当者] 綾目 広治・川崎 千加  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

小説を読むというのとはどういうことを学ぶ。具体的には、授業や読書ノートで扱った所説について、小説の読み方、評価の仕方、文学史的な観点などについて講義する。

## ●到達目標：

小説読解の学習について。①小説の内容分析に習熟する、②小説の方法について論及できるようになる、③小説の評価ができるようになる、④文学史的なことがらにも言及できるようになる。

## ●成績評価の基準：

受講態度や授業中の発言：20点  
 レポート：上記の①、②、③、④について、それぞれ15点の配点で評価する  
 読書ノート：20点

## ●留意事項：

オフィスアワー：火曜9・10時限(綾目)  
 月曜7・8時限(川崎)

## ●実務経験の授業への活用方法：

15週の内2コマを大学図書館での図書館利用教育等の実務経験がある教員が担当する。図書館の蔵書検索、レファレンスブックによる情報探索などの実習を通して、大学での学びに役立つ図書館活用法の基礎を身につけてもらいたい。

## ●授業予定一覧：

1. 導入1
2. 導入2
3. 導入3
4. 小説を読む
5. 小説を考える
6. 小説を批評する
7. 小説を広い観点から捉える
8. 小説を文学史的に考える
9. 吉備路文学館見学
10. 演習(発表)1
11. 演習(発表)2
12. 演習(発表)3
13. 演習(発表)4
14. 演習(発表)5
15. まとめ

試験(レポート)  
 ※二回にわたって、図書館オリエンテーションを行う。時期は初回に伝達する。

## ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

## 【必携書(教科書販売)】

『論文・レポートの基本』, 石黒圭, 日本実業出版社

## 【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<必携書>  
 文庫本(授業中に指示する)

<参考書等>  
 授業中に指示する。

## 近代文学基礎演習 [b]

[担当者] 山根 知子・川崎 千加  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

日本語日本文学科における近代文学の基礎知識を習得しながら、大学における研究方法を学び、演習形態の授業において自らの研究を口頭発表でき論文にまとめることができるようになる。

また、本学図書館を有効に利用できるよう、基本的な知識を習得し、その後図書館で資料・情報検索を実践することによって研究のための必要な調査ができるようになる。

さらに、読書の習慣を身につけ各作品の読みが多角的な文学研究へと結びつけられるように総合的な判断力を身につける。

## ●到達目標：

- ①近代文学に親しみ図書館を自在に利用でき、調査したことを研究に取り入れることができる。
- ②読書領域を広げ、多角的に文学研究を実践することができる。
- ③口頭発表の仕方や論文の書き方の基礎を身につけることができる。

## ●成績評価の基準：

- 図書館オリエンテーション：10%（到達目標①）  
 読書ノート：10%（到達目標②）  
 2回の口頭発表：40%（到達目標①、②、③）  
 期末提出論文：40%（到達目標①、②、③）

## ●留意事項：

・授業外学習に積極的に取り組むこと。

【山根】 オフィスアワーは、木曜日7,8時限。

【川崎】 オフィスアワーは、月曜日7,8時限。

## ●実務経験の授業への活用方法：

15週の内2コマを大学図書館での図書館利用教育等の実務経験がある教員が担当する。図書館の蔵書検索、レファレンスブックによる情報探索などの実習を通して、大学での学びに役立つ図書館活用法の基礎を身につけてもらいたい。

## ●授業予定一覧：

- 1 イントロダクション
- 2 近代文学における読書のすすめ・読書ノートの説明  
本の探究の仕方について
- 3 図書館オリエンテーション (1)
- 4 図書館オリエンテーション (2)
- 5 旧漢字について (漢和辞典を持参)
- 6 明治・大正期の文献を読む
- 7 「坪田譲治コレクション」見学事前学習の発表 (1)
- 8 「坪田譲治コレクション」見学事前学習の発表 (2)
- 9 「坪田譲治コレクション」見学
- 10 作品論・さまざまな分析方法の紹介
- 11 作品論の実践 レジюме作成・口頭発表についての指導・準備
- 12 作品論発表 (1)
- 13 作品論発表 (2)
- 14 作品論発表 (3)
- 15 論文作成指導
- 16 論文提出

※ 2回にわたって図書館オリエンテーションを行う。時期は初回に伝達する。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

・一人につき2回の口頭発表を行うので、それぞれのレジюме作成の準備期間に、充実したレジюме作成のための考察がしっかりできるように、発表レジюме提出日が示されたら、数週間の時間をとり準備すること。

・他者の発表レジюмеが配布されたら、発表者以外は、レジюмеを読み質問を用意するための予習をし、一方自分の発表後はその発表時に受けたアドバイスにより修整を加える復習をするなど、それぞれ約1時間の予習・復習をすること。

## 【必携書（教科書販売）】

石黒圭『論文・レポートの基本』（日本実業出版社）

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

〈必携書〉『漢和辞典』（高等学校で使用したもの）

## 近代文学基礎演習 [c]

[担当者] 綾目 広治  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

小説を読むというのはどういうことを学ぶ。具体的には、授業や読書ノートで扱った所説について、小説の読み方、評価の仕方、文学史的な観点などについて講義する。

## ●到達目標：

- 小説読解の学習について。①小説の内容分析に習熟する、②小説の方法について論及できるようになる、③小説の評価ができるようになる、④文学史的なことがらにも言及できるようになる。

## ●成績評価の基準：

受講態度や授業中の発言：20点

レポート：上記の①、②、③、④について、それぞれ15点の配点で評価する

読書ノート：20点

## ●留意事項：

オフィスアワー：火曜9・10時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 導入1
  - 2 導入2
  - 3 導入3
  - 4 小説を読む
  - 5 小説を考える
  - 6 小説を批評する
  - 7 小説を広い観点から捉える
  - 8 小説を文学史的に考える
  - 9 吉備路文学館見学
  - 10 演習（発表）1
  - 11 演習（発表）2
  - 12 演習（発表）3
  - 13 演習（発表）4
  - 14 演習（発表）5
  - 15 まとめ
- 試験（レポート）

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

『論文・レポートの基本』（第1期に購入済み）、石黒圭、日本実業出版社

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

〈必携書〉

文庫本（授業中に指示する）

〈参考書等〉

授業中に指示する。

## 近代文学基礎演習 [d]

[担当者] 山根 知子  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

日本語日文学科における近代文学の基礎知識を習得しながら、大学における研究方法を学び、演習形態の授業において自らの研究を口頭発表でき論文にまとめることができるようになる。

また、本学図書館を有効に利用できるよう、基本的な知識を習得し、その後図書館で資料・情報検索を実践することによって研究のための必要な調査ができるようになる。

さらに、読書の習慣を身につけ各作品の読みが多角的な文学研究へと結びつけられるように総合的な判断力を身につける。

## ●到達目標：

- ①近代文学に親しみ図書館を自在に利用でき、調査したことを研究に取り入れることができる。
- ②読書領域を広げ、多角的に文学研究を実践することができる。
- ③口頭発表の仕方や論文の書き方の基礎を身につけることができる。

## ●成績評価の基準：

文献調査とその活用：10%（到達目標①）  
 読書ノート：10%（到達目標②）  
 2回の口頭発表：40%（到達目標①、②、③）  
 期末提出論文：40%（到達目標①、②、③）

## ●留意事項：

- ・授業外学習に積極的に取り組むこと。
- オフィスアワーは、木曜日7,8時限。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 イントロダクション
- 2 近代文学における読書のすすめ・読書ノートの説明
- 3 作品研究・作家研究について
- 4 課題に応じて辞典・事典など参考文献の探索実践
- 5 旧漢字について（漢和辞典を持参）
- 6 明治・大正期の文献を読む
- 7 「坪田譲治コレクション」見学事前学習の発表（1）
- 8 「坪田譲治コレクション」見学事前学習の発表（2）
- 9 「坪田譲治コレクション」見学
- 10 作品論・さまざまな分析方法の紹介
- 11 作品論の実践 レジュメ作成・口頭発表についての指導・準備
- 12 作品論発表（1）
- 13 作品論発表（2）
- 14 作品論発表（3）
- 15 論文指導
- 16 論文提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・一人につき2回の口頭発表を行うので、それぞれのレジュメ作成の準備期間に、充実したレジュメ作成のための考察がしっかりできるように、発表レジュメ提出日が示されたら、数週間の時間をとり準備すること。
- ・他者の発表レジュメが配布されたら、発表者以外は、レジュメを読み質問を用意するための予習をし、一方自分の発表後はその発表時に受けたアドバイスにより修整を加える復習をするなど、それぞれ約1時間の予習・復習をすること。

## 【必携書（教科書販売）】

石黒圭『論文・レポートの基本』（日本実業出版社）（第1期に購入済み）

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

〈必携書〉『漢和辞典』（高等学校で使用したもの）

## 日本語学基礎演習 [a]

[担当者] 尾崎 喜光・川崎 千加  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

「言語について考察する」ということを、具体的課題に即して実践してみる。  
 辞書的な意味が同じ複数の表現が、地域差や年齢差、場面差等を伴いながら用いられることがある。たとえば、田中さんという知らない人から家族に電話がかかってきて、それを家族に伝えるとき、「田中とゆう人から電話！」という言い方と「田中ゆう人から電話！」という言い方が岡山にはある。引用の「と」と言われる助詞を付けるか付けないかの違いである。もともと、岡山県民だからといって全員が「と」を省略した言い方をしているわけではなく、「と」を省略しない人もいると推測される。また、「と」を省略するか否かは、話をする場の改まりの度合いによっても違うかもしれない。さらに、話し言葉か書き言葉によっても違うかもしれない。

この基礎演習では、こうした引用の「と」を付加するか否かを研究対象とし、話し言葉における使用状況が現在どのようになっているのかについて（特に岡山で）、先行研究に関する文献調査も行いつつ、共同研究によりその一端を明らかにする。

履修者は、こうした方言的特徴に関する知識を修得するとともに、調査の企画・実施（フィールドワーク）、データの蓄積・分析、発表・討論を通じて日本語の研究法を体験的に修得する。三班に分かれてのグループ活動を一部行う。また、分析結果を最後にレポートとしてまとめる力を修得する。

レポート作成の基礎力を養うため、日本語に関する任意の図書を読んだ読書ノートの作成も行う。この作成作業および指導教員が付けるコメントを熟読することにより、論理的かつレポートらしい文体による文章作成力を修得する。

## ●到達目標：

- ①研究課題が理解できる。
- ②文献や先行研究の探し方が理解できる。
- ③先行研究を読みレジュメとしてまとめて発表できる。
- ④グループ活動を通して調査が企画できる。
- ⑤調査（フィールドワーク）が実施できる。
- ⑥得られたデータを蓄積し分析できる。
- ⑦分析結果の発表ができる。
- ⑧分析結果をレポートとしてまとめることができる。
- ⑨論理的かつレポートらしい文体による文章を書くことができる。

## ●成績評価の基準：

授業への参加姿勢（出席）：10%（①、②）  
 授業への参加姿勢（調査の企画・実施・データ化・分析）：15%（④、⑤、⑥）  
 発表・討論：9%（③、④、⑦）  
 分析レポート：40%（⑧）  
 読書ノート作成（4回）：16%（⑨）  
 図書館オリエンテーション：10%（川崎先生担当分）（②）

## ●留意事項：

- 共同研究の形で授業を進めるので、足並みをそろえるため極力休まないこと。
- USBメモリーを第4回以降の授業に持ってくる。メーカーや容量は問わない。
- 分析ではパソコン（Windows）を使用する。大学の共用のPCも使えるが、現代における「筆記用具」と言えるので、個人用も使える環境を徐々に整えておくことが望ましい。
- 尾崎の担当回については、遅刻時間の長短にかかわらず、遅刻2回で欠席1回とみなす。ただし、公共交通機関の遅延など本人の責めに帰ることができない理由による遅刻は、遅延証明書添付でその旨の申告があった場合に限り遅刻扱いにしない。
- オフィスアワーは次のとおり。何でも遠慮なく相談に来てほしい。

尾崎：金曜日7・8限  
 川崎：月曜日7・8限

## ●実務経験の授業への活用方法：

15週の内2コマを大学図書館での図書館利用教育等の実務経験がある教員が担当する。図書館の蔵書検索、レファレンスブックによる情報探索などの実習を通して、大学での学びに役立つ図書館活用法の基礎を身につけてもらいたい。（川崎）  
 国立国語研究所において社会言語学的調査の企画・立案・実施に関する業務に携わった経験から、学生に対し調査の企画・立案・実施に関する適切な指導をすることが可能である。（尾崎）

## ●授業予定一覧：

- 第1回 ガイダンス、履修者の自己紹介、班分け
  - 第2回 先行研究の紹介、先行研究の探し方（1）
  - 第3回 先行研究の探し方（2）-図書館にて-
  - 第4回 図書館オリエンテーション（1）
  - 第5回 図書館オリエンテーション（2）
  - 第6回 エクセルによるデータ入力と分析方法
  - 第7回 各班による研究計画についての検討
  - 第8回 各班による研究計画についての報告
  - 第9回 先行研究調査班の報告（1）
  - 第10回 先行研究調査班の報告（2）
  - 第11回 話し言葉調査班の中間報告
  - 第12回 先行研究調査班の報告（3）
  - 第13回 話し言葉調査班の報告（1）
  - 第14回 話し言葉調査班の報告（2）
  - 第15回 話し言葉調査班の報告（3）、全体のまとめ
- \*分析レポートは8月上旬頃までに完成させて提出。締切日は授業の中で示す。  
 \*第4回・第5回は図書館オリエンテーションを予定する。確定した日時等については授業開講後に連絡する。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

石黒圭著『論文・レポートの基本』（日本実業出版社）

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 日本語学基礎演習 [b]

[担当者] 星野 佳之・川崎 千加  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

「言語について考察する」ということを、具体的課題に即して実践してみる。考察内容は、「類義語の意味の違いと共通点」。

## ●到達目標：

- 1 日本語学的な問題の捉え方や考察のしかたを身につける。
- 2 発表・レポートの方法を、実践を通じて身につけること。
- 3 読書レポートを作成すること。

## ●成績評価の基準：

- ・口頭発表（到達目標1,2）
  - ・質疑応答など、授業への積極的な参加姿勢（到達目標1,2）
  - ・期末レポート（到達目標1,2）
  - ・読書レポート（到達目標3）
  - ・図書館オリエンテーション課題（到達目標1,2）
- これらを総合的に判断する。

## ●留意事項：

演習形態の授業であるので、積極的な参加姿勢が求められる。

【星野】 オフィスアワーは、木曜日7,8時限。

【川崎】 オフィスアワーは、月曜日7,8時限。

授業に関する連絡をmanaフォリオを通じて行う場合がある。また、読書レポートの提出をmanaフォリオを通じて行う。

よって、受講生は必ず、初回までにmanaフォリオのリマインダー機能を使用可能な状況にしておくこと。

## ●実務経験の授業への活用方法：

15週の内2コマを大学図書館での図書館利用教育等の実務経験がある教員が担当する。図書館の蔵書検索、レファレンスブックによる情報探索などの実習を通して、大学での学びに役立つ図書館活用法の基礎を身につけてもらいたい。

## ●授業予定一覧：

- 第1回 授業の概要を説明する。具体例を挙げて、発表のしかたを説明する（「あらし」と「きそう」の予定）。発表の分担を決める。
- 第2回 具体例を挙げて、発表のしかたを説明する（「きれい」と「うつくしい」の予定）。
- 第3回 具体例を挙げて、発表のしかたを説明する（「さける」と「よける」の予定）。また、口頭発表・レポートについて説明する。
- 第4回 図書館オリエンテーション（川崎）
- 第5回 〃（川崎）
- 第6回 口頭発表
- 第7回 口頭発表
- 第8回 口頭発表
- 第9回 口頭発表
- 第10回 口頭発表
- 第11回 口頭発表
- 第12回 口頭発表
- 第13回 口頭発表
- 第14回 口頭発表
- 第15回 まとめ

※ 具体的な内容については、初回の授業で説明する。

※ 図書館オリエンテーションの実施時期は前後する事がある。具体的な実施時期については、初回に伝達する。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回、自分が発表担当者でない週についても、テーマとなっている語を各自考察した上で授業に臨むこと。

## 【必携書（教科書販売）】

『この一冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』、石黒圭、日本実業出版社

『出星前夜』、飯嶋和一、小学館

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 日本語学基礎演習 [c]

[担当者] 尾崎 喜光  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

「言語について考察する」ということを、具体的課題に即して実践してみる。

辞書的な意味が同じ複数の表現が、地域差や年齢差、場面差等を伴いながら用いられることがある。たとえば「言う」という動詞の過去形には、共通語形の「イック」の他、方言形の「イウタ」（実際の発音は「ユウタ」）もある。動詞の「買ッタ」と「買ウタ」の関係も同様である。形容詞にも、たとえば「高クナル」と「高ウナル」、「涼シクナル」と「涼シウナル」などに同様の違いが認められる。つまり方言形では「ウ」になるのがポイントとなるが、こうした語形や現象のことを<ウ音便>と呼んでいる。

この基礎演習では、この<ウ音便>という現象について、先行研究に関する文献調査も行いつつ、共同研究によりその一端を明らかにする。

履修者は、こうした方言的特徴に関する知識を修得するとともに、調査の企画・実施（フィールドワーク）、データの蓄積・分析、発表・討論を通じて日本語の研究法を体験的に修得する。三班に分かれてのグループ活動を一部行う。また、分析結果を最後にレポートとしてまとめる力を修得する。

レポート作成の基礎力を養うため、日本語に関する任意の図書を読んだ読書ノートの作成も行う。この作成作業および指導教員が付けるコメントを熟読することにより、論理的かつレポートらしい文体による文章作成力を修得する。

## ●到達目標：

- ① 研究課題が理解できる。
- ② 先行研究の探し方が理解できる。
- ③ 先行研究を読みレジュメとしてまとめて発表できる。
- ④ グループ活動を通して調査が企画できる。
- ⑤ 調査（フィールドワーク）が実施できる。
- ⑥ 得られたデータを蓄積し分析できる。
- ⑦ 分析結果の発表ができる。
- ⑧ 分析結果をレポートとしてまとめることができる。
- ⑨ 論理的かつレポートらしい文体による文章を書くことができる。

## ●成績評価の基準：

授業への参加姿勢（出席）：10%（①、②）  
 授業への参加姿勢（調査の企画・実施・データ化・分析）：25%（④、⑤、⑥）  
 発表・討論：9%（③、④、⑦）  
 分析レポート：40%（⑧）  
 読書ノート作成（4回）：16%（⑨）

## ●留意事項：

共同研究の形で授業を進めるので、足並みをそろえるため極力休まないこと。

USBメモリーを第4回以降の授業に持ってくる。メーカーや容量は問わない。

分析ではパソコン（Windows）を使用する。大学の共用のPCも使えるが、現代における「筆記用具」と言えるので、個人用も使える環境を徐々に整えておくことが望ましい。

なお、遅刻時間の長短にかかわらず、遅刻2回で欠席1回とみなす。ただし、公共交通機関の遅延など本人の責めに帰ることができない理由による遅刻は、遅延証明書添付でその旨の申告があった場合に限り遅刻扱いにしない。

オフィスアワーは「金曜日7・8限」である。事前予約の上、どんなことでも遠慮なく相談に来てほしい。

## ●実務経験の授業への活用方法：

国立国語研究所において社会言語学的調査の企画・立案・実施に関する業務に携わった経験から、学生に対し調査の企画・立案・実施に関する適切な指導をすることが可能である。

## ●授業予定一覧：

- 第1回 ガイダンス、履修者の自己紹介、班分け
- 第2回 先行研究の紹介
- 第3回 先行研究の探し方（1）
- 第4回 先行研究の探し方（2）－図書館にて－
- 第5回 エクセルによるデータ入力と分析方法
- 第6回 各班による研究計画についての検討
- 第7回 各班による研究計画についての報告
- 第8回 先行研究調査班の報告（1）
- 第9回 先行研究調査班の報告（2）
- 第10回 話し言葉調査班の中間報告（1）
- 第11回 話し言葉調査班の中間報告（2）
- 第12回 先行研究調査班の報告（3）
- 第13回 話し言葉調査班の報告（1）
- 第14回 話し言葉調査班の報告（2）
- 第15回 話し言葉調査班の報告（3）、全体のまとめ
- \*分析レポートは2月中旬頃までに完成させて提出。締切日は授業の中で示す。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

石黒圭著『論文・レポートの基本』（日本実業出版社）

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 日本語学基礎演習 [d]

[担当者] 星野 佳之  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

「言語について考察する」ということを、具体的課題に即して実践してみる。考察内容は、「類義語の意味の違いと共通点」。

## ●到達目標：

日本語学的な問題の捉え方や考察のしかたを身につける。  
 発表・レポートの方法を、実践を通じて身につけること。  
 読書レポートを作成すること。

## ●成績評価の基準：

- ・口頭発表（到達目標1,2）
  - ・質疑応答など、授業への積極的な参加姿勢（到達目標1,2）
  - ・期末レポート（到達目標1,2）
  - ・読書レポート（到達目標3）
- これらを総合的に判断する。

## ●留意事項：

演習形態の授業であるので、積極的な参加姿勢が求められる。  
 オフィスアワーは、木曜日 7・8時限。

授業に関する連絡をマナバフォリオを通じて行う場合がある。また、読書レポートの提出をマナバフォリオを通じて行う。  
 よって、受講生は必ず、初回までにマナバフォリオのリマインダー機能を使用可能な状況にしておくこと。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 第1回 授業の概要を説明する。具体例を挙げて、発表のしかたを説明する（「あらしい」と「きそう」の予定）。発表の分担を決める。
- 第2回 具体例を挙げて、発表のしかたを説明する（「きれいな」と「うつくしい」の予定）。
- 第3回 具体例を挙げて、発表のしかたを説明する（「さける」と「よける」の予定）。また、口頭発表・レポートについて説明する。
- 第4回 口頭発表
- 第5回 口頭発表
- 第6回 口頭発表
- 第7回 口頭発表
- 第8回 口頭発表
- 第9回 口頭発表
- 第10回 口頭発表
- 第11回 口頭発表
- 第12回 口頭発表
- 第13回 口頭発表
- 第14回 口頭発表
- 第15回 まとめ
- ※ 具体的な内容については、初回の授業で説明する。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回、自分が発表担当でない週についても、テーマとなっている語を各自考察した上で授業に臨むこと。

## 【必携書（教科書販売）】

『出星前夜』、飯嶋和一、小学館

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『この1冊できちんと書ける！ 論文・レポートの基本』、石黒圭、日本実業出版社（第1期購入済み）

## 古典文学入門

[担当者] 東城 敏毅  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 講義・演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

本授業は、高校で古典を学ばなかった学生、古典に興味のなかった学生にも理解できるように、古典文法や古典常識、漢文の訓読方法を確認しつつ、様々な作品を読み進めていくことを目的とする。今年度は日本文学に見られる「桜」に焦点を当てる。日本文学に見られる「桜」が、和歌においてどのように詠まれ、また文学作品に取り込まれてきたのかを概観することにより、古典文学の世界観、ならびに日本文化の美意識の形成について考察する。一つのテーマのもと、実際の作品に触れてみることにより、古典の「読み方」を追求する。

## ●到達目標：

- 1 古典文法の習得を確認することができる。
- 2 古典の表現方法や技法について説明できる。
- 3 漢文訓読の方法を確認できる。
- 4 日本文化の形成について考察することができる。
- 5 物事を多角的に捉える視点を応用できる。

## ●成績評価の基準：

授業内レスポンスカード40%（到達目標1, 2, 3）  
 レポート60%（到達目標4, 5）

## ●留意事項：

オフィスアワー：月曜7・8時限  
 また、質問は随時受け付ける（メールでも可 tojyo@post.ndsu.ac.jp）

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 導入—古典の基礎、日本文学の中の桜—
- 2 『古事記』『日本書紀』における桜—神話のモチーフ—
- 3 『万葉集』における桜—桜の原型—
- 4 『古今和歌集』における桜—桜文化の形成—
- 5 『枕草子』における桜—桜の舞台装置—
- 6 『源氏物語』における桜①—秘められた桜—
- 7 『源氏物語』における桜②—宇治十帖への流れ—
- 8 『新古今和歌集』における桜—散る桜、そして絶望の桜—
- 9 西行と能における桜—実存としての桜と幽玄の桜—
- 10 レポートの書き方
- 11 近代文学における「憂鬱なる桜」
- 12 イデオロギーとしての桜、J-POPにおける桜ソング
- 13 漢文を読む①—漢文の受容と古代文学—
- 14 漢文を読む②—漢文における「花」—
- 15 漢文を読む③—漢詩における「花」—、授業の総括

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書等を随時紹介する。それらをもとに、積極的に多くの古典作品を読み、その面白さに触れてほしい。また、積極的な質問や文献調査等、十分な授業外学習も各自進めてほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

『新日本文学史』、秋山虔・三好行雄編、文英堂

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

教科書は、「日本文学史Ⅰ」「日本文学史Ⅱ」の教科書（『新日本文学史』）を持参のこと。「日本文学史」の授業を履修していない学生は要購入。

<参考書等>

その他、参考書等は、授業中に適宜紹介する。

なお、教材としてレジュメを随時配布する。

## 日本語学概論 I

[担当者] 尾崎 喜光  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

本授業では、言語の中核的要素の一つである「音声」について取り上げ、日本語音声の基本的特徴を概説する。すなわち「日本語音声学概論」を講義内容とする。共通語の音声を中心に解説するが、方言の音声や外国人の日本語音声についても言及する。

履修者は、日本語音声に関する知識ならびに音声認知力と音声実現力を修得する。

## ●到達目標：

- ①日本語の音声の基本的特徴について説明できる。
- ②日本語の類似した音声についての判別（聞き分け）ができる。
- ③指示された音声が発音できる。

## ●成績評価の基準：

授業への参加姿勢（出席）：10%（①、②、③）

毎授業後に行なう小テスト：20%（①、②）

期末試験：70%（①、②）

## ●留意事項：

授業では下記の必携書を使うが、必要に応じて参照するための参考資料として用いるにとどめ（ただし毎回持ってくる）、基本的には毎回配布する資料により授業を進める。

受講者数が多いため、授業は情報伝達にウェイトを置く講義形式により進める。そのため、インタラクティブな場面は少ないが、少し立ち止まって自分の発音を内省・観察したり、音声を聞き分ける時間を随所に挟む。

毎回授業の最後に、その回の確認テスト（小テスト）を行なう。

遅刻時間の長短にかかわらず、遅刻2回で欠席1回とみなす。ただし、公共交通機関の遅延など本人の責めに帰ることができない理由による遅刻は、遅延証明書添付でその旨の申告があった場合に限り遅刻扱いにしない。

オフィスアワーは「金曜日7・8限」である。事前予約の上相談に来ること。

## ●実務経験の授業への活用方法：

国立国語研究所において多人数調査の音声データの聞き取り業務に携わった経験から、学生に対しさまざまな音声を自ら提示することが可能である。

## ●授業予定一覧：

- 第1回 ガイダンス、日本語の音声を学ぶ必要性、言語研究の中での音声学の位置づけ
  - 第2回 3つの音声学、言葉を“分解する”
  - 第3回 音節と拍
  - 第4回 外国人にとっての拍の難しさ
  - 第5回 音声器官の名称と働き－母音と子音を作る場所－
  - 第6回 「基本母音」と日本語の母音
  - 第7回 IPA（国際音声記号）の母音の表
  - 第8回 日本語の子音（1）－破裂音－
  - 第9回 日本語の子音（2）－鼻音－
  - 第10回 日本語の子音（3）－鼻音（続）：撥音－
  - 第11回 日本語の子音（4）－摩擦音・破擦音・その他－
  - 第12回 母音の無声化－「北」のキの発音－
  - 第13回 日本語の子音の整理
  - 第14回 日本語（共通語）のアクセント
  - 第15回 方言のアクセント、イントネーションとプロミネンス
- 期末試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

斎藤純男『日本語音声学入門 改定版』（三省堂）定価2,000円＋税

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 日本語学概論 II

[担当者] 星野 佳之  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

日本語学の各領域でどのようなことが問題とされ、かつどのような事までが明らかにされているのか、説明する。  
 この授業で扱う領域は、主に文法論と意味論。

## ●到達目標：

授業を通して、日本語学という学問の輪郭を各自掴んで貰いたい。

## ●成績評価の基準：

期の途中に数回の小テストと、最終回に試験を行う。これに100点を配当する。

授業回数の三分の二に出席が満たない場合には単位認定の資格を与えないが、出席が評価の対象になることはない。

## ●留意事項：

受講生は必ず、履修登録中にマナバフォリオのリマインダー機能を使用可能な状況にしておくこと。

オフィスアワー：木曜日 7・8時限。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 日本語の系統について
2. 方言について（1）
3. 方言について（2）
4. 文字論総論
5. 各文字体系の役割
6. 文法と意味
7. 意味論（1）
8. 意味論（2）
9. 意味論（3）
10. 文法論各論（1）
11. 文法論各論（2）
12. 文法論各論（3）
13. 文法学説史
14. 敬語について（1）
15. 敬語について（2）

定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

授業中使用するプリントの配布はマナバフォリオを通じて行う。また、重要な連絡をこれを通じて行う場合もあるので、プリントの掲載があった場合は、次回までに各自ダウンロード・プリントアウトして講義に臨むこと。

## 日本文学概論Ⅰ

[担当者] 原 豊二  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-2000-o2

## ●本授業の概要：

日本文学の全体像を主に形態・理念・研究の観点から捉え、さらに関連する諸課題を考察する。なお、本講義においては古典文学について講義する。

## ●到達目標：

1. 日本文学（古典文学）の形態・理念・研究の展開を把握することができる。
2. 日本文学（古典文学）に関連する諸課題を考察することができる。
3. 日本文学（古典文学）に向き合うための基礎知識を習得することができる。

## ●成績評価の基準：

- ・日本文学（古典文学）の形態・理念・研究の展開を理解でき、定期試験においてそのことが十分に認められる。（到達目標1）
- ・日本文学（古典文学）に関連する諸課題を理解でき、定期試験においてそのことが十分に認められる。（到達目標2）
- ・日本文学（古典文学）に向き合うための基礎知識を身につけ、定期試験においてそのことが十分に認められる。（到達目標3）

## ●留意事項：

オフィスアワー 月曜日 5,6時限  
 講義で紹介した文学作品や一般書・研究書をできるだけ読むこと。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 日本文学の源流と領域
2. 日本文学の形態 (1) 韻文、特に和歌
3. 日本文学の形態 (2) 散文、特に物語
4. 日本文学の形態 (3) その他（日記文学・劇文学・批評文学など）
5. 日本文学の理念 (1) ますらをぶり、たわやめぶり
6. 日本文学の理念 (2) あはれ、をかし、つれづれ
7. 日本文学の理念 (3) 無常、幽玄
8. 日本文学の理念 (4) 妖艶、有心
9. 日本文学の理念 (5) 風雅、わび、さび
10. 日本文学の理念 (6) 滑稽、粋、通、意気
11. 日本文学の研究 (1) 古典文学研究史、作家論とテキスト論
12. 日本文学の研究 (2) 書誌学、文献学
13. 日本文学の研究 (3) 解釈学、文芸学的研究、歴史社会学的研究、民俗学的研究（話型）、文学史的研究
14. 日本文学の課題 (1) 現代社会と古典文学、戦争と文学、環境と文学
15. 日本文学の課題 (2) 地域と文学、日本文学の国際化、女性と文学
16. 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

きちんとノートを取り、講義内容を理解すること。  
 前回の講義内容を必ず復習して出席すること。

## 【必携書（教科書販売）】

日本文学概論ノート古典編、原豊二、武蔵野書院

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 適宜、プリントを配布する。

## 日本文学概論Ⅱ

[担当者] 綾目 広治  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-2000-o2

## ●本授業の概要：

文学理論についての基礎知識を習得しつつ、文学研究についての方法的考察を行う。

## ●到達目標：

文学そのものおよび文学研究の方法に関して、①文学理論の基礎を理解する、②文学理論と哲学や思想との関わりについて理解する、③それぞれの文学理論同士の関係について理解する、④文学の諸理論を思想的に位置づける。

## ●成績評価の基準：

出席：20点  
 筆記試験：80点、①について25点、②について25点、③について15点、④について15点の配分で評価する。

## ●留意事項：

オフィスアワー：火曜9・10時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 導入
2. 新カント派と解釈学
3. 現象学
4. ニュークリティシズム
5. カントヘーゲル
6. ロシアフォルマリズム
7. テキスト論と構造主義 1
8. テキスト論と構造主義 2
9. フィッシュの「解釈共同体」
10. ブルデュー社会学
11. 文学と社会 1
12. 文学と社会 2
13. 文学と倫理 1
14. 文学と倫理 2
15. まとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前に授業で扱う箇所について、理解を深めておくこと。特にレポートには、日々の文献研究で深めたテーマに関してより多角的に、発展的な論述を求める。積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習を進めてほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

プリントを配布

## 日本語史 I

[担当 者] 星野 佳之  
 [開 講 期] 1期  
 [授 業 形 態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-2000-o2

## ●本授業の概要：

日本語の変遷について説明する。音韻・語彙などの領域別の日本語の歴史を把握し、日本語全体の歴史の大まかな流れを再確認する。主に、系統論、書記史、文法史について説明する。

## ●到達目標：

- 1 「言語が変化する」とはどういうことか、具体的にイメージできるようになる。
- 2 またそれを各時代の資料からどのように再構成するのか、その方法について理解を及ぼす。

## ●成績評価の基準：

期の途中に数回の小テストと、最終回に試験を行う。これに100点を相当する（到達目標1,2）。

授業回数の三分の二に出席が満たない場合には単位認定の資格を与えないが、出席が評価の対象になることはない。

## ●留意事項：

受講生は必ず、履修登録期間中にマナバフォリオのリマインダー機能を使用可能な状況にしておくこと。

オフィスアワー：木曜日 7・8時限。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 言語の系統
  2. 日本語の起源
  3. 文字以前から表記の獲得まで
  4. 古事記の達成
  5. 万葉仮名の時代
  6. 木簡の教えること
  7. 仮名の誕生と発達
  8. 仮名遣いの誕生
  9. 「定家仮名遣い」について
  10. 文体 (1) 一口頭語と書記言語の分離
  11. 文体 (2) 一言文一致
  12. 文法史 (1)
  13. 文法史 (2)
  14. 文法史 (3)
  15. 文法学史
- 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

授業中使用するプリントの配布はマナバフォリオを通じて行う。プリントの掲載があった場合は、次回までに各自ダウンロード・プリントアウトして講義に臨むこと。

## 日本語史 II

[担当 者] 尾崎 喜光  
 [開 講 期] 2期  
 [授 業 形 態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-2000-o2

## ●本授業の概要：

本授業では日本語の「音声」の歴史・変遷について概説する。録音・録画資料によって知ることのできる近過去の日本語の音声、文献を通じて知ることのできるそれ以前の日本語の音声に加え、現在まさに変化しつつある音声や、その結果予想される将来の日本語の音声についても解説する。

履修者は、日本語音声の歴史・変遷に関する知識を修得する。

## ●到達目標：

- ①日本語の音声の歴史・変遷について説明できる。
- ②音声変化の理由について説明できる。
- ③現在進行中の音声変化について説明できる。

## ●成績評価の基準：

授業への参加姿勢（出席）：10% (①、②、③)  
 毎授業後に行なう小テスト：20% (①、②、③)  
 期末試験：70% (①、②、③)

## ●留意事項：

下記の必携書のうち、音声の歴史に関する部分を講義で用いる。テキストには「問」が示されているので、その箇所では立ち止まりいっしょに考える。テキストを用いない回は配布資料により講義を進める。ただしテキストは毎回持ってくること。

毎回授業の最後に、その回の確認テスト（小テスト）を行なう。

遅刻時間の長短にかかわらず、遅刻2回で欠席1回とみなす。ただし、公共交通機関の遅延など本人の責めに帰することができない理由による遅刻は、遅延証明書添付でその旨の申告があった場合に限り遅刻扱いにしない。

オフィスアワーは「金曜日7・8限」である。事前予約の上相談に来ること。

## ●実務経験の授業への活用方法：

国立国語研究所において、現在進行中の音声変化に関する多人数調査の録音データの聞き取り業務に携わった経験から、学生に対し現在進行中の音声変化についてデータを提示しつつ説明することが可能である。

## ●授業予定一覧：

- 第1回 ガイダンス、言葉の歴史を学ぶ必要性
  - 第2回 録音・録画資料によって知ることのできる近過去の音声
  - 第3回 録音資料のない昔の音声をどう推測するか？ (1)
  - 第4回 録音資料のない昔の音声をどう推測するか？ (2)
  - 第5回 上代特殊仮名遣い-昔の日本語は母音が8つ？ - <露出形>と<被覆形>- 「目」と「臉」の関係-
  - 第6回 漢字音の取り込み- 「行」の発音-
  - 第7回 開拗音・合拗音(クワ・グワ)の発生・消滅・残存  
四つ仮名(ジズチツ)の消滅・残存
  - 第8回 ケース2 音便  
漢語のオ段長音の開合の区別の発生・消滅・残存
  - 第9回 サ行音の音便、「業の業にあいたら桜に止まれ♪」  
連母音の融合- 『浮世風呂』に見る江戸の発音の変化-
  - 第10回 ケース3 清濁
  - 第11回 ラ行音  
語中のガ行鼻濁音の発生・衰退  
入り渡り鼻音
  - 第12回 ケース4 ハ行音
  - 第13回 外来語音の取り込み- 「ディズニールランド」 -  
ケース5 アクセント (1)
  - 第14回 ケース5 アクセント (2)
  - 第15回 京都のアクセントの変化、  
方言アクセントの共通語化、方言アクセントと共通語アクセントの使い分け
- 期末試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

半沢幹一他編『ケーススタディ 日本語の歴史』(おうふう) 定価1,800円+税

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 日本文学史Ⅰ

[担当者] 木下 華子  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

テキストを読み進めながら、日本文学の歴史的な流れについて学ぶ。日本文学史Ⅰでは、上代（大和・奈良）・中古（平安）から、中世（平安末・鎌倉・室町）に至るまでの文学の歴史を概観する。授業内で、可能な限り作品を紹介し、実際の作品本文にも触れることで、作品に基づいた具体的な文学史の動態を把握することを目的とする。

## ●到達目標：

1. 上代・中古・中世の日本文学史の動態を理解し、説明することができる。
2. 上代・中古・中世の日本文学の特質と方法を理解し、説明することができる。
3. 時代背景や価値観と文学作品との関係を理解し、説明することができる。

## ●成績評価の基準：

- ・小テスト 20%（到達目標1,2,3）
- ・定期試験 80%（到達目標1,2,3）

## ●留意事項：

高校の時に日本史を選ばないものは、日本史の教科書を読んでおくこと。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 導入 文学史の必要性
  2. 上代(1)「うた」の発生・「起源」への希求
  3. 上代(2) 村落共同体の崩壊と仏教説話
  4. 上代(3)「うた」から和歌へ・集団から個人へ
  5. 上代(4)『万葉集』の世界
  6. 中古(1) 平安遷都と漢文学
  7. 中古(2) 勅撰和歌集の歴史
  8. 中古(3)「物語」①新しい虚構の様式としての物語・歌物語
  9. 中古(4)「物語」②作り物語（『源氏物語』他）・歴史物語
  10. 中古(5) 日記・随筆
  11. 中世(1) 説話文学の世界
  12. 中世(2)「平家物語」の時代（平安時代末から鎌倉時代にかけての文学）
  13. 中世(3) 南北朝・室町時代の文学
  14. 中世(4) 中世和歌・連歌の世界
  15. 中世(5) 日記・紀行文学・能・狂言
- 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

私たちの言葉・価値観は、ゼロから新しく生み出されるものではなく、常に歴史の積み重ねの上にしか成立しない。文学も同様であり、歴史的な視点・考え方を持たなければ、作品や言説を読み解くことは困難になる。日本文学を学び、研究する上での基礎となるのが文学史であるという理解のもとに、授業に参加してほしい。

授業中に様々な作品を紹介するが、一つ一つを時間をかけて読み込むことは、授業の性質上、難しい。文学研究の原点は「読む」ことにある。興味をもった作品は図書館等で探し、積極的に読んでほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

『新日本文学史』、秋山虔・三好行雄、文英堂

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

授業中に指示する。

## 日本文学史Ⅱ

[担当者] 野澤 真樹・綾目 広治  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

テキストを読み進めながら、前近代の日本文学の歴史について学びます。日本文学史Ⅱでは、近世（江戸時代）から近代初頭にかけての文学の歴史を概観し、また作品に触れます。

## ●到達目標：

- ① 日本文学史の流れの把握を通して、日本文学の底流にある本質を説明できる。
- ② 前近代の日本文学の特質と方法について説明できる。
- ③ 時代背景について説明できる。

## ●成績評価の基準：

- 定期試験80%（①②③）
- 授業時の課題20%（②③）

## ●留意事項：

「日本文学史Ⅰ」を履修していることが望ましい。

オフィスアワー：（綾目）火曜日9・10時限、（野澤）月曜日5・6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 近世文学の特色
2. 近世小説（前期）一仮名草子・浮世草子
3. 近世小説（中期）一読本・談義本
4. 近世小説（中期）一黄表紙・洒落本
5. 近世小説（後期）一滑稽本・人情本
6. 近世の演劇一浄瑠璃・歌舞伎
7. 近世の韻文
8. 近代文学の出發
9. 浪漫主義
10. 自然主義と反自然主義
11. 大正諸流派
12. 文学の前衛
13. 転向と日本主義
14. 戦後派文学と第三の新人
15. 高度成長期の文学
16. 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

各回の授業で扱う文献に目を通し、時代背景を説明できるようにしておくこと。

## 【必携書（教科書販売）】

『新日本文学史』（文英堂、「日本文学史Ⅰ」と同一書）

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

授業中に指示する。

## 日本語音声学Ⅰ

[担当者] 中東 靖恵  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-2000-o2

## ●本授業の概要：

日本語にはどのような音があり、それらの音がどのように発音されるのかを実践的に学ぶとともに、各地方言音声の特徴、歴史的変遷、外国語との対照、日本語学習者の音声の実態など、社会言語学や日本語教育学の観点から日本語音声の特徴を眺める。

## ●到達目標：

1. 日本語の音声・音韻の特徴を知る。
2. 日本語教育や外国語教育に必要な日本語音声学・音韻論の基礎的知識を身につける。

## ●成績評価の基準：

1. 授業に対するコメント（質問も含む）30%（到達目標1, 2）
2. 定期試験70%（到達目標1, 2）

## ●留意事項：

「日本語音声学Ⅱ」も併せて履修して欲しい。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 音声とは何か：音声学の研究対象、音声生成のしくみ
2. 音声学の領域：音声学の3分野、IPA
3. 母音 (1)：世界の言語の母音、基本母音
4. 母音 (2)：日本語の母音体系
5. 母音 (3)：各地方言の母音
6. 子音 (1)：世界の言語の子音、子音のバラエティ
7. 子音 (2)：日本語の子音体系、各地方言の子音
8. 子音 (3)：カ行・ガ行の子音
9. 子音 (4)：サ行・ザ行の子音
10. 子音 (5)：タ行・ダ行の子音
11. 子音 (6)：ハ行・バ行・パ行の子音
12. 子音 (7)：ナ行・マ行・ヤ行・ワ行・ラ行の子音
13. 子音 (8)：拗音およびモーラ音素
14. 日本語の音韻体系、五十音図の配列
15. まとめ

定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で、授業内容に関する参考図書、参考論文を紹介するので興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めるとともに、日々問題意識を持って日本語音声の観察をして欲しい。

## 【必携書（教科書販売）】

日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学 (CD付), 鹿島 央, スリーエーネットワーク

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

斎藤純男 (2006) 『日本語音声学入門 改訂版』三省堂  
 窪蘭晴夫 (1999) 『日本語の音声』岩波書店

## 日本語音声学Ⅱ

[担当者] 中東 靖恵  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-2000-o2

## ●本授業の概要：

日本語の音節・リズム・アクセント・イントネーション・プロミネンス・ポーズ・テンポについて実践的に学ぶとともに、各地方言音声の特徴、歴史的変遷、外国語との対照、日本語学習者の音声の実態など、社会言語学や日本語教育学の観点から眺める。

## ●到達目標：

1. 日本語音声の超分節的要素の特徴を知る。
2. 日本語教育や外国語教育に必要な日本語音声学・音韻論の基礎的知識を身につける。

## ●成績評価の基準：

1. 授業に対するコメント（質問も含む）30%（到達目標1, 2）
2. 定期試験70%（到達目標1, 2）

## ●留意事項：

「日本語音声学Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. モーラ（拍）とシラブル（音節）
2. リズム (1)：世界の言語におけるリズム
3. リズム (2)：日本語のリズム
4. リズム (3)：日本語のリズム単位、リズムユニット
5. アクセント (1)：世界の言語におけるアクセント
6. アクセント (2)：日本語のアクセント
7. アクセント (3)：アクセントの地域差
8. アクセント (4)：アクセントの型とその種類
9. アクセント (5)：方言アクセントにおける世代差
10. アクセント (6)：複合名詞・人名・地名のアクセント
11. アクセント (7)：外来語のアクセント、平板型化
12. イントネーション
13. プロミネンス
14. ポーズ・テンポ
15. 音声教育の実践例：VT法の理論と実際

定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で、授業内容に関する参考図書、参考論文を紹介するので興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めるとともに、日々問題意識を持って日本語音声の観察をして欲しい。

## 【必携書（教科書販売）】

日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学 (CD付), 鹿島 央, スリーエーネットワーク

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

戸田貴子 (2004) 『日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク  
 窪蘭晴夫監修 (1999) 『日本語の発音教室』くろしお出版

## 日本語文法論Ⅰ

[担当者] 星野 佳之  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

日本語の文法について、概説する（現代語）。

## ●到達目標：

- 1 文法とは言語のどういう範疇であるかを理解する。
  - 2 今まで学習してきた文法体系（いわゆる学校文法）を相対化する目を養う。
- 日本語の文法をどう把握すべきか、大まかなりとも各自のイメージを持ってもらいたい。

## ●成績評価の基準：

期の途中に数回の小テストと、最終回に試験を行う。これに100点を配当する（到達目標1,2）。  
 授業回数の三分の二に出席が満たない場合には単位認定の資格を与えないが、出席が評価の対象になることはない。

## ●留意事項：

授業の内容上、講義はいわゆる学校文法の理解の上に成り立つ。学校文法を授業中に復習・確認することは最低限に抑えたいので、履修する場合は、高校までに学習した文法をなるべく早い時点で復習することが必要となる。

オフィスアワーは、木曜日 7・8時限。

受講生は必ず、初回までにマナバフォリオのリマインダー機能を使用可能な状況にしておくこと。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. イントロダクション 「文法を考える」ということ
  2. 「品詞」とは何か
  3. 連用機能、連用形、連用副詞
  4. 連体機能、連体形、連体副詞
  5. 「用言」とは何か
  6. 「助動詞」とは何か
  7. 助動詞 各論1
  8. 助動詞 各論2
  9. 助動詞 各論3
  10. 「格」について
  11. 「格」関係と「副助詞」
  12. 連用副詞といわゆる「陳述副詞」
  13. 副詞の層と述語層の対応関係
  14. いわゆる「感動詞」について
  15. まとめ
- 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

高校までに使っていた文法教材類を持参すること。持っていない場合は購入すること（任意のものでよい）。  
 授業中使用するプリントの配布はマナバフォリオを通じて行う。  
 プリントの掲載があった場合は、次回までに各自ダウンロード・プリントアウトして講義に臨むこと。

## 日本語文法論Ⅱ

[担当者] 星野 佳之  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

日本語の文法について、概説する（古代語）。

## ●到達目標：

- 1 文法とは言語のどういう範疇であるかを理解する。
  - 2 今まで学習してきた文法体系（いわゆる学校文法）を相対化する目を養う。
- 日本語の文法をどう把握すべきか、大まかなりとも各自のイメージを持ってもらいたい。

## ●成績評価の基準：

期の途中に数回の小テストと、最終回に試験を行う。これに100点を配当する（到達目標1,2）。  
 授業回数の三分の二に出席が満たない場合には単位認定の資格を与えないが、出席が評価の対象になることはない。

## ●留意事項：

授業の内容上、講義はいわゆる学校文法の理解の上に成り立つ。学校文法を授業中に復習・確認することは最低限に抑えたいので、履修する場合は、高校までに学習した文法をなるべく早い時点で復習することが必要となる。  
 また、古文読解に自信のない受講者は、古典文法の復習と、古典文学作品の通読を、なるべく早い段階に行う必要がある。

オフィスアワーは、木曜日 7・8時限。

受講生は必ず、初回までにマナバフォリオのリマインダー機能を使用可能な状況にしておくこと。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. イントロダクション 古代語をよむということ
  2. 上代語の文法 「活用が整備される」ということ
  3. 上代語の文法 形容詞の発達
  4. 古代語助動詞の変遷 テンスとアスペクト 1
  5. 古代語助動詞の変遷 テンスとアスペクト 2
  6. 古代語助動詞の変遷 テンスとアスペクト 3
  7. 準体法 1
  8. 準体法 2
  9. 準体法 3
  10. 同格の「の」
  11. 主格の「の」 1
  12. 主格の「の」 2
  13. 連体形結びについて
  14. 係り結びの理解
  15. まとめ 古代語をよむということ
- 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

授業中使用するプリントの配布はマナバフォリオを通じて行う。  
 プリントの掲載があった場合は、次回までに各自ダウンロード・プリントアウトして講義に臨むこと。  
 古語辞典と、高校までに使っていた文法教材類を持参すること。持っていない場合は購入すること（任意のものでよい）。

## 古代文学特講 I

[担当者] 東城 敏毅  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

本授業は、『万葉集』を取り上げ、古代和歌の知識を習得しつつ、日本の和歌がいに形成されていったのかを、七・八世紀の時代背景も詳細に概観しながら考察することを目的とする。また、万葉歌の表現方法・表記方法の多様性と特色を、古代和歌史の視点も取り入れながら考察する。

## ●到達目標：

1. 七・八世紀の時代背景、ならびに『万葉集』についての基礎的な知識を説明できる。
2. 『万葉集』の歌表現の特色を説明することができる。
3. 『万葉集』から、新たな「問い」を見つけ出し、自分の意見をまとめることができる。

## ●成績評価の基準：

授業内レスポンスカード40% (到達目標1, 2)  
 レポート60% (到達目標2, 3)

## ●留意事項：

オフィスアワー：月曜日7・8時限  
 また質問等は随時受け付ける（メールでも可。tojoyo@post.ndsu.ac.jp）

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 授業ガイダンス―「訓む」ことと「読む」ことと―
  - 2 歌木簡と万葉集
  - 3 巻頭歌の意義
  - 4 額田王の世界①―代作歌人としての位置付け
  - 5 額田王の世界②―難訓歌に挑む
  - 6 戯書から読みとく万葉びとの生活
  - 7 大和三山の歌①
  - 8 大和三山の歌②
  - 9 柿本人麻呂の世界①―安騎野の歌
  - 10 柿本人麻呂の世界②―石見相聞歌
  - 11 さまざまな歌人①―山上憶良・大伴旅人
  - 12 さまざまな歌人②―高橋虫麻呂・大伴家持
  - 13 防人歌の世界①
  - 14 防人歌の世界②
  - 15 防人歌の世界③・授業の総括
- レポート提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書等を随時紹介する。それらをもとに、積極的に多くの万葉歌を読み、その面白さに触れてほしい。また、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習も進めてほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

『補訂版 万葉集 本文篇』、佐竹昭広・木下正俊・小島憲之、塙書房

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 授業中に適宜紹介する。

なお、教材としてレジユメを随時配布する。

## 古代文学特講 II

[担当者] 東城 敏毅  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

『古事記』は日本最古の文学作品とも捉えられるが、本授業は、その文学表現を多角的に分析することを目的とする。特に上巻の神話を中心に読解を実施し、古代人のものの考え方や価値観について考えるとともに、日本文学史上における神話の位置付けについても考察する。

## ●到達目標：

1. 『古事記』神話の基礎的な読解力を身につけることができる。
2. 多くの注釈書類や研究史を概観し、作品を多角的に捉える視点を応用できる。
3. 『古事記』から新たな「問い」を見つけ出し、自分の意見をまとめることができる。

## ●成績評価の基準：

授業内レスポンスカード40% (到達目標1)  
 レポート60% (到達目標2, 3)

## ●留意事項：

オフィスアワー：月曜日7・8時限  
 また質問等は随時受け付ける（メールでも可。tojoyo@post.ndsu.ac.jp）

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 授業ガイダンス
  - 2 古事記神話の始まり―創成神話・造化三神
  - 3 イザナキ・イザナミ神話①―二神の結婚
  - 4 イザナキ・イザナミ神話②―国生み
  - 5 イザナキ・イザナミ神話③―黄泉の国
  - 6 三貴子の誕生
  - 7 アマテラス神話①―誓約
  - 8 アマテラス神話②―天の岩屋
  - 9 スサノヲ神話①―スサノヲの追放とオホゲツヒメ
  - 10 スサノヲ神話②―ヤマタノヲロチ
  - 11 出雲神話①―オホクニヌシとカミムスヒの神
  - 12 出雲神話②―根の堅洲国
  - 13 国譲り
  - 14 天孫降臨神話①
  - 15 天孫降臨神話②・授業の総括
- レポート提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書等を随時紹介する。それらをもとに、積極的に『古事記』を読み進め、その面白さに触れてほしい。積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習も進めてほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

『新版 古事記』（角川ソフィア文庫）、中村啓信訳注、角川学芸出版

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 こうの史代『ほおるべん 古事記』天の巻・地の巻・海の巻（平凡社、2013-2014）  
 その他、授業中に適宜紹介する。

なお、教材としてレジユメを随時配布する。

## 古代文学特講Ⅲ

[担当者] 原 豊二  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

『源氏物語』は平安時代を代表する散文の文学作品である。そこで用いられる仮名による表記は、古典文学における日本語表記の一つの到達点でもある。本講義では、『源氏物語』の総合巻を原文で読み進めつつ、『源氏物語』の構想や表現を見ていきたい。なお、「物語史」など本巻で語られるテーマや『源氏物語』の研究史（中世・近世）についても意識的に考察していく。

## ●到達目標：

1. 『源氏物語』についての基礎知識を養い、総合巻の内容や表現について理解できる。

## ●成績評価の基準：

・『源氏物語』についての基礎知識を身につけ、総合巻の内容や表現について理解でき、定期試験においてそのことが十分に認められる。(到達目標1)

## ●留意事項：

オフィスアワー：月曜日5,6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 ガイダンス 『源氏物語』の基礎知識 (1)
  - 2 『源氏物語』の基礎知識 (2)
  - 3 総合 (1)
  - 4 総合 (2)
  - 5 総合 (3)
  - 6 総合 (4)
  - 7 総合 (5)
  - 8 総合 (6)
  - 9 総合 (7)
  - 10 総合 (8)
  - 11 総合 (9)
  - 12 総合 (10)
  - 13 テーマ「源氏物語の物語史」
  - 14 テーマ「源氏物語の研究史 (中世)」
  - 15 テーマ「源氏物語の研究史 (近世)」
- 定期試験

## ●準備学習 (予習・復習) に必要な学修内容：

毎回の授業では、『源氏物語』を原文で読みます。よって、最低限の古文読解能力が必要です。本授業を受ける前に、古典文法を復習しておいてください。また、総合巻について現代語訳でも構わないので読むようにしてください。最終的には、定期試験の点数を高く評価しますので、主に講義内容の復習に努めてください。内容理解の確認のために、簡単な作文を提出させる場合があります。

## 【必携書 (教科書販売)】

影印校注古典叢書35 総合・松風・薄雲, 野口元大, 新典社

## 【必携書・参考書等 (教科書販売以外)】

<必携書>

適宜プリントを配布。

<参考書等>

授業中に指示します。

## 古代文学特講Ⅳ

[担当者] 原 豊二  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

『源氏物語』は平安時代を代表する散文の文学作品である。そこで用いられる仮名による表記は、古典文学における日本語表記の一つの到達点でもある。本講義では、『源氏物語』の薄雲巻を原文で読み進めつつ、『源氏物語』の構想や表現を見ていきたい。なお、「皇統・密通」など本巻で語られるテーマや『源氏物語』の研究史 (近代) についても意識的に考察していく。

## ●到達目標：

1. 『源氏物語』についての基礎知識を養い、薄雲巻の内容や表現について理解する。

## ●成績評価の基準：

・『源氏物語』についての基礎知識を身につけ、薄雲巻の内容や表現について理解でき、定期試験においてそのことが十分に認められる。(到達目標1)

## ●留意事項：

オフィスアワー：月曜日5,6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 ガイダンス 『源氏物語』の基礎知識 (1)
- 2 『源氏物語』の基礎知識 (2)
- 3 薄雲 (1)
- 4 薄雲 (2)
- 5 薄雲 (3)
- 6 薄雲 (4)
- 7 薄雲 (5)
- 8 薄雲 (6)
- 9 薄雲 (7)
- 10 薄雲 (8)
- 11 薄雲 (9)
- 12 薄雲 (10)
- 13 テーマ「皇統・密通」
- 14 テーマ「源氏物語の研究史 (近代1)」
- 15 テーマ「源氏物語の研究史 (近代2)」
- 16 定期試験

## ●準備学習 (予習・復習) に必要な学修内容：

毎回の授業では、『源氏物語』を原文で読みます。よって、最低限の古文読解能力が必要です。本授業を受ける前に、古典文法を復習しておいてください。また、明石巻について現代語訳でも構わないので読むようにしてください。最終的には、定期試験の点数を高く評価しますので、主に講義内容の復習に努めてください。内容理解の確認のために、簡単な作文を提出させる場合があります。

## 【必携書 (教科書販売)】

影印校注古典叢書35 総合・松風・薄雲, 野口元大, 新典社

## 【必携書・参考書等 (教科書販売以外)】

<必携書>

適宜プリントを配布。

<参考書等>

授業中に指示します。

## 中世文学特講 I

[担当者] 木下 華子  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

鎌倉初頭に成立した8番目の勅撰和歌集『新古今和歌集』を取り上げる。  
 建久9年(1198)、19歳で讓位した後鳥羽院は、正治2年(1200)から翌建仁元年にかけて催された三度の百首歌を経て、歌に対する多大な関心を深め、実作の上でも長足の進歩を示していった。建仁元年(1201)7月には後撰集の先例にならって和歌所を設置、同年11月に撰集の下命が下されたのが、『新古今和歌集』である。『新古今和歌集』は、集自体の記述や、撰者の一人であった藤原定家の日記『明月記』、和歌所の開闢(かいこう)であった源家長の『源家長日記』などにより、他の勅撰集よりもその成立過程を詳細に見ることができる。また、元久2年(1205)に一旦の成立を見た直後から、後鳥羽院の意志による改訂が何度も行われた。後鳥羽院は承久の乱で隠岐に遷された後も、再度改修を行い、「隠岐本」と呼ばれる『新古今和歌集』を完成させている。このように長い成立の歴史を持つ勅撰集は他に例を見ない。

本講義前半では、同時代の資料や作品に目を配りつつ、『新古今和歌集』の胎動から成立までを追う。後半では、新古今時代を代表する歌人を取り上げ、その和歌を精読する。たった31字の言説空間の中に、どのような景色・時間・物語が立ち現れるのか、それがどのような意図・企み・経緯から生み出されるのか。一首の和歌を、徹底的に読み解いてみたい。

## ●到達目標：

1. 勅撰和歌集についての文学史的知識を理解し、応用することができる。
2. 『新古今和歌集』成立の必然性・時代背景を理解し、説明することができる。
3. 和歌を読み解くために必要な知識や方法を身に付けることができる。
4. 詠作者の意図を理解した上で、和歌を解釈することができる。

## ●成績評価の基準：

小テスト：20% (到達目標1,2)  
 定期試験：80% (到達目標1,2,3,4)

## ●留意事項：

特になし。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 導入①勅撰和歌集とは何か
  - 2 導入②後鳥羽院と新古今集の時代
  - 3 後鳥羽天皇誕生と平家文化圏
  - 4 後鳥羽院歌壇の始発(源通親・飛鳥井雅経)
  - 5 『正治初度百首』①(藤原俊成・定家と俊成卿和字奏状)
  - 6 『正治初度百首』②(鳥題五首)
  - 7 和歌所設置と撰集の下命
  - 8 『千五百番歌合』
  - 9 『新古今和歌集』の完成とその後の切り継ぎ
  - 10 承久の乱と隠岐本『新古今和歌集』
  - 11 和歌を読む——①後鳥羽院
  - 12 和歌を読む——②式子内親王
  - 13 和歌を読む——③西行
  - 14 和歌を読む——④藤原家隆
  - 15 和歌を読む——⑤藤原定家
- 定期試験

## ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

文学研究の原点は「読む」ことにある。授業では、多くの和歌を読み込むはできない。図書館などで積極的に作者・歌集・作品を探し、たくさんのもを讀んで、面白さや魅力に触れてほしい。

## 【必携書(教科書販売)】

## 【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<参考書等>

授業時に適宜紹介する。

## 中世文学特講 II

[担当者] 木下 華子  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

中世を代表する文学ジャンルの一つに「説話」がある。本講義の前半では、説話とは何かという問題を考え、上代・中古・中世と時間軸に沿って、様々な説話集と説話集が希求したものを読み解く。また、それらの説話集に収められる具体的な説話を、できる限り味読したい。後半では、説話の「型」や「種類」に着目し、様々な説話を読み解く。説話が生成する時代背景や説話集編者の意図にも目を配りながら、精読を行いたい。

## ●到達目標：

1. 説話についての基礎知識を身に付けることができる。
2. 様々な説話集の性質・文学史的意義を理解し、説明することができる。
3. 説話の特色、生成過程、編者の意図など説話を読むための視点と方法を理解し、説話の分析・考察に応用することができる。

## ●成績評価の基準：

小テスト：20% (到達目標1,2)  
 レポート：80% (到達目標1,2,3)

## ●留意事項：

特になし。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 導入(1)「説話」とは何か
  - 2 導入(2)「説話」の面白さ
  - 3 最古の説話集——『日本霊異記』
  - 4 中世説話の前提——散逸「宇治大納言物語」
  - 5 絵巻と説話——「宇治拾遺物語」「吉備大臣入唐事」
  - 6 現存最大の説話集——『今昔物語集』
  - 7 仏教説話——『宝物集』『発心集』
  - 8 世俗説話——「宇治拾遺物語」
  - 9 話型という考え方——貴種流離譚(1)
  - 10 二重出家・断執・偽悪
  - 11 入水往生・補陀落渡海
  - 12 歌徳説話
  - 13 異類婚姻譚
  - 14 群衆という視線
  - 15 話型と美意識——貴種流離譚(2)
- (レポート提出)

## ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

文学研究の原点は「読む」ことにある。授業では、説話文学作品の全てを読み込むはできない。図書館などで積極的に文献を探し、作品の魅力や面白さに触れてほしい。

## 【必携書(教科書販売)】

## 【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<参考書等>

授業時に適宜紹介する。

## 中世文学特講Ⅲ

[担当者] 阿部 泰郎  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

『とはずがたり』を媒ちとして、中世文学の諸領域を問い直し、さまざまな角度から読み込んでいくことで、中世文学に通底する大きな主題に迫る。今年は特に作者後深草院二条が自ら絵を描く女房であり、「西行が修行の記」という絵巻を見たことが著作の動機となったことに注目し、女が書(描)くテキストとしての『とはずがたり』を論じてみたい。

## ●到達目標：

今も「女流文学」と言われるような、「女が書く」ということの歴史的・文化的意味を、『とはずがたり』を多角的に読むことから解体し、あらたな中世文学の像を再構築してみたい。

## ●成績評価の基準：

事前提出レポート 40点  
 講義後提出レポート 60点  
 その他、出席、質問などを加味する。

## ●留意事項：

講義前に『とはずがたり』を読み、自分なりの率直な感想・疑問・考察をレポートにまとめて提出すること。これを参考に、その質問にも答えるかたちで講義を行う。提出期日は指示に従うこと。A4用紙、縦書き、パソコンによるプリントアウト可。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

『とはずがたり』に関して、その講義に臨むときの最もあたらしい研究課題やそれについての見解・読みについて語ることになるので、あらかじめ整然とした予定は立てられない。だが、およそ以下のような問題については言及することになる筈である。

- 1『とはずがたり』の発見
- 2『とはずがたり』とその時代
  - 後醍醐院の御代から両統分裂へ
- 3『とはずがたり』作者の家系と貴族社会
  - 久我家と四条家の文学
- 4『とはずがたり』の文学伝統
  - “女流日記”および和歌・歌謡と物語
- 5『とはずがたり』の文化伝統
  - 絵巻と女が描く絵
- 6『とはずがたり』の女の宿命
  - 愛別離苦と白拍子・遊女の出家遁世
- 7-8『とはずがたり』の歴史像
  - 京都鎌倉・公家と武家を媒ちする者
  - 崇徳院と有明の月
- 9-10『とはずがたり』の宗教観
  - 王の生と死を司る仏教と夢
- 11-12『とはずがたり』の説話伝承
  - 宗教文芸と説話集との関わり
- 13-14『とはずがたり』の救済
  - 中世女性の担う役割
- 15『とはずがたり』とは何か

## ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

## 【必携書(教科書販売)】

『とはずがたり』(講談社学術文庫版)

## 【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<参考書等>

授業中に指示する。

## 中世文学特講Ⅳ

[担当者] 兼築 信行  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

和歌が詠まれ、発表・記録され、さらに歌集などさまざまな書物として編纂されて行く過程を具体的に観察するとともに、日本の古典文学作品を読解し、研究するうえで必須となる書誌学・文献学の基礎知識を習得することを織り込みながら、講義を進める。広く資料を取り扱う方法を論じたいが、内容はできるかぎり実践的であることを旨とし、調査の実際や、研究を進める段取りに即しながら、必要となる専門知識やスキルについて詳しく述べていくことにする。

## ●到達目標：

主として中世における和歌詠作の実態、歌会や歌合といった「場」の具体相、さらには歌集の編纂過程を理解するとともに、写本を中心とする伝本の調査や、文献学的方法を会得しつつ、各自の関心や研究テーマに関係する古典籍を正しく取り扱えるようになることを目標とする。

## ●成績評価の基準：

集中講義であるので出席を重視するが、授業中に幾度か課題の提出を求め、それらを40%とする。最終日には理解度の確認を実施し、それを60%とする。以上を合わせ成績を評価する。

## ●留意事項：

受身の姿勢で単に講義を聴くだけでなく、実際に資料に触れ、読解し、さらに処理を行なう作業を課すことになるので、あらかじめ承知しておくこと。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

4日間の集中講義を実施する。

1日目のテーマは、「和歌を読んでみよう」。資料の読解には変体仮名・くずし字を判読する能力を要するが、初心者にはその手ほどきも合わせて行なうので、まったく変体仮名が読めない人でも心配はならない。

- 1回 和歌の基礎知識と和歌資料の諸相
- 2回 詠草
- 3回 和歌懐紙と短冊
- 4回 歌会と披講

2日目のテーマは、「歌集を調べてみよう」。調査対象とする歌集の所在を確認してリストアップし、閲覧申請を行い、所蔵者を訪ねるまでの手順を述べ、調査すべき書誌項目に従いながら、典籍の構造や注目点について詳細に説する。

- 5回 伝本リストの作成
- 6回 閲覧申請と書誌調査
- 7回 写本の書誌1
- 8回 写本の書誌2

3日目のテーマは、「歌集を研究してみよう」。附属図書館の特殊文庫に所蔵される中世の歌集を具体例とし、書誌調査のデータや複写資料をもとに、どのようにして文献学的な処理や研究、さらには読解を行なうのかを示す。なお、本文批判の作業過程を受講者各自に実際に体験してもらう。

- 9回 本文の対校1
- 10回 本文の対校2
- 11回 特殊文庫見学
- 12回 本文批判の方法

4日目のテーマは、「文献学を理解しよう」。日本における近代文献学の導入と確立を述べ、学史を理解するとともに、主要な古典作品について最新の文献学的トピックスを紹介する。最後に講義全体を総括し、理解度の確認を行う。

- 13回 文献学の研究史
- 14回 主要古典作品についての最新の文献学的トピックス
- 15回 講義の総括と理解度の確認

## ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

くずし字・変体仮名を読むことになるので、可能ならばその学習を事前に行っておくのが望ましい。各講義に必要な資料は、プリントにより配布する。また、課題を出すことも多いので、それらの事前学習を要する。講義内容は専門性が高いので、ノートを整理し十分な復習を行うことも求められる。

## 【必携書(教科書販売)】

## 【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

必要な資料等は、すべてプリントで配布する。

## 近世文学特講Ⅰ

〔担当者〕野澤 真樹  
 〔開講期〕1期  
 〔授業形態〕講義 [単位] 2  
 〔科目ナンバリング〕230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

近世文学のうち、町人の暮らしを描く作品について学ぶ。各回に作品を原文で読み、作品の背景や当時の風俗・文化に触れることを通して、作品理解のための「基礎体力」を身につける。

## ●到達目標：

- ①「町人物」の展開を説明できる。
- ②近世の町人の年中行事や風習について説明できる。
- ③近世文学の文体に慣れ、自身の力で作品を読み進められるようになる。

## ●成績評価の基準：

授業への取り組み 30% (①②③)  
 小テスト (1回) 20% (①②)  
 試験 50% (①②)

## ●留意事項：

オフィスアワー 月曜5,6限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 イントロダクション
- 2 『日本永代蔵』(1) — 近世町人の金銭感覚
- 3 『日本永代蔵』(2) — 裕福になる町人と没落する町人
- 4 『世間胸算用』『西鶴織留』
- 5 『万の文反古』
- 6 『世間子息気質』
- 7 『世間娘気質』
- 8 その他の「気質物」
- 9 『諸道聴耳世間狙』 — 大坂の町人を描く
- 10 演劇のなかの町人
- 11 『当世下手談義』 — 談義本の発生
- 12 『根南志具佐』
- 13 『御存商売物』
- 14 『心学早染草』
- 15 『道中膝栗毛』
- 16 試験

※全15回のうちいずれかの授業で小テストを行う。

## ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

(予習) 各回の授業で扱う作者・ジャンル等について調べておくこと。  
 (復習) 毎回の授業で作品の原文を掲載したレジュメを配布するので、授業後に読み返し、内容を理解すること。

## 【必携書(教科書販売)】

## 【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<参考書等>

授業中にプリントを配布する。

## 近世文学特講Ⅱ

〔担当者〕野澤 真樹  
 〔開講期〕2期  
 〔授業形態〕講義 [単位] 2  
 〔科目ナンバリング〕230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

近世文学のうち、遊郭を描く作品・資料について学ぶ。近世文学のなかには、遊郭に関する知識を持たずには読み解くことが難しいものもある。各回に作品を原文で読み、併せて遊郭に関する用語や風習を知ること、作品理解のための「基礎体力」を身につける。

## ●到達目標：

- ①近世の遊里文学の展開を説明できる。
- ②遊郭や遊女に関するさまざまな用語について説明できる。
- ③近世文学の文体に慣れ、自身の力で作品を読み進めることができる。

## ●成績評価の基準：

授業への取り組み 30% (①②③)  
 小テスト (1回) 20% (①②)  
 試験 50% (①②)

## ●留意事項：

オフィスアワー 月曜5,6限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 イントロダクション
- 2 遊女評判記(1) — 近世遊女の評判
- 3 遊女評判記(2) — 遊廓の「諸訳」
- 4 『色道大鑑』
- 5 『好色一代男』(1) — 世之介の少年期
- 6 『好色一代男』(2) — 遊廓のさまざま
- 7 『好色一代男』(3) — 「大尽」の遊び
- 8 『好色一代男』(4) — 世之介の女護島渡り
- 9 その他の西鶴作品
- 10 西鶴を模倣した作品
- 11 『けいせい色三味線』
- 12 「色談義」の系譜 — 浮世草子から洒落本へ
- 13 『跣婦人伝』
- 14 『遊子方言』(1) — 吉原までの道のり
- 15 『遊子方事』(2) — 吉原の遊び
- 16 期末試験

※全15回のうちいずれかの授業で小テストを行う。

## ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

(予習) 各回の授業で扱う作者・ジャンル等について調べておくこと。  
 (復習) 毎回の授業で作品の原文を掲載したレジュメを配布するので、授業後に読み返し、内容を理解すること。

## 【必携書(教科書販売)】

## 【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<参考書等>

授業中にプリントを配布する。

## 近世文学特講Ⅲ

〔担当 者〕 山本 秀樹  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

研究をいかしながら『雨月物語』をよむ。  
 『雨月物語』は「怪談」の名作として知られる短編集。  
 高校の副読本にも教材として採用されている。  
 江戸時代のものだが、考察すればするほど意味が開けてゆく屈指の名品。  
 わずか9編からなるが、各編につき、論文が約50本も書かれるような作品。  
 授業では第2期と合わせて、原文の古文の表現の理解のしかたに注意をはらいながら9編すべてを一通り紹介し、その研究例もいくつかは紹介しながら講読する。第1期は序文と前半4編を扱う。

## ●到達目標：

- ・『雨月物語』がどのような作品か、知る。
- ・江戸時代の作品がどのようなものか、知る。
- ・古文の理解法について知る。
- ・時代のちがいによる文化のちがいについて考える態度を知る。
- ・研究論文の実例にふれ、「研究」というものがどのようなものか、イメージをつかむ。
- ・テキストを読んで生まれる疑問を大切にすることを学ぶ。

## ●成績評価の基準：

出席カードのMEMO欄記入：30点  
 試験：70点（授業の概要、授業を通じて身に付けたこと、考えたことについて書いてもらう（予定））

## ●留意事項：

特になし

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

第1回 インTRODクシヨン：授業の進め方・『雨月物語』について  
 第2回 序文  
 第3回 白峰（序盤）  
 第4回 白峰（中盤）  
 第5回 白峰（終盤）  
 第6回 菊花の約（序盤）  
 第7回 菊花の約（中盤）  
 第8回 菊花の約（終盤）  
 第9回 浅茅が宿（序盤）  
 第10回 浅茅が宿（中盤）  
 第11回 浅茅が宿（終盤）  
 第12回 夢応の鯉魚（序盤）  
 第13回 夢応の鯉魚（中盤）  
 第14回 夢応の鯉魚（終盤）  
 第15回 研究紹介  
 第16回 期末試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）教科書の指定された部分を読む。  
 （復習）授業中にあった講話について、簡単にでも文章にしてみる。

## 【必携書（教科書販売）】

〔改訂 雨月物語 現代語訳付き（¥781:2013版）, 鶴月洋校注, 角川書店

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 授業中に適宜紹介する。

## 近世文学特講Ⅳ

〔担当 者〕 山本 秀樹  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

研究をいかしながら『雨月物語』をよむ。  
 『雨月物語』は「怪談」の名作として知られる短編集。  
 高校の副読本にも教材として採用されている。  
 江戸時代のものだが、考察すればするほど意味が開けてゆく屈指の名品。  
 わずか9編からなるが、各編につき、論文が約50本も書かれるような作品。  
 授業では第1期と合わせて、原文の古文の表現の理解のしかたに注意をはらいながら9編すべてを一通り紹介し、その研究例もいくつかは紹介しながら講読する。第2期は後半5編を扱う。

## ●到達目標：

- ・『雨月物語』がどのような作品か、知る。
- ・江戸時代の作品がどのようなものか、知る。
- ・古文の理解法について知る。
- ・時代のちがいによる文化のちがいについて考える態度を知る。
- ・研究論文の実例にふれ、「研究」というものがどのようなものか、イメージをつかむ。
- ・テキストを読んで生まれる疑問を大切にすることを学ぶ。

## ●成績評価の基準：

出席カードのMEMO欄記入：30点  
 試験：70点（授業の概要、授業を通じて身に付けたこと、考えたことについて書いてもらう（予定））

## ●留意事項：

特になし

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

第1回 インTRODクシヨン：授業の進め方・『雨月物語』について・仏法僧（序盤）  
 第2回 仏法僧（中盤）  
 第3回 仏法僧（終盤）  
 第4回 吉備津の釜（序盤）  
 第5回 吉備津の釜（中盤）  
 第6回 吉備津の釜（終盤）  
 第7回 蛇性の姪（序盤）  
 第8回 蛇性の姪（中盤）  
 第9回 蛇性の姪（終盤）  
 第10回 青頭巾（序盤）  
 第11回 青頭巾（中盤）  
 第12回 青頭巾（終盤）  
 第13回 貧福論（序盤）  
 第14回 貧福論（中盤）  
 第15回 貧福論（終盤）  
 第16回 期末試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）教科書の指定された部分を読む。  
 （復習）授業中にあった講話について、簡単にでも文章にしてみる。

## 【必携書（教科書販売）】

〔改訂 雨月物語 現代語訳付き（¥781:2013版）, 鶴月洋校注, 角川書店

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 授業中に適宜紹介する。

## 近代文学特講 I

[担当者] 山根 知子  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

岡山市出身の小説家・児童文学作家である坪田譲治をめぐって、その作品を読み深めることができ、作家の特質を考察することができるようになる。さらに、時代背景と風土の問題および作家の作風との関係を考察する力を身につける。授業中の課題の一部は、プレゼンテーションや口頭発表を行うことで発表する。

## ●到達目標：

- ①言語表現の特質を敏感に捉え、読解力を深める。
- ②感性と言語感覚を磨き、その体験を作家の作品研究を深めてゆく思考へとつなげる。
- ③同時代資料を使って、作品の背後の時代状況を押さえることで、作者の作品に込めた思いを解明し、受講者自身が新見を論じられるようになること。
- ④文学の力が、作家自身や読者に及ぼした影響について考察することで、文学と生との関係を深く考えることができるようになること。

## ●成績評価の基準：

授業中の課題と発言：30%（到達目標①、②、④）  
 レポート（仮提出・本提出）：70%（到達目標①、②、③）

## ●留意事項：

- ・取り扱う作品が指示されたら、必ず読んで授業に臨むこと。
- ・講義形式ではあるが、受講者が自身の考えを述べる機会を随時設けるので、常に自己の考えをノートしておくこと。
- ・オフィスアワーは木曜日7,8時限。また、随時メールでの質問を受け付ける。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 イントロダクション
- 2 坪田譲治年譜による作家理解
- 3 作品と時代について
- 4 作品と風土について
- 5 学生による「感想」「イラスト」を使用したプレゼンテーション（岡山市が主催する「学生による坪田譲治ワールドへの招待」への応募内容の発表）
- 6 初期小説を読む
- 7 中期小説を読む
- 8 初期童話を読む
- 9 中期童話を読む
- 10 小説と童話の原稿の実態について
- 11 学生による小説と童話の原稿研究（口頭発表）
- 12 随筆を読む
- 13 同時代資料を使った作品読解（1）
- 14 同時代資料を使った作品読解（2）・レポート仮提出
- 15 同時代資料を使った作品読解（3）
- 16 レポート提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・作家の資料や作品について、事前にプリント配布しますので、次の授業までに読んで臨むこと。
- ・その際、次の授業までに考えて授業中に口頭発表してもらう課題や、用紙に記入して提出する課題を随時出すので、予習・復習とともに約1時間かけて取り組むこと。
- ・期末レポート提出前の1ヶ月においては、中間に一度仮提出をし、各自のレポートの進み具合の確認と、作業に関する質問をする時間をとるので、1ヶ月をかけての計画的かつ入念な取り組みを行うこと。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 プリント配布。

## 近代文学特講 II

[担当者] 山根 知子  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

児童文学作家宮沢賢治をとりあげ、その作品を読み深めることができ、作家の特質を考察することができるようになる。さらに、時代背景と風土の問題および作家の作風との関係を考察する力を身につける。授業中の課題の一部は、口頭発表を行うことで発表する。

## ●到達目標：

- ①言語表現の特質を敏感に捉え、読解力を深める。
- ②感性と言語感覚を磨き、その体験を作家の作品研究を深めてゆく思考へとつなげる。
- ③同時代資料を使って、作品の背後の時代状況を押さえることで、作者の作品に込めた思いを解明し、受講者自身が新見を論じられるようになること。
- ④文学を通して、自分の人生に示唆を与える内容を引き出すことができ、文学が自己に与える救いの要素を深く考えることができる。

## ●成績評価の基準：

授業中の課題と発言：30%（到達目標①、②、④）  
 レポート（仮提出・本提出）：70%（到達目標①、②、③）

## ●留意事項：

- ・取り扱う作品が指示されたら、必ず読んで授業に臨むこと。
- ・講義形式ではあるが、受講者が自身の考えを述べる機会を随時設けるので、常に自己の考えをノートしておくこと。
- ・オフィスアワーは木曜日7,8時限。また、随時メールによる質問を受け付ける。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 イントロダクション
- 2 宮沢賢治年譜による作家理解
- 3 作品と時代について
- 4 作品と風土について
- 5 宮沢トシ「自省録」・学生の口頭発表
- 6 童話「慶十公園林」
- 7 童話「めくらぶだうと虹」・学生の口頭発表
- 8 童話「ひかりの素足」
- 9 童話「ビヂテリアン大祭」・学生の口頭発表
- 10 童話「銀河鉄道の夜」
- 11 同時代資料を使った「銀河鉄道の夜」読解－死の体験から
- 12 同時代資料を使った「銀河鉄道の夜」読解－作品成立過程
- 13 同時代資料を使った「銀河鉄道の夜」読解－信仰と科学
- 14 レポート仮提出
- 15 同時代資料を使った「銀河鉄道の夜」読解－農民芸術論と新世界
- 16 レポート提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・作家の資料や作品について、事前にプリント配布しますので、次の授業までに読んで臨むこと。
- ・その際、次の授業までに考えて授業中に口頭発表してもらう課題や、用紙に記入して提出する課題を、随時出すので、予習・復習とともに約1時間かけて取り組むこと。
- ・期末レポート提出前の1ヶ月においては、中間に一度仮提出をし、各自のレポートの進み具合の確認と、作業に関する質問をする時間をとるので、1ヶ月をかけての計画的かつ入念な取り組みを行うこと。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

『わたしの宮沢賢治』（山根知子著 ソレイユ出版 1400円 担当者が授業中に販売）

## 近代文学特講Ⅲ

[担当者] 綾目 広治  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

森鷗外の「舞姫」、夏目漱石の初期作品や後期三部作などの有名作品を従来とは違った角度から論じ、また正宗白鳥や里村欣三などの岡山出身の文学者、さらには太宰治、永瀬清子、三好十郎など、今なお人気作家や今日では必ずしも読まれているとは言えない文学者たちを取り扱い、彼らの文学営為を再評価して、時代状況に大した彼らの姿勢について考える。

## ●到達目標：

上記の文学者たちについて、①彼らの文学の特徴について理解を深める、②それらの文学の問題点が指摘できるようになる、③それらの文学を現代的な観点から評価できるようになる、④それらの文学を文学史、思想的に位置づけられるようになる。

以上の四項目を到達目標とする。

## ●成績評価の基準：

出席…20点

筆記試験…80点。筆記試験では、到達目標の①を30点、②を20点、③を15点、④を15点の配分で評価する。

## ●留意事項：

オフィスアワー：火曜日9,10時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 導入
2. 森鷗外「舞姫」
3. 漱石文学と探偵小説1
4. 漱石文学と探偵小説2
5. 正宗白鳥の文学と思想1
6. 正宗白鳥の文学と思想2
7. 里村欣三の文学
8. 太宰治「地球図」
9. 東南アジアの戦線
10. 永瀬清子の詩1
11. 永瀬清子の詩2
12. 不条理をめぐる論争1
13. 不条理をめぐる論争2
14. 三好十郎の戯曲
15. まとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業で紹介された評論等をできるだけ読むこと。

## 【必携書（教科書販売）】

『柔軟と屹立 日本近代文学と弱者・母性・労働』、綾目広治、御茶の水書房

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 近代文学特講Ⅳ

[担当者] 綾目 広治  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

井伏鱒二の文学、「第三の新人」たちの文学、井上靖の最晩年の小説「孔子」などから時代状況に対する文学者たちの姿勢について論じ、また今日の厳しい社会、政治、労働状況に論及しながら、それらに立ち向かう文学者たちの姿勢についても論じていく。また、高齢化社会と文学というテーマについても見ていく。

## ●到達目標：

上記の事柄について、①それぞれの文学者たちの姿勢について考察する、②彼らの文学についての理解を深める、③彼らの文学について自分なりの評価できるようになる、④それぞれの文学を文学史的、および思想的に位置づけられるようになる。

## ●成績評価の基準：

出席…20点

筆記試験…80点。上記の①を25点、②を25点、③を15点、④を15点の配分で評価する。

## ●留意事項：

オフィスアワー：火曜日9,10時限

授業で紹介された文献をできるだけ読むこと。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 導入
2. 21世紀から見る井伏鱒二1
3. 21世紀から見る井伏鱒二2
4. 「第三の新人」の文学1
5. 「第三の新人」の文学2
6. 筒井康隆の「超虚構」
7. 老いと文学1
8. 老いと文学2
9. 井上靖「孔子」1
10. 井上靖「孔子」2
11. 非正規雇用・自己責任論と文学
12. 原発と沖縄と文学
13. 現代の文学と思想1
14. 現代の文学と思想2
15. まとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

『柔軟と屹立 日本近代文学と弱者・母性・労働』、綾目広治、御茶の水書房

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 古代文学講読Ⅰ

〔担当 者〕 東城 敏毅  
 〔開 講 期〕 1期  
 〔授 業 形 態〕 演習 [単位] 2  
 〔科目ナンバリング〕 230B2-2340-o2

## ●本授業の概要：

『古事記』は日本最古の文学作品とも捉えられるが、本授業はその文学表現を多角的に分析することを目的とする。特に上巻の神話部分を中心に演習形式（グループワーク・プレゼンテーション）にて実施し、古代人のものの考え方や価値観について考えるとともに、日本文学史上における神話の位置付けについても考察する。

## ●到達目標：

1. 『古事記』神話の基礎的な読解力を身につけることができる。
2. 多くの注釈書類や研究史を概観し、作品を多角的に捉える視点を応用できる。
3. 『古事記』研究の手法、ならびに発表方法を身につけることができる。

## ●成績評価の基準：

授業内レスポンスカード20%（到達目標1）  
 発表40%（到達目標1, 2, 3）  
 レポート40%（到達目標2, 3）

## ●留意事項：

オフィスアワー：月曜日7・8時限  
 また質問は随時受け付ける（メールでも可。tojiyo@post.ndsu.ac.jp）

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 ガイダンス・『古事記』概説
- 2 古事記神話概説
- 3 『古事記』講読「天地初発之時」の訓みとその意義
- 4 『古事記』講読（発表1）「おのごろ島」「イザナキ・イザナミ二神の結婚」
- 5 『古事記』講読（発表2）「国生み」「イザナミの神避り」
- 6 『古事記』講読（発表3）「火の神を斬る」「黄泉の国」
- 7 『古事記』講読（発表4）「禊」「三貴子誕生—アマテラス・スサノヲ・ツクヨミ」
- 8 『古事記』講読（発表5）「誓約—アマテラスとスサノヲ」「天の岩屋」
- 9 『古事記』講読（発表6）「天の岩屋」「蚕と穀物の種—オホゲツヒメ」
- 10 『古事記』講読（発表7）「ヤマタノヲロチ」
- 11 『古事記』講読（発表8）「兎とワニ—稲羽のシロウサギと大國主」
- 12 『古事記』講読（発表9）「根の堅洲国」
- 13 『古事記』講読（発表10）「八千矛神の歌物語」歌謡
- 14 『古事記』講読（発表11）「少名甕古那神」「天の菩比神と天若日子」
- 15 『古事記』講読（発表12）「建御雷神と国譲り」・授業の総括  
レポート提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業前に授業で扱う箇所について読み、理解を深めておくこと。また、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習も進めてほしい。

なお、発表者は受講者分のレジュメを印刷して配布する。

## 【必携書（教科書販売）】

『新版 古事記』（角川ソフィア文庫）、中村啓信訳注、角川学芸出版

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

こうの史代『ほおるべん 古事記』天の巻・地の巻・海の巻（平凡社、2013-2014）  
 その他、授業中に適宜紹介する。

## 古代文学講読Ⅱ

〔担当 者〕 東城 敏毅  
 〔開 講 期〕 2期  
 〔授 業 形 態〕 演習 [単位] 2  
 〔科目ナンバリング〕 230B2-2340-o2

## ●本授業の概要：

『万葉集』は、奈良時代に成立した日本最古の和歌集である。そのため、古来さまざまな視点から研究が進められてきたと同時に、鑑賞の対象として多くの人々に愛されてきた歌集でもある。本授業は、演習形式（グループワーク・プレゼンテーション）により、多くの注釈書や研究史も概観しながら、『万葉集』の「叙景」「季節」「旅」「恋」「鎮魂」「物語」「からかい」等のさまざまな短歌を中心に、その歌表現を多角的に分析することを目的とする。

## ●到達目標：

1. 『万葉集』の基礎的な読解力を身につけることができる。
2. 多くの注釈書や研究史を概観し、作品を多角的に捉える視点を応用できる。
3. 『万葉集』研究の手法、ならびに発表方法を身につけることができる。

## ●成績評価の基準：

授業内レスポンスカード20%（到達目標1）  
 発表40%（到達目標1, 2, 3）  
 レポート40%（到達目標2, 3）

## ●留意事項：

オフィスアワー：月曜日7・8時限  
 また質問は随時受け付ける（メールでも可。tojiyo@post.ndsu.ac.jp）

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 『万葉集』概説—その成立と表記方法—
- 2 『万葉集』における「叙景」「季節」「旅」の諸相
- 3 『万葉集』における「恋」「物語」「からかい」の諸相
- 4 『万葉集』講読（発表1）（叙景①）
- 5 『万葉集』講読（発表2）（叙景②）
- 6 『万葉集』講読（発表3）（季節①）
- 7 『万葉集』講読（発表4）（季節②）
- 8 『万葉集』講読（発表5）（旅①）
- 9 『万葉集』講読（発表6）（旅②）
- 10 『万葉集』講読（発表7）（恋①）
- 11 『万葉集』講読（発表8）（恋②）
- 12 『万葉集』講読（発表9）（鎮魂）
- 13 『万葉集』講読（発表10）（物語）
- 14 『万葉集』講読（発表11）（からかい）
- 15 授業の総括  
レポート提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書等を随時紹介する。それらをもとに、積極的に多くの万葉歌を読み、その面白さに触れてほしい。また、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習も進めてほしい。

なお、発表者は受講者分のレジュメを印刷して配布する。

## 【必携書（教科書販売）】

『補訂版 万葉集 本文篇』、佐竹昭広・木下正俊・小島憲之、塙書房

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書>

授業中に適宜紹介する。

## 古代文学講読Ⅲ

〔担当者〕原 豊二

〔開講期〕1期

〔授業形態〕演習・講義 [単位] 2

〔科目ナンバリング〕230B2-2340-o2

## ●本授業の概要：

『伊勢物語』を熟読し、そこに表現される和歌と物語を考察していく。また、その成立、構造、作者、享受、伝本、研究史について講義する。『古今和歌集』や『大和物語』『平中物語』など、『伊勢物語』に関連する作品もその考察の範囲に含めたい。本授業では、前半においては講義形式をとり、中後半においては演習形式をとる。なお、履修者全員に口頭発表（章段はこちらで指定する）およびレポートを課す。

## ●到達目標：

1. 『伊勢物語』の構想や表現の特徴を踏まえつつ、その内容を十分に理解できる。
2. 歌物語というジャンルの方法を正確に理解できること。

## ●成績評価の基準：

- ・『伊勢物語』の構想や表現の特徴を知り、またその作品内容を読解でき、口頭発表ならびにレポート作成をすることができる。（到達目標1）
- ・歌物語というジャンルの方法を認識でき、口頭発表ならびにレポート作成をすることができる。（到達目標2）

## ●留意事項：

オフィスアワー：月曜日5・6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 『伊勢物語』の成立
- 2 『伊勢物語』の構造と作者
- 3 『伊勢物語』の享受
- 4 『伊勢物語』の伝本
- 5 『伊勢物語』の研究史
- 6 発表（1）
- 7 発表（2）
- 8 発表（3）
- 9 発表（4）
- 10 発表（5）
- 11 発表（6）
- 12 発表（7）
- 13 発表（8）
- 14 発表（9）
- 15 発表（10）

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

本授業では、講義形式と演習形式で学習していきます。教科書を普段から読むようにしてください。発表については、ある程度、こちらで指定します。原則として、欠席は認められません。

## 【必携書（教科書販売）】

新校注伊勢物語、片桐洋一 田中まき、和泉書院

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

授業中に指示する。

## 古代文学講読Ⅳ

〔担当者〕原 豊二

〔開講期〕2期

〔授業形態〕演習・講義 [単位] 2

〔科目ナンバリング〕230B2-2340-o2

## ●本授業の概要：

近年、「地域研究」が改めて問われている。古代文学においても、各「地域」を描いたものが多くあり、こうした作品を「地域」の視点から考察することが求められている。本授業では、「地域研究」の視座からテキストを読解していく。具体的には、大和国・山城国・吉備国・伊勢国など、また須磨・比叡山・吉野・宇治などに関わる古代文学作品を取り扱う。

## ●到達目標：

1. 古代文学作品を「地域研究」の立場から読解する力をつける。

## ●成績評価の基準：

- ・古代文学作品を「地域研究」の立場から読解する力をつけ、口頭発表ならびにレポート作成をすることができる。（到達目標1）

## ●留意事項：

オフィスアワー：月曜日5,6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 ガイダンス 「地域研究」と古代文学
- 2 「風土記」の成立とその受容
- 3 歌物語に描かれる地方
- 4 日記文学に描かれる地方
- 5 『枕草子』に描かれる地方
- 6 発表（1）
- 7 発表（2）
- 8 発表（3）
- 9 発表（4）
- 10 発表（5）
- 11 発表（6）
- 12 発表（7）
- 13 発表（8）
- 14 発表（9）
- 15 発表（10）

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

本授業では「地域」を中心に、講義形式と演習形式で学習していきます。普段から、こうした問題に意識的でいてください。発表については、ある程度、こちらで指定します。原則として、欠席は認められません。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書等>

適宜、プリント等を配布します。

<参考書等>

授業中に指示します。

## 中世文学講読Ⅲ

[担当者] 江草 弥由起

[開講期] 1期

[授業形態] 講義・演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 230B2-2340-o2

## ●本授業の概要：

藤原定家が活躍した新古今歌時代は和歌活動が隆盛を極め、和歌に物語を摂取する活動も盛んになった時期であった。本授業では藤原定家編纂『物語二百番歌合』の前半部にあたる、『源氏狭衣百番歌合』別・旅・哀傷部を読むことで、定家の物語の捉え方や編纂手法の一端を理解し、新古今時代の和歌の鑑賞技術を高めることを目的とする。授業では、当該作品についての基礎知識を講義で行い、講師が作品の鑑賞方法の例を示した後、各番を学生に割り当て発表する形式で行う。

## ●到達目標：

1. 新古今時代の和歌活動の一端を理解することができる。
2. 藤原定家編『物語二百番歌合』について説明することができる。
3. 『源氏物語』『狭衣物語』の中世における享受の在り方を通じて、古典作品の享受について考察することができる。

## ●成績評価の基準：

発表 40% (到達目標1,3)

期末レポート 40% (1,2,3)

授業内での質疑応答・ディスカッションでの発言 20% (到達目標1,3)

## ●留意事項：

受講にあたって、古典作品の学習経験量は問わない。授業内で変体仮名を読む機会もあるが、苦手な学生にも配慮して授業を行う。発表の準備で不安があれば、遠慮せず尋ねること。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 講義①：『物語二百番歌合』の基礎知識①（作品の成立した時代背景）
2. 講義②：『物語二百番歌合』の基礎知識②（構成と藤原定家の編纂手法）
3. 講義③：『物語二百番歌合』前半部『源氏狭衣百番歌合』別部の鑑賞例
4. 発表① 別部45・46・47番
5. 発表② 旅部 48・49番
6. 発表③ 旅部 50・51番
7. 発表④ 旅部 52・53番
8. 発表⑤ 哀傷部 54・55番
9. 発表⑥ 哀傷部 56・57番
10. 発表⑦ 哀傷部 58・59番
11. 発表⑧ 哀傷部 60・61番
12. 発表⑨ 哀傷部 62・63番
13. 発表⑩ 哀傷部 64・65番
14. 発表⑪ 哀傷部 66・67番
15. 発表⑫ 哀傷部 68番 まとめ・レポート提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）より有益なディスカッションをするために、発表箇所を事前に読んで考えておいて欲しい。

（復習）定家の編纂の意図・手法を考察するためには、担当箇所だけでなく歌の配列にも目を向ける必要がある。毎回の発表が配列の考察にもつながることを意識して発表資料を整理し、連続して目を通して欲しい。

## 【必携書（教科書販売）】

『王朝物語秀歌選』（上）、樋口芳麻呂校注、岩波書店

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 中世文学講読Ⅳ

[担当者] 江草 弥由起

[開講期] 2期

[授業形態] 講義・演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 230B2-2340-o2

## ●本授業の概要：

正徹は備中国小田郡（現岡山県小田郡矢掛町）の出身と伝えられ、歌を冷泉為尹と今川了俊に学び、厩大な歌を残している。新古今集に心酔し、特に藤原定家を尊崇してやまなかった。本授業では、岡山にゆかりのある南北朝時代の文人正徹の歌論書『正徹物語』を学ぶことで正徹の歌風・歌論を知り、新古今集が彼の歌風にどのような影響を与えたのかを明らかにすることを目的とする。授業では、数回にわたり正徹とその活躍した時代背景についての講義を行い、講師が『正徹物語』の冒頭部の鑑賞方法の例を示した後、受講者による発表を行ってもらう。

## ●到達目標：

1. 古典作品に詳しくない者にも正徹について説明ができる。
2. 正徹が新古今集をどのように評価し、歌に摂取したかを考察することができる。
3. 『正徹物語』を通して正徹の歌風・歌論の一端を理解することができる。

## ●成績評価の基準：

発表 40% (到達目標2,3)

期末レポート 40% (1,2,3)

授業内での質疑応答・ディスカッションでの発言 20% (到達目標2,3)

## ●留意事項：

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 講義①：正徹について
2. 講義②：『正徹物語』の基礎知識 + 冒頭部「定家への信仰告白」
3. 発表① 家隆の歌風と亡室体・雅経は歌泥棒・現葉集は打開にて待るか
4. 発表② 為相の母と弟・伏見院の筆跡・人麻呂出現
5. 発表③ 続歌の巻頭題・万葉集の注釈書
6. 発表④ 雅経と新古今集・頼阿と新拾遺集・飛鳥井家の説・歌病
7. 発表⑤ 定家の「夢の浮橋」の歌・「中の衣」と詠んだところ
8. 発表⑥ 「後朝の恋」題の歌・褒貶歌会での出来事
9. 発表⑦ 行雲廻雪体の歌と自注・一句の残す歌①
10. 発表⑧ 一句を残す歌②・「祈る歌」題の歌と自注
11. 発表⑨ 初心者と本歌取り・古今集の歌の本歌取り
12. 発表⑩ 人の歌が分かる様になれ・歌枕・「秋の夕」題の歌
13. 発表⑪ 為兼の逸話・傍題・「郭公稀なり」題・雑題では四季景物を詠まない
14. 発表⑫ 季題の順序・題の文字をあらわさず詠む・「八千～」という詞・「夏祓」題の歌
15. まとめ・レポート提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

発表内容を基にレポートを作成してもらうことになるため、意義のある質疑応答ができるができるよう、発表者はもちろんのこと聴き手も集中して発表を聴くようにして欲しい。

## 【必携書（教科書販売）】

正徹物語、訳注 小川剛生、角川学芸出版

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

&lt;参考書等&gt;

『正徹の研究 中世歌人研究』、稲田利徳、笠間書院

## 近世文学講読Ⅰ

[担当者] 野澤 真樹  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B2-2340-o2

## ●本授業の概要：

井原西鶴の『好色五人女』を読む。『好色五人女』は西鶴の代表作で、江戸時代に実際にあった密通事件を題材とする。この授業では主に「語釈」と「同時代作品との比較」に重点を置き、『好色五人女』の注釈および現代語訳を行う。

## ●到達目標：

- ①近世文学の注釈に際し、適切な用例を集めることができる。
- ②同時代作品（主に西鶴の他の作品）との比較を行うことができる。
- ③作品注釈および口頭発表の基本を身につける。
- ④他者の口頭発表に対し有意義な質疑応答を行うことができる。

## ●成績評価の基準：

- ・授業中の取り組み 30% (①②③④)
- ・発表 50% (①③)
- ・レポート 20% (①②)

## ●留意事項：

オフィスアワー 月曜5,6限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 作品概説①、発表順決め
- 2 作品概説②、発表デモンストレーション
- 3 口頭発表 (1)
- 4 口頭発表 (2)
- 5 口頭発表 (3)
- 6 口頭発表 (4)
- 7 口頭発表 (5)
- 8 口頭発表 (6)
- 9 口頭発表 (7)
- 10 口頭発表 (8)
- 11 口頭発表 (9)
- 12 口頭発表 (10)
- 13 口頭発表 (11)
- 14 口頭発表 (12)
- 15 注釈の完成、およびレポートに向けた注意点

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

各回の授業の前に、発表者の担当箇所を目を通しておくこと。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 授業中に指示する。

## 近世文学講読Ⅱ

[担当者] 野澤 真樹  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B2-2340-o2

## ●本授業の概要：

書誌学、文献学の基礎知識を身につけながら、実際に古典籍に触れ、古典籍を調査する方法を学ぶ。本学特殊文庫に所蔵される写本・版本を各自選んで調査し、資料の性質に関する口頭発表を行う。

## ●到達目標：

- ①書誌学、文献学の基礎知識を身につける。
- ②古典籍の扱い方と注意点を理解し、実践できる。
- ③古典籍調査を実践し、調査カードを作成することができる。
- ④口頭発表の基礎を身につける。
- ⑤他者の口頭発表に関して有意義な質疑応答を行うことができる。

## ●成績評価の基準：

- ・授業中の取り組み 15% (①②⑤)
- ・調査カードの提出 15% (①②③)
- ・発表 50% (①②④)
- ・レポート 20% (①②③④)

## ●留意事項：

オフィスアワー 月曜5,6限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 インTRODククション、資料の候補選定
- 2 発表の順番決め、資料閲覧
- 3 発表デモンストレーション、資料閲覧
- 4 担当する古典籍の調査
- 5 担当する古典籍の調査
- 6 担当する古典籍の調査
- 7 発表 (1) / 解説「古典籍の歴史①」
- 8 発表 (2) / 解説「古典籍の歴史②」
- 9 発表 (3) / 解説「古典籍の装訂」
- 10 発表 (4) / 解説「古典籍の題」
- 11 発表 (5) / 解説「刊記・奥書・識語」
- 12 発表 (6) / 解説「版本の見方」
- 13 発表 (7) / 解説「江戸時代の書肆・版元①」
- 14 発表 (8) / 解説「江戸時代の書肆・版元②」
- 15 レポート作成に向けた説明  
 担当する古典籍の再調査

※7～14回の「解説」は発表で取り上げられた古典籍に合わせて行うので、順序や内容を変更する場合がある。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

(予習)発表に際しては十分な準備を行った上で臨むこと。自身の発表以外でも、扱われる古典籍の著者や内容、伝存状況について、『日本古典文学大辞典』や古典籍総合目録データベース (<http://base1.nijl.ac.jp/~tkoten/>) などを用いて事前に調べておくこと。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 堀川貴司『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』（勉誠出版、2010年）

## 近代文学講読Ⅱ

[担当者] 山根 知子  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B2-2340-o2

## ●本授業の概要：

志賀直哉と芥川龍之介の短編小説をテキストとして読解を深める。各自が選定した作品を履修者全員で論じる読書会を通じて、発表の論点を定める力を習得する。口頭発表では、発表者は作品分析のテーマと方法を定め、自己の意見を展開する研究発表を行うことを試みる。さらに期末には、それを論文の形にまとめる力を身につける。

## ●到達目標：

- ①作品から問題点を見出して研究テーマを設定し、的確な分析方法を用いて新たな作品論を展開することができる。他者の見解に対する問題点についても指摘することができる。
- ②根拠のしっかりした客観的実証を行い、先行論文を踏まえた説得力のある論にすることができる。
- ③先行研究を的確に用いて自らの論の強調点や新しさを主張できる。
- ④説得力のある論文の書き方を修得し、自らの論を完成できる。

## ●成績評価の基準：

授業中の質疑応答・討論での発言：20%（到達目標①）  
 口頭発表：40%（到達目標②、③、④）  
 期末の論文：40%（到達目標②、③、④）

## ●留意事項：

- ・指示された作品を必ず読んでから授業に臨むこと。
- ・発表者は、担当日の一週間前にレジュメを提出・配布すること。
- ・発表者以外は、予習時に発表者への評価と自己の読解を用紙に記入しておくこと。
- ・発表時に手続き・内容において不十分だった場合は、翌週に補正分のレジュメを提出すること。
- ・オフィスアワーは木曜日7、8時限。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 作家の問題や、作品の流れの概要・特質について講義し、演習授業の進め方について説明
- 2 各自が発表する作品および日程を決定  
※作品選定は、受講者の人数・日程を考慮したうえで各自の希望にも応じる。
- 3 作品分析方法について説明
- 4 担当者による中間発表と読書会（1）
- 5 担当者による中間発表と読書会（2）
- 6 担当者による中間発表と読書会（3）
- 7 担当者による中間発表と読書会（4）
- 8 作品論発表（1）
- 9 作品論発表（2）
- 10 作品論発表（3）
- 11 作品論発表（4）
- 12 作品論発表（5）
- 13 作品論発表（6）
- 14 論文作成についての指導
- 15 文章についての指導
- 16 論文提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業の「作品論発表」では、担当者は、発表予定日の1週間前にレジュメを配布するため、日程が決定され次第、約1か月をかけてレジュメ作成に取り組み、中間発表の質疑応答からも修整を加えてレジュメを完成させること。
- ・毎時間新たな学生の発表が設定されているので、他者のレジュメを必ず読み、全員、毎授業にて発表者への質問を述べるための質問内容を、予習としてコメント用紙に書いて持参すること。一方、自分の発表後はその発表時に受けたアドバイスにより修整を加える復習をするなど、それぞれ約1時間の予習・復習をすること。
- ・論文提出前の授業では、論文作成指導と確認を行うので、実際に支持された論文の箇所を書いて持参すること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 プリント配布。

## 近代文学講読Ⅲ

[担当者] 綾目 広治  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B2-2340-o2

## ●本授業の概要：

戦後昭和期の代表的な短編小説を読み、小説の分析方法を身につけるとともに、それらの小説を書いた作家たちについての知識を深める。

## ●到達目標：

①短編小説を精密に読解していく技量を身につける、②それらの小説の文学史上の価値について考える、③小説の読解を通して昭和文学史の中で何が問題とされていたかについて考える、④現代にも通じる、戦後昭和期の問題について、文学を通して広い意味での精神的な理解を深める。

## ●成績評価の基準：

出席…10点  
 発表…20点  
 レポート…上記の①②③④の事柄に論及した作品論であるかを、①は20点、②は20点、③は15点、④は15点の配点で評価する。

## ●留意事項：

オフィスアワー：火曜日9.10時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 導入
2. 井伏鱒二「鯉」
3. 佐多稲子「キャラメル工場から」
4. 堀辰雄「死の素描」
5. 横光利一「機械」
6. 梶井基次郎「闇の絵巻」
7. 牧野信一「ゼーロン」
8. 小林多喜二「母たち」
9. 伊藤整「生物祭」
10. 室生犀星「あにいもうと」
11. 北条民雄「いのちの初夜」
12. 宮本百合子「築地河岸」
13. 高見順「虚実」
14. 中島敦「文字禍」
15. まとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業で取り上げる小説は必ず読んで授業に臨むこと。

## 【必携書（教科書販売）】

「日本近代短編小説選 昭和篇1」、紅野敏郎他、岩波書店（岩波文庫）

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 近代文学講読 V

[担当者] 長原 しのぶ

[開講期] 1期

[授業形態] 講義・演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 230B2-2340-o2

## ●本授業の概要：

本授業では太宰治の初期に発表された小説をテキストとして取り上げる。太宰文学の出発時の特徴と意味を理解した上で明確な問題意識と視点をもって作品分析を行いことを目的とする。授業では、2回にわたり口頭発表を行い、発表での質疑応答を経た中で自分の作品分析に対する問題点、不足点を把握する機会を持つ。問題点を解決した上で作品分析を論文にまとめて提出する。

## ●到達目標：

1. 新しい視点を軸にした作品読解と作品分析ができる。
2. 先行論や根拠を示す資料を利用した発表と論文作成ができる。
3. 口頭発表の中で適切な質疑応答ができる。
4. 客観的で説得力のある論文の書き方を身につける。

## ●成績評価の基準：

授業中の質疑応答・討論での発言 20% (到達目標3)

(事前学習を含む)

口頭発表 40% (到達目標1,2,3)

(レジュメ提出を含む)

期末の論文 40% (到達目標1,2,4)

## ●留意事項：

- ・対象となる作品は必ず読んでから授業に出席すること。
- ・対象作品は新潮文庫を教科書指定しているが、他文庫などですでに持っている場合はそれを使用してよい。
- ・口頭発表は中間発表と作品論発表の2回行う。
- ・発表者は、中間発表の1週間前にレジュメを提出、配布すること。
- ・発表者は、授業内で指摘された内容をふまえて作品論発表の1週間前に修正したレジュメを提出、配布すること。
- ・発表者以外は1週間前に配布されたレジュメを確認の上、発表者への質問をコメント用紙にまとめてくること。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 演習授業の進め方の説明と導入① (太宰文学の流れ)
  2. 発表作品と発表日の決定と導入② (初期作品の特徴)
  3. 作品分析の方法とレジュメ作成について
  4. 中間発表①「葉」「魚服記」
  5. 中間発表②「地球図」「猿ヶ島」
  6. 中間発表③「道化の華」「彼は昔の彼ならず」
  7. 中間発表④「陰火」
  8. 作品論発表①「葉」
  9. 作品論発表②「魚服記」
  10. 作品論発表③「地球図」
  11. 作品論発表④「猿ヶ島」
  12. 作品論発表⑤「道化の華」
  13. 論文作成指導
  14. 作品論発表⑥「彼は昔の彼ならず」
  15. 作品論発表⑦「陰火」
- 期末試験 (レポート)

## ●準備学習 (予習・復習) に必要な学修内容：

- ・発表者は、発表の1週間前にレジュメ (発表資料) を作成して配布すること。
- ・発表の授業前には、発表者が1週間前に配布したレジュメと対象作品を必ず読んでおくこと。
- ・発表の授業では、全員に発表に対する質問を述べてもらうので予め質問をコメント用紙に記入して出席すること。

## 【必携書 (教科書販売)】

「晩年」(新潮社文庫)、太宰治、新潮社

## 【必携書・参考書等 (教科書販売以外)】

<必携書>

プリント配布

<参考書等>

授業中に指示

## 近代文学講読 VI

[担当者] 長原 しのぶ

[開講期] 2期

[授業形態] 講義・演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 230B2-2340-o2

## ●本授業の概要：

本授業では、坂口安吾の初期短篇小説をテキストとして取り上げる。坂口安吾の初期文学の特徴を理解し、明確な問題意識と視点をもって作品分析を行うことを目的とする。授業では作品分析に基づいて2回にわたり口頭発表を行い、質疑応答の中で自分の作品分析に対する問題点、不足点を把握する機会を持つ。問題点を解決した上で分析した作品論を論文にまとめる。

## ●到達目標：

1. 新しい視点を軸にした読解と作品分析ができる。
2. 先行論や根拠を示す資料を利用した発表と論文作成ができる。
3. 口頭発表の中で適切な質疑応答ができる。
4. 客観的で説得力のある論文の書き方を身につける。

## ●成績評価の基準：

授業中の質疑応答・討論での発言 20% (到達目標3)

(事前学習を含む)

口頭発表 40% (到達目標1,2,3)

(レジュメ提出を含む)

期末の論文 40% (到達目標1,2,4)

## ●留意事項：

- ・対象となる作品は必ず読んでから授業に出席すること。
- ・対象作品の入手方法と準備は授業内で指示する。
- ・発表は、中間発表と作品論発表の2回行う。
- ・発表者は、中間発表の1週間前にレジュメを提出、配布すること。
- ・発表者は、授業内で指摘された内容をふまえて作品論発表の1週間前に修正したレジュメを提出、配布すること。
- ・発表者以外は1週間前に配布されたレジュメを確認の上、発表者への質問をコメント用紙にまとめてくること。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 演習授業の進め方の説明と導入① (坂口安吾の生涯と文学)
  2. 発表作品と発表日の決定と導入② (初期作品の特徴)
  3. 作品分析の方法とレジュメ作成について
  4. 中間発表①「木枯の酒倉から」「群衆の人」
  5. 中間発表②「黒谷村」
  6. 中間発表③「竹藪の人」
  7. 中間発表④「村のひと騒ぎ」
  8. 中間発表⑤「逃げたい心」「朴水の婚礼」
  9. 作品論発表①「木枯の酒倉から」
  10. 作品論発表②「群衆の人」
  11. 作品論発表③「黒谷村」
  12. 作品論発表④「竹藪の人」
  13. 論文作成指導
  14. 作品論発表⑤「逃げたい心」
  15. 作品論発表⑥「朴水の婚礼」
- 期末試験 (レポート)

## ●準備学習 (予習・復習) に必要な学修内容：

- ・発表者は、発表1週間前にレジュメ (発表資料) を配布すること。
- ・発表の授業前には、発表者が1週間前に配布したレジュメと対象作品を必ず読んでおくこと。
- ・発表の授業では、全員に発表に対する質問を述べてもらうので予め質問をコメント用紙に記入して出席すること。

## 【必携書 (教科書販売)】

「木枯の酒倉から・風博士」(講談社文芸文庫)、坂口安吾、講談社

## 【必携書・参考書等 (教科書販売以外)】

<必携書>

プリント配布

<参考書等>

・授業中に指示

## 古代文学演習 I

[担当者] 東城 敏毅  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B3-3400-o2

## ●本授業の概要：

『万葉集』は、奈良時代に成立した日本最古の和歌集である。そのため、古来さまざまな視点から研究が進められてきたと同時に、鑑賞の対象として多くの人々に愛されてきた歌集でもある。本授業は、演習形式（グループワーク・プレゼンテーション）により、額田王・柿本人麻呂・山部赤人・大伴旅人・山上憶良・高橋虫麻呂等、さまざまな歌人の長歌を取り上げ、多くの注釈書や研究史も概観しながら『万葉集』長歌の歌表現を多角的に分析することを目的とする。

## ●到達目標：

1. 『万葉集』の基礎的な読解力を身につけることができる。
2. 多くの注釈書や研究史を概観し、作品を多角的に捉える視点を応用できる。
3. 古代文学を研究する際の、作品の決め方、およびその手法について考察し、実際に調査を行ない発表する学術的な方法を身につけることができる。

## ●成績評価の基準：

授業内レスポンスカード20%（到達目標1）  
 発表40%（到達目標1, 2, 3）  
 レポート40%（到達目標2, 3）

## ●留意事項：

オフィスアワー：月曜日7・8時限  
 また、質問は随時受け付ける（メールでも可 tojyo@post.ndsu.ac.jp）

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 ガイダンス・『万葉集』概略
- 2 『万葉集』における歌人の傾向①
- 3 『万葉集』における歌人の傾向②
- 4 発表1（額田王①）
- 5 発表2（額田王②）
- 6 発表3（柿本人麻呂①）
- 7 発表4（柿本人麻呂②）
- 8 発表5（山部赤人①）
- 9 発表6（山部赤人②）
- 10 発表7（大伴旅人）
- 11 発表8（山上憶良）
- 12 発表9（大伴家持①）
- 13 発表10（大伴家持②）
- 14 発表11（大伴坂上郎女）
- 15 発表12（高橋虫麻呂）・授業の総括  
レポート提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業では、事前に授業で扱う箇所について、理解を深めておくこと。特にレポートには、日々の文献研究で深めたテーマに関してより多角的に、発展的な論述を求める。積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習も進めてほしい。

なお、発表者は受講者分のレジュメを印刷して配布する。

## 【必携書（教科書販売）】

『補訂版 万葉集 本文篇』、佐竹昭広・木下正俊・小島憲之、塙書房

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 授業中に適宜紹介する。

## 古代文学演習 II

[担当者] 東城 敏毅  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B3-3400-o2

## ●本授業の概要：

本授業は、文学を研究する際の作品の決め方、およびその手法について考察し、実際に調査を行ない、論文にまとめる学術的な方法を身につけることを目的とする。「古代文学」に限らず、卒業論文を書くために必要な研究方法や論文の書き方の基礎、また研究の手法を習得しつつ、実際に論文を書き、推敲する実践を行う。

## ●到達目標：

1. 自ら研究テーマを探究し、自ら文献を調査することができる。
2. 論文の書き方を身につけ、また推敲する力を身につけることができる。
3. 自ら論文をまとめる方法を身につけることができる。

## ●成績評価の基準：

発表30%（到達目標1, 2）  
 授業内演習30%（到達目標1, 2）  
 レポート40%（到達目標3）

## ●留意事項：

オフィスアワー：月曜日7・8時限  
 また、質問は随時受け付ける（メールでも可 tojyo@post.ndsu.ac.jp）

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 ガイダンス
- 2 論文とは何か①—論文の型・論文の構成
- 4 論文とは何か②—「問い」の探究・研究テーマを見つけ出す
- 5 論証のための調査①—先行研究の調査・参考文献の作成
- 6 論証のための調査②—調査方法と分析の方法
- 7 研究発表①
- 8 研究発表②
- 9 研究発表③
- 10 研究発表④
- 11 研究発表⑤
- 12 研究発表⑥
- 13 論文相互批評①—論文の表現・明晰な文章
- 14 論文相互批評②—参考文献・注の付け方
- 15 論文相互批評③—破綻を防ぐ  
レポート提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

「卒業論文の一部を作成する」という気持ちで、授業を受講してほしい。また各自推敲を繰り返す時間も重要である。さらに、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習も進めてほしい。

なお、発表者は受講者分のレジュメを印刷して配布する。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

教科書は、1年次に購入済みの、石黒圭『論文・レポートの基本』（日本実業出版社、2012）を持参のこと。

<参考書等>

木下是雄『理科系の作文技術』（中央公論社、1981）  
 戸田山和久『論文の教室』（日本放送出版協会、2002）  
 上野千鶴子『情報生産者になる』（筑摩書房、2018）

## 古代文学演習Ⅲ

[担当者] 原 豊二  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B3-3400-o2

## ●本授業の概要：

『源氏物語』は平安文学屈指の著名な作品であり、これを学ぶことは国際的な視野においても重要である。本授業では、そのうちいわゆる第二部（若菜上巻～幻巻）に着目し、その問題点を考察してゆく。

## ●到達目標：

1. 『源氏物語』がどのように書かれ、またどのような構想を持ったものなのかを考えつつ、古典作品の本文、表現、解釈等を学ぶことができる。  
 2. 研究の意義付け、研究論文の読み方、口頭発表の手順、レポートの執筆等について、学術的な方法を身につける。

## ●成績評価の基準：

・『源氏物語』の構想を理解し、古典作品の本文、表現、解釈等を学ぶ力がついている。(到達目標1)  
 ・研究の意義付け、研究論文の読み方、口頭発表の手順、レポートの執筆等について、学術的な方法が身につけている。(到達目標2)

## ●留意事項：

オフィスアワー：月曜日5・6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 ガイダンス 『源氏物語』の構想
- 2 『源氏物語』第二部前半の課題
- 3 『源氏物語』第二部後半の課題
- 4 発表(1)
- 5 発表(2)
- 6 発表(3)
- 7 発表(4)
- 8 発表(5)
- 9 発表(6)
- 10 発表(7)
- 11 発表(8)
- 12 発表(9)
- 13 発表(10)
- 14 発表(11)
- 15 発表(12)

## ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

演習の授業であるため、積極的に取り組むことが求められる。欠席は認めない。発表やレポート提出時は、図書館で図書・論文・資料等を集中して調べる。文献資料の学術的な扱いについては、特に意識的であって欲しい。

## 【必携書(教科書販売)】

## 【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<必携書>

適宜プリントを配布。

<参考書等>

授業中に指示します。

## 古代文学演習Ⅳ

[担当者] 原 豊二  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B3-3400-o2

## ●本授業の概要：

『無名草子』には文芸批評とでも言うべき内容が記されている。特に王朝物語文学に対する批評は、同時期の物語の受容として重要である。また、現在は失われた『散逸物語』についても記載があり、『風葉和歌集』などとともにこれらの復元にも役立つものである。本授業では、物語文学批評や人物批評に特に着目し、『無名草子』と他のテキストとの連関を演習形式で学んでいきたい。

## ●到達目標：

1. 『無名草子』と同書に記載のある物語文学作品との連関を学び、インター・テキスト研究の方法を習得する。  
 2. 研究の意義付け、研究論文の読み方、口頭発表の手順、レポートの執筆等について、学術的な方法を身につける。

## ●成績評価の基準：

・『無名草子』と同書に記載のある物語文学作品との連関を学び、インター・テキスト研究の方法を習得している。(到達目標1)  
 ・研究の意義付け、研究論文の読み方、口頭発表の手順、レポートの執筆等について、学術的な方法が身につけている。(到達目標2)

## ●留意事項：

オフィスアワー：月曜日5.6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 ガイダンス 『無名草子』の成立と構想
- 2 『無名草子』の構成と概要
- 3 『無名草子』とその関連テキストについて
- 4 発表(1)
- 5 発表(2)
- 6 発表(3)
- 7 発表(4)
- 8 発表(5)
- 9 発表(6)
- 10 発表(7)
- 11 発表(8)
- 12 発表(9)
- 13 発表(10)
- 14 発表(11)
- 15 発表(12)

## ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

演習の授業であるため、積極的に取り組むことが求められる。欠席は認めない。発表やレポート提出時は、図書館で図書・論文・資料等を集中して調べる。文献資料の学術的な扱いについては、特に意識的であって欲しい。

## 【必携書(教科書販売)】

新潮日本古典集成 無名草子, 桑原博史, 新潮社

## 【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<参考書等>

授業中に指示します。

## 中世文学演習Ⅲ

[担当者] 田仲 洋己  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B3-3400-o2

## ●本授業の概要：

『新古今和歌集』に収められた個別の和歌作品について、中世以来の諸注釈書の見解を参看しつつ、その表現の組立てや配列の問題等に留意しながらなるべく精密に読み解く。

## ●到達目標：

注釈書を参看しての古典和歌の読解の方法に慣れ、新古今時代の和歌の表現の在り方について理解を深める。

## ●成績評価の基準：

発表の内容、授業中の発言、出席状況等を総合的に勘案して評価する。学期中に最低1回は発表を担当することを、単位認定の条件とする。発表の順番が回らなかった場合には、学期末にレポートを課す。発表もしくはレポートの内容に対する評価が70%程度、出席状況を含む平常点が30%程度の割合で、成績評価を行なう。

## ●留意事項：

『新古今集』全巻を読み通すこと自体が授業の目的ではないので、その点は諒解して置いてほしい。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 演習要領説明
- 2 『新古今和歌集』概要
- 3 『新古今和歌集』の成立経緯
- 4 新古今時代の和歌文学史
- 5 『新古今和歌集』の主要歌人
- 6 『新古今和歌集』の配列
- 7 『新古今集』四季歌の世界
- 8 『新古今集』春上を読む
- 9 『新古今集』春下を読む
- 10 『新古今集』夏を読む
- 11 『新古今集』秋上を読む
- 12 『新古今集』秋下を読む
- 13 『新古今集』冬を読む
- 14 『新古今集』賀を読む
- 15 『新古今集』哀傷を読む

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

『新古今集』全巻について、事前に通り目を通して置くこと。利用しやすい注釈書を手もとに置いて、必要に応じて随時読み返すことを心がけたい。『新古今集』の注釈書は数多いが、久保田淳訳注『新古今和歌集』上下（角川ソフィア文庫）が、現在の研究水準を示す至便の書である。各回の発表者については、関連する資料や注釈書の記事を図書館等で閲覧、コピーした上で発表資料を作成し、発表内容を整理して置くことが求められるので、十分な事前準備のための時間が必要である。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

久保田淳訳注『新古今和歌集』上下（角川ソフィア文庫）

## 中世文学演習Ⅳ

[担当者] 田仲 洋己  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B3-3400-o2

## ●本授業の概要：

『新古今和歌集』に収められた個別の和歌作品について、中世以来の諸注釈書の見解を参看しつつ、その表現の組立てや配列の問題等に留意しながらなるべく精密に読み解く。

## ●到達目標：

注釈書を参看しての古典和歌の読解の方法に慣れ、新古今時代の和歌の表現の在り方について理解を深める。

## ●成績評価の基準：

発表の内容、授業中の発言、出席状況等を総合的に勘案して評価する。学期中に最低1回は発表を担当することを、単位認定の条件とする。発表の順番が回らなかった場合には、学期末にレポートを課す。発表もしくはレポートの内容に対する評価が70%程度、出席状況を含む平常点が30%程度の割合で、成績評価を行なう。

## ●留意事項：

『新古今集』全巻を読み通すこと自体が授業の目的ではないので、その点は諒解して置いてほしい。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 演習要領説明
- 2 『新古今和歌集』概要
- 3 『新古今和歌集』の表現
- 4 『新古今集』離別を読む
- 5 『新古今集』羈旅を読む
- 6 『新古今集』恋一を読む
- 7 『新古今集』恋二を読む
- 8 『新古今集』恋三を読む
- 9 『新古今集』恋四を読む
- 10 『新古今集』恋五を読む
- 11 『新古今集』雑上を読む
- 12 『新古今集』雑中を読む
- 13 『新古今集』雑下を読む
- 14 『新古今集』神祇を読む
- 15 『新古今集』釈教を読む

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

『新古今集』全巻について、事前に通り目を通して置くこと。利用しやすい注釈書を手もとに置いて、必要に応じて随時読み返すことを心がけたい。『新古今集』の注釈書は数多いが、久保田淳訳注『新古今和歌集』上下（角川ソフィア文庫）が、現在の研究水準を示す至便の書である。各回の発表者については、関連する資料や注釈書の記事を図書館等で閲覧、コピーした上で発表資料を作成し、発表内容を整理して置くことが求められるので、十分な事前準備のための時間が必要である。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

久保田淳訳注『新古今和歌集』上下（角川ソフィア文庫）

## 近世文学演習 I

[担当者] 野澤 真樹  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B3-3400-o2

## ●本授業の概要：

近世を代表する国学者・契沖（1640-1701）が著した古今和歌集の注釈書、『古今余材抄』を読む。契沖は「古書を証するに古書を以てする」という現代の古典研究の基本態度でもある文献学的な研究方法を確立した人物である。契沖が古今和歌集の一首一首に付した注釈に引用される和歌や文献を明らかにすることで、契沖の注釈態度に迫るとともに、古典注釈の基礎を学ぶ。また、本学特殊文庫に所蔵される『余材抄』を用いた変体仮名読解演習を行う。

## ●到達目標：

- ①『新編国歌大観』等の工具書を用いて和歌の出典を明らかにすることができる。
- ②適切な古語辞典等を用いて本文を解釈し、内容を理解することができる。
- ③口頭発表の基本を身につける。
- ④他者の発表に対し有意義な質疑応答を行うことができる。
- ⑤作品から課題を見付け、客観的に考察することができる。
- ⑥近世の資料に用いられる変体仮名と漢字の一部が読解できる。

## ●成績評価の基準：

- ・授業中の取り組み 10% (①②④)
- ・授業内の発表 50% (①②③)
- ・レポート 20% (①②⑤)
- ・小テスト（変体仮名）20% (⑥)

## ●留意事項：

オフィスアワー 月曜5,6限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 作品概説、発表順決め
- 2 発表デモンストレーション、工具書の使い方
- 3 口頭発表（1）
- 4 口頭発表（2）、変体仮名読解演習（1）
- 5 口頭発表（3）、変体仮名読解演習（2）
- 6 口頭発表（4）、変体仮名読解演習（3）
- 7 口頭発表（5）、変体仮名読解演習（4）
- 8 口頭発表（6）、変体仮名読解演習（5）
- 9 口頭発表（7）、変体仮名読解演習（6）
- 10 口頭発表（8）、変体仮名読解演習（7）
- 11 口頭発表（9）、変体仮名読解演習（8）
- 12 口頭発表（10）、変体仮名読解演習（9）
- 13 口頭発表（11）、変体仮名読解演習（10）
- 14 口頭発表（12）、変体仮名読解演習（11）
- 15 注釈の完成とレポート提出に向けての注意点  
変体仮名読解演習（12）

※「変体仮名読解演習」のうち2回を小テストとして行う。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

各回の授業の前に、発表者の担当箇所に通してしておくこと。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 授業中に指示する。

## 近世文学演習 II

[担当者] 野澤 真樹  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B3-3400-o2

## ●本授業の概要：

江島其積の浮世草子『世間娘気質』を読む。『世間娘気質』は近世前半に上方で行われた「浮世草子」と呼ばれる読み物の代表的な作品の一つである。作中には当時の風俗や文化、生活習慣が窺える描写が多く、また西鶴などの先行作品の影響も色濃い。この授業では、同時代作品や工具書を参照しながら『世間娘気質』の注釈及び現代語訳を目指すとともに、各自で見出した課題に取り組む。

## ●到達目標：

- ①近世文学の注釈に必要な用例を探すことができる。
- ②近世語を客観的に説明し、それに基づいた現代語訳を行うことができる。
- ③口頭発表の基本を身につける。
- ④他者の発表に対し有意義な質疑応答を行うことができる。
- ⑤作品から課題を見付け、客観的に考察することができる。

## ●成績評価の基準：

- ・授業中の取り組み 30% (①②④)
- ・授業内の発表 50% (①②③)
- ・レポート 20% (①②⑤)

## ●留意事項：

オフィスアワー 月曜5,6限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 作品概説①、発表順決め
- 2 作品概説②、デモンストレーション
- 3 口頭発表（1）
- 4 口頭発表（2）
- 5 口頭発表（3）
- 6 口頭発表（4）
- 7 口頭発表（5）
- 8 口頭発表（6）
- 9 口頭発表（7）
- 10 口頭発表（8）
- 11 口頭発表（9）
- 12 口頭発表（10）
- 13 口頭発表（11）
- 14 口頭発表（12）
- 15 注釈の完成とレポート提出に向けての注意点

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

各回の授業の前に、発表者の担当箇所に通してしておくこと。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 授業中に指示する。

## 近代文学演習Ⅲ

[担当者] 山根 知子  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B3-3400-o2

## ●本授業の概要：

夏目漱石・有島武郎・志賀直哉・武者小路実篤の中編～長編小説をテキストとして読解を深める。各自が選定した作品を履修者全員で論じる読書会を通じて、発表の論点を定める力を習得する。口頭発表では、発表者は作品分析のテーマと方法を定め、自己の新見を展開する研究発表を行うことを試みる。さらに期末には、それを論文の形にまとめる力を身につける。

## ●到達目標：

- ①作品から問題点を見出して研究テーマを設定し、的確な分析方法を用いて新たな作品論を展開することができる。他者の見解に対する問題点についても指摘することができる。
- ②根拠のしっかりした客観的実証を行い、先行論文を踏まえた説得力のある論にすることができる。
- ③先行研究を的確に用いて自らの論の強調点や新しさを主張できる。
- ④説得力のある論文の書き方を修得し、自らの論を完成できる。

## ●成績評価の基準：

授業中の質疑応答・討論での発言：20%（到達目標①）  
 口頭発表：40%（到達目標②、③、④）  
 期末提出の発表レジュメ：40%（到達目標②、③、④）

## ●留意事項：

- ・後期の「近代文学演習Ⅳ」へとつながる一連の授業であるため、内容的には通して履修することが望ましいが、前期の「Ⅲ」のみの履修も可能とする。
- ・取り扱うことが決定した作品は、必ず読んでから授業に臨むこと。
- ・オフィスアワーは木曜日7,8時限。また、随時メールでの質問にも応じる。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 作家の問題や、作品の流れの概要・特質について講義し、演習授業の進め方について説明
- 2 各自が発表する作品および日程を決定  
※作品選定は、受講者の人数・日程を考慮したうえで各自の希望にも応じる。
- 3 作品分析方法について説明
- 4 担当者による中間発表と読書会（1）
- 5 担当者による中間発表と読書会（2）
- 6 担当者による中間発表と読書会（3）
- 7 担当者による中間発表と読書会（4）
- 8 作品論発表と討論（1）
- 9 作品論発表と討論（2）
- 10 作品論発表と討論（3）
- 11 作品論発表と討論（4）
- 12 作品論発表と討論（5）
- 13 作品論発表と討論（6）
- 14 発表レジュメ作成についての指導
- 15 文章についての指導
- 16 期末提出物提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業の「中間発表と討論」では、毎時間取り扱う中編～長編小説がそれぞれ設定されているので、計画性をもって必ず読んでおくことが必要となる。
- ・その際、全員、毎授業にて自分の着眼点や読解した内容を述べてもらうので、その準備となる予習をしておくこと。一方、自分の発表後はその発表時に受けたアドバイスにより修整を加える復習をするなど、それぞれ約1時間の予習・復習をすること。
- ・期末提出物の提出前の授業では、提出物の作成指導と確認を行うので、実際に発表レジュメを書いて持参すること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 文庫本（授業で扱う作品が決定してから各自で文庫本購入）

## 近代文学演習Ⅳ

[担当者] 山根 知子  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B3-3400-o2

## ●本授業の概要：

夏目漱石・有島武郎・志賀直哉・武者小路実篤の中編～長編小説をテキストとして読解を深める。各自が選定した作品を履修者全員で論じる読書会を通じて、発表の論点を定める力を習得する。口頭発表では、発表者は作品分析のテーマと方法を定め、自己の新見を展開する研究発表を行うことを試みる。さらに期末には、それを論文の形にまとめる力を身につける。

## ●到達目標：

- ①作品から問題点を見出して研究テーマを設定し、的確な分析方法を用いて新たな作品論を展開することができる。他者の見解に対する問題点についても指摘することができる。
- ②根拠のしっかりした客観的実証を行い、先行論文を踏まえた説得力のある論にすることができる。
- ③先行研究を的確に用いて自らの論の強調点や新しさを主張できる。
- ④説得力のある論文の書き方を修得し、自らの論を完成できる。

## ●成績評価の基準：

授業中の質疑応答・討論での発言：20%（到達目標①）  
 口頭発表：40%（到達目標②、③、④）  
 期末の論文：40%（到達目標②、③、④）

## ●留意事項：

- ・前期に「近代文学演習Ⅲ」を履修した者の継続履修であることが望ましい。
- ・（「Ⅲ」を履修せずに「Ⅳ」を履修する学生は、7月末までに担当者と相談を終え、出された課題を夏休み中に仕上げること）
- ・取り扱う作品を、必ず読んでから授業に臨むこと。
- ・発表者は、発表当日の一週間前にレジュメを提出・配布すること。
- ・発表者以外は、予習時に発表者への評価と自己の読解を用紙に記入しておくこと。
- ・発表時に手続き・内容において不十分だった場合は、翌週に補正分のレジュメを提出すること。
- ・受講者人数によって可能な場合には、受講者の卒論関係の発表と討論も加える。
- ・オフィスアワーは木曜日7,8時限。また、随時メールでの質問にも応じる。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 作家の問題や、作品の流れの概要・特質について講義し、演習授業の進め方について説明する。
- 2 発表と討論 夏目漱石作品（1）
- 3 発表と討論（2）
- 4 発表と討論（3）
- 5 発表と討論（4）
- 6 発表と討論（5）
- 7 発表と討論 有島武郎作品（1）
- 8 発表と討論（2）
- 9 発表と討論 志賀直哉作品（1）
- 10 発表と討論（2）
- 11 発表と討論 武者小路実篤作品（1）
- 12 発表と討論（2）
- 13 論文作成についての指導
- 14 文章についての指導
- 15 推敲作業についての指導・実践
- 16 論文提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業の「発表と討論」では、1週間前に配布されたレジュメによって毎時間新たな学生の発表が設定されているので、必ず読んでおくことが必要となる。
- ・その際、全員、毎授業にて発表者への質問を述べてもらうので、その質問内容をコメント用紙に書いて持参すること。一方、自分の発表後はその発表時に受けたアドバイスにより修整を加える復習をするなど、それぞれ約1時間の予習・復習をすること。
- ・論文提出前の授業では、論文作成指導と確認を行うので、実際に論文の下書きを書いて持参すること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 文庫本（1期から継続の履修生は購入済み。2期から履修する学生は授業で扱う作品の文庫本を各自購入すること）

## 近代文学演習 V

[担当 者] 綾目 広治  
 [開 講 期] 1期  
 [授 業 形 態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B3-3400-o2

## ●本授業の概要：

現代最も活躍中の女性作家の一人である小川洋子の文学を読解することを通して、現代女性作家が何を問題にしているかについて考察し、先行研究の蓄積が乏しいと言える、現代の小説を、自分たちの感性と問題意識で分析していく。

## ●到達目標：

まず、①小川洋子の文学について親しみ、②小説が話題にしている事柄について考察し、③小川洋子の文学を通して現代文学についての理解の幅を広げる。そして、④自分なりの独自の読みを展開することを最終的な目標とする。

## ●成績評価の基準：

出席…10点  
 発表…20点  
 レポート…70点、上記の①、②はそれぞれ20点、③、④はそれぞれ15点の配点とする。

## ●留意事項：

オフィスアワー：火曜9・10時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 導入
2. 「完璧な病室」1
3. 「完璧な病室」2
4. 「揚羽蝶が壊れる時」1
5. 「揚羽蝶が壊れる時」2
6. 「冷めない紅茶」1
7. 「冷めない紅茶」2
8. 「妊娠カレンダー」1
9. 「妊娠カレンダー」2
10. 「博士の愛した数式」1
11. 「博士の愛した数式」2
12. 「博士の愛した数式」3
13. 「貴婦人Aの蘇生」1
14. 「貴婦人Aの蘇生」2
15. まとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

必ず事前に、授業の当該作品を読んでくること。

## 【必携書（教科書販売）】

『完璧な病室』（中公文庫）、『妊娠カレンダー』（文春文庫）、『博士の愛した数式』（新潮文庫）、『貴婦人Aの蘇生』（朝日文庫）執筆者はすべて小川洋子、出版社は文庫名にある会社、小川洋子、中央公論社、文藝春秋、新潮社、朝日新聞社

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 日本語学特講 I

[担当 者] 尾崎 喜光  
 [開 講 期] 1期  
 [授 業 形 態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

一口に日本語と言っても一様ではない。特に日常の話し言葉においては、性差、年齢差、地域差等の多様性が顕著に認められる。

言葉の多様性には、言語使用場面と連動する面もある。すなわち、相手や状況によっても使う表現は異なる。敬語の使い分けはその典型であるが、共通語化の過程における方言と共通語の使い分けもそうした現象の一つである。

こうした多様性を持ちながら、日本語は現在も変化し、動態を示している。言葉の変化・動態には、社会全体としてのレベルだけでなく、個人のレベルにおいても「加齢変化」として認められる。

以上は言語使用における多様性であるが、言語意識にも多様性が認められる。ある地域ではごく普通の表現であっても、別の地域の人にとっては特別なニュアンスで感じられる場合もある。言語行動については異言語間でも同様の現象が認められる。

本授業では、講師自身がこれまでたずさわった調査研究の中から、こうした現象に関する研究成果を紹介する。

履修者は、話し言葉を中心とする日本語の多様性と動態に関する知識を修得する。

## ●到達目標：

- ①日本語の多様性と動態について理解し説明できる。
- ②身の回りに存在する日本語の多様性と動態を意識化できる。
- ③意識化した現象について自ら調査し分析できる。

## ●成績評価の基準：

授業への参加姿勢（出席）：10%（①、②）  
 毎授業後に行なう小テスト：20%（①）  
 レポート：70%（②、③）

## ●留意事項：

毎回授業の最後に、その回の確認テスト（小テスト）を行なう。

遅刻時間の長短にかかわらず、遅刻2回で欠席1回とみなす。ただし、公共交通機関の遅延など本人の責めに帰することができない理由による遅刻は、遅延証明書添付でその旨の申告があった場合に限り遅刻扱いにしない。

レポートは、授業で学んだことを参考にして、簡単でかまわないので、「言葉の多様性」や「日本語の動態」等について実際に自分で調査してまとめるタイプのものとする。単に本をまとめるだけではない。テーマは任意とする。対象は話し言葉でも書き言葉でもかまわない。レポートの提出締め切りは8月上旬頃を予定する。したがって、授業期間中に着手しないと間に合わない可能性がある。

オフィスアワーは「金曜日7・8限」である。事前予約の上相談に来ること。

## ●実務経験の授業への活用方法：

国立国語研究所において現代日本語に関する社会言語学的調査の企画・実施業務に携わった経験から、そこで得られたさまざまな知見や調査技法を学生に提示することが可能である。

## ●授業予定一覧：

- 第1回 言葉の男女差 (1) - 概説 -
- 第2回 言葉の男女差 (2) - 実態調査の紹介 -
- 第3回 言葉の男女差 (3) - 依頼表現の述部 -
- 第4回 敬語の使い分け (1) - 「学校の中の敬語」調査から -
- 第5回 敬語の使い分け (2) - 「東京調査」から -
- 第6回 敬語の使い分け (3) - 「岡崎調査」から -
- 第7回 方言と共通語化
- 第8回 方言と共通語の使い分け (1) - 1970年代の各種調査から -
- 第9回 方言と共通語の使い分け (2) - 「鶴岡調査」から -
- 第10回 日本語の動態 (1) - 全国多人数調査から：音声 -
- 第11回 日本語の動態 (2) - 全国多人数調査から：授受表現 -
- 第12回 言葉の加齢変化 (1) - オジサン言葉 -
- 第13回 言葉の加齢変化 (2) - 親言葉 -
- 第14回 対人意識と言語行動に関する日韓対照 (1) - 概説 -
- 第15回 対人意識と言語行動に関する日韓対照 (2) - 依頼行動 -

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 日本語学特講Ⅲ

〔担当 者〕 星野 佳之  
 〔開 講 期〕 1期  
 〔授 業 形 態〕 講義 [単位] 2  
 〔科目ナンバリング〕 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

日本語の文法について考察する（現代語及び古代語）。  
 いわゆる学校文法の「連用・連体」「主語・述語」「格」等の用語は、耳にする  
 が実のところよく理解されていないことが多い。これらの概念と文法論  
 的諸問題の整理を通して、日本語の文法をどう把握するのが妥当なのか考えて  
 いく。

今年度は、「副助詞」と「係助詞」の関係を中心に考察を進める。

## ●到達目標：

1. 文法論的問題にどのようなものがあるのか理解する。
2. 文法論的なものの考え方を理解する。
3. みずから文法論的問題を発見し、考察できるようになる。

## ●成績評価の基準：

期末レポート 100点×1回（到達目標1、2、3）

出席日数が総授業回数の三分の二に満たない者には単位認定の資格を与えないが、出席が評価の対象になることはない。

## ●留意事項：

オフィスアワーは、木曜日7・8時限。

授業に関する連絡をmanaフォリオを通じて行う場合がある。

よって、受講生は必ず、初回までにmanaフォリオのリマインダー機能を使用  
 可能な状況にしておくこと。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 第1回 イントロダクション 「文法」という範疇  
 第2回 品詞について  
 第3回 述語について  
 第4回 副助詞と係助詞について  
 第5回 副助詞各論1  
 第6回 副助詞各論2  
 第7回 副助詞各論3  
 第8回 副助詞各論4  
 第9回 副助詞各論5  
 第10回 副助詞各論6  
 第11回 副助詞各論7  
 第12回 副助詞各論8  
 第13回 副助詞各論9  
 第14回 副助詞各論10  
 第15回 副助詞各論11

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業の内容上、講義はいわゆる学校文法の理解の上に成り立つ。学校文法を授  
 業中に復習・確認することは最低限に抑えたいので、履修する場合は、高校ま  
 までに学習した文法をなるべく早い時点で復習することが必要となる。

また、古代語を対象とする場合もあるので、自信がない場合はこれも早くに復  
 習する必要がある。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書>

高校までに使っていた文法教材類を持参すること。持っていない場合は購入す  
 ること（任意のものでよい）。また、必要な辞書類。

## 日本語学講読Ⅰ

〔担当 者〕 尾崎 喜光  
 〔開 講 期〕 2期  
 〔授 業 形 態〕 演習・講義 [単位] 2  
 〔科目ナンバリング〕 230B2-2340-o2

## ●本授業の概要：

日本語の方言について書かれた指定図書を読み、要点を整理することで読解  
 力を養うとともに、そこで述べられていることをきっかけとして日本語の地域  
 差に関する自分の考えを深めたり広げたりする力を養う。

指定図書は全29課ある。履修者はこの中から3つ前後の話題を選び、概要およ  
 びそこに書かれていることをきっかけとして自分で調べて（文献調査でもオリ  
 ジナル調査でもよい）考えたことを、資料にもとづき発表する。発表担当者以  
 外もディスカッションに積極的に参加し、日本語の地域差に対する感度を高め  
 ることをめざす。指定図書の末尾に「主要参考文献」として掲げられている図  
 書の特定の章ないしは研究論文も授業終了までに2つ以上読み、授業で担当した  
 発表に取り込む形でレポートを作成する。

履修者は、日本語の方言のおよび方言研究に関する知識を修得するとともに、  
 発表・討論を通じて日本語に関する研究方法を体験的に修得する。

## ●到達目標：

- ①日本語の方言に関する文献の内容について理解し説明できる。
- ②他の履修者の発表を理解した上で議論ができる。
- ③文献の内容に触発されて自ら課題を設定し調査・分析ができる。

## ●成績評価の基準：

授業への参加姿勢（出席）：10% ①、②

授業への参加姿勢（発表）：40% ①、③

レポート：50% ①、③

## ●留意事項：

各回で予定する課を事前に読み、考えをめぐらせた上で授業に臨んでほしい。

遅刻時間の長短にかかわらず、遅刻2回で欠席1回とみなす。ただし、公共交  
 通機関の遅延など本人の責めに帰することができない理由による遅刻は、遅延  
 証明書添付でその旨の申告があった場合に限り遅刻扱いにしない。

オフィスアワーは「金曜日7・8限」である。事前予約の上相談に来ること。

## ●実務経験の授業への活用方法：

国立国語研究所において方言に関する社会言語学的調査の企画・実施業務に携  
 わった経験から、学生に対しさまざまな問題提起をすることが可能である。

## ●授業予定一覧：

- 第1回 ガイダンス、担当する課の相談  
 第2回 「第1章第1課 方言の区画」「第1章第2課 方言の東西差」  
 第3回 「第1章第3課 周囲論的分布」「第1章第4課 逆周囲論的分布」  
 第4回 「第1章第5課 いろいろな分布」「第1章第6課 グロットグラム」  
 第5回 「第2章第1課 発音の地域差」「第2章第2課 アクセントの地域差」  
 第6回 「第2章第3課 イントネーションの地域差」「第2章第4課 アスペクト  
 の地域差」  
 第7回 「第2章第5課 条件表現の地域差」「第2章第6課 方言のオノマトペ」  
 第8回 「第3章第1課 あいさつの地域差」「第3章第2課 話の進め方の地域差」  
 第9回 「第3章第3課 コミュニケーション意識の地域差」「第3章第4課 昔話  
 の語り方の地域差」  
 第10回 「第3章第5課 待遇表現の地域差」「第4章第1課 共通語化・標準語化」  
 第11回 「第4章第2課 方言と共通語の使い分け」「第4章第3課 伝統方言の現  
 在」  
 第12回 「第4章第4課 中間方言の発生」「第4章第5課 新しい方言の発生と広  
 がり」  
 第13回 「第4章第6課 近代化によることばの地域差」「第5章第1課 方言の社  
 会的位置づけの変遷」  
 第14回 「第5章第2課 地域資源としての「方言」」「第5章第3課 方言意識から  
 見た地域類型」  
 第15回 「第5章第4課 ヴァーチャル方言と方言ステレオタイプ」「第5章第5課  
 社会現象としての「方言」」「第5章第6課 方言研究の社会的意義」

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

「方言学入門」、木部暢子他編著、三省堂

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 日本語学講読Ⅲ

[担当者] 星野 佳之

[開講期] 1期

[授業形態] 講義・演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 230B2-2340-o2

## ●本授業の概要：

『古今集遠鏡』（こきんしゅうとおかがみ、本居宣長著）を講読し、主に三代集の用例を基にその記述を検証する。

## ●到達目標：

1. 『古今集遠鏡』の検証を通して、古代語の意義記述を実践し、その方法について理解を深める。
2. 『古今集遠鏡』の読解をもとに、近代以前の「語釈」のあり方について理解を深める。

## ●成績評価の基準：

配点は、以下の通り（到達目標1,2）。

発言点：50点 発表：20点 レポート：30点

期末にレポートを課す。毎回の発言を評価の対象として重視する。発言をしない者は、その回の評価はゼロである。出席日数が総授業回数数の三分の二に満たない者には単位認定の資格を与えないが、出席が評価の対象になることはない。

## ●留意事項：

オフィスアワーは、木曜日7・8時限。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

第1回 インTRODクシヨン (1)

第2回 インTRODクシヨン (2)

第3回 講読1

第4回 講読2

第5回 講読3

第6回 講読4

第7回 講読5

第8回 講読6

第9回 講読7

第10回 講読8

第11回 講読9

第12回 講読10

第13回 講読11

第14回 講読12

第15回 講読13

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

受講に際しては、初回までに、東洋文庫本第2巻巻末の「解説」を読んでおくこと。

発表資料を1週間前までに受講者全員に配布することを求める。受講者はこれを予習して講義に臨むこと。

履修する場合は、高校までに学習した古典文法をなるべく早い時点までに復習すること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

〈必携書〉

『古今集遠鏡〈1〉〈2〉』（今西祐一郎校注、東洋文庫）

## 日本語学演習Ⅰ

[担当者] 尾崎 喜光

[開講期] 2期

[授業形態] 演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 230B3-3400-o2

## ●本授業の概要：

卒業論文を意識した先行研究に関する研究を各自で行って発表・議論するとともに、それを踏まえた予備的調査を共同で行い、分析結果を報告・議論する。

卒業論文の研究テーマ（候補）を自ら定め、それに関連する先行研究を読むことで考えや問題点を深めるとともに、研究テーマを「調査」という形に展開し、得られたデータを分析してまとめる訓練をすることで、卒業論文作成のための確実な基礎力を養う。

履修者は、課題発見力を修得するとともに、先行研究の探求、研究計画の発表・討論を通じて問題意識を高め、課題を「調査」という形に展開する力、得られたデータを蓄積・分析する力を修得する。また、分析結果を整理して発表し、最後にレポートとしてまとめる力を修得する。

## ●到達目標：

- ① 研究課題を自ら定めることができる。
- ② 先行研究の探し方が理解できる。
- ③ 先行研究を読みレジュメとしてまとめて発表できる。
- ④ アンケート調査として設問化できる。
- ⑤ 得られたアンケートを整理できる。
- ⑥ 得られたデータを蓄積し分析できる。
- ⑦ 分析結果の発表ができる。
- ⑧ 分析結果をレポートとしてまとめることができる。

## ●成績評価の基準：

授業への参加姿勢（出席）：10%（①、②）

授業への参加姿勢（設問化・データ蓄積・分析）：25%（④、⑤、⑥）

発表・討論：25%（③、④、⑦）

分析レポート：40%（⑧）

## ●留意事項：

卒業論文の研究テーマをある程度考え始めておくこと。その研究テーマを意識した予備的調査を共同で行うが（設問持ち寄り式の「オムニバス調査」）、受講開始時点では関心がさまざまであることも予想されるので、演習で取り扱ったテーマは必ずしも卒業論文に結び付かなくてもよい（卒業論文の研究のための基礎訓練にはなる）。

先行研究についての発表は一人二巡行う予定である。

本演習のレポートやその先の卒業論文を作成するにあたってはPCを使うと効率的かつ見栄えもよくなり説得力が増すので、その環境を徐々に整えておくことが望ましい。「オムニバス調査」のデータ入力・集計には学内のPCを使う。

卒業論文を意識した演習ではあるが、卒業論文とは関係なく言葉について調査研究したい学生も歓迎する。

遅刻時間の長短にかかわらず、遅刻2回で欠席1回とみなす。ただし、公共交通機関の遅延など本人の責めに帰ることができない理由による遅刻は、遅延証明書添付でその旨の申告があった場合に限り遅刻扱いにしない。

オフィスアワーは「金曜日7・8限」である。事前予約の上相談に来ること。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

第1回 ガイダンス、履修者の問題意識の確認、発表の順番の相談

第2回 各自の関心と研究計画の発表 (1)

第3回 各自の関心と研究計画の発表 (2)

第4回 先行研究についての発表 [一巡目] (1)

第5回 先行研究についての発表 [一巡目] (2)

第6回 先行研究についての発表 [一巡目] (3)

第7回 「オムニバス調査」の調査項目・設問の検討 (1)

第8回 「オムニバス調査」の調査項目・設問の検討 (2)

第9回 「オムニバス調査」の調査票の確定・印刷

第10回 「オムニバス調査」の回収調査票の整理

第11回 「オムニバス調査」のエクセルデータの整備

第12回 「オムニバス調査」の結果報告 (1)

第13回 「オムニバス調査」の結果報告 (2)

第14回 先行研究についての発表 [二巡目] (1)

第15回 先行研究についての発表 [二巡目] (2)

レポート作成（「オムニバス調査」の分析レポート）

\* レポートの提出は2月中旬頃を締め切り予定とする。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 日本語学演習Ⅲ

[担当者] 星野 佳之  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B3-2340-o2

## ●本授業の概要：

各自が選んだ先行論文について、検証、批判の演習を行う。

## ●到達目標：

自らのテーマに於ける先行論を理解するとはどういうことか、その為に必要な思考・作業とはどのようなものか、実践を通じて理解する。

## ●成績評価の基準：

配点は、以下の通り。

発言点：50点 発表：20点 レポート：30点

期末にレポートを課す。毎回の発言を評価の対象として重視する。発言をしない者は、その回の評価はゼロである。出席日数が総授業回数の三分の二に満たない者には単位認定の資格を与えないが、出席が評価の対象になることはない。

## ●留意事項：

上記のような評価基準であるから、積極的な発言を試みないと、単位修得は困難である。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 第1回 インTRODクシヨン (1)
- 第2回 インTRODクシヨン (2)
- 第3回 発表1
- 第4回 発表2
- 第5回 発表3
- 第6回 発表4
- 第7回 発表5
- 第8回 発表6
- 第9回 発表7
- 第10回 発表8
- 第11回 発表9
- 第12回 発表10
- 第13回 発表11
- 第14回 発表12
- 第15回 発表13

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業に関する連絡をマナバフォリオを通じて行う場合がある。発表資料を1週間前までに、マナバフォリオを通じて受講者全員に配布することを求める。よって、受講生は必ず、初回までにマナバフォリオのリマインダー機能を使用可能な状況にしておくこと。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 対照言語学Ⅰ

[担当者] 青井 由佳  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義・演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

対照言語学の基本的な考え方や研究方法について理解する。また、各自が担当言語を決め、その言語について理解を深める。そして、それらの言語との比較対照を通して日本語の特徴についても考察する。

## ●到達目標：

対照言語学の目的や歴史、研究方法に関する知識を持つ。音声面、語彙面、文法面等、どのポイントからどのような視点を持って日本語と外国語の違いを意識化すればよいかを理解し、実践できる。

## ●成績評価の基準：

レポート：40%

提出物：30%

授業への参加姿勢：30%

## ●留意事項：

授業の開始時に外国語ができる必要はない。

ただし、未習の外国語への積極的な姿勢は必須。

レポート提出の際などに manaba を利用します。manaba を利用できる環境にしておくこと。

受講生の人数、特性などにより内容を変更する場合があります。

質問等はメールでも受け付ける。

alamakboleh © gmail.com (©を @に変更のこと)

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 対照言語学とは何か？
- 第3回 対照言語学の歴史
- 第4回 言語体系の対照 (1) - 音構造
- 第5回 言語体系の対照 (2) - アクセント・声調
- 第6回 言語体系の対照 (3) - 文字表記
- 第7回 言語体系の対照 (4) - 文法 - 語順
- 第8回 言語体系の対照 (5) - 文法 - 名詞文
- 第9回 言語体系の対照 (6) - 文法 - 形容詞文
- 第10回 言語体系の対照 (7) - 文法 - 動詞文
- 第11回 語彙 (1) - 人称
- 第12回 語彙 (2) - 数体系 助数詞
- 第13回 担当言語についての発表 (1)
- 第14回 担当言語についての発表 (2)
- 第15回 まとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

(予習) 毎回の授業で、次回までに調べておく課題を出す。他の受講生に説明できるようにきちんと調べてくること。

(復習) 授業で聞いた他言語の例などもふまえて、各自の担当言語についての理解を深めてください。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

- ・『対照言語学』、石綿敏雄 高田誠、桜楓社
- ・各自の担当言語に関する書籍(授業で指示する)

## 対照言語学Ⅱ

[担当者] 青井 由佳

[開講期] 2期

[授業形態] 講義・演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

前期「対照言語学Ⅰ」を踏まえ、受講生それぞれが興味のある外国語の仕組みを分析し、日本語との対照を行う。また、そこからどんな誤用が生まれるかを考え、日本語教育へのフィードバックを行う。

## ●到達目標：

様々な外国語との対照を通じ、日本語の特徴をつかむことができる。また、本当に「日本語にしかない特徴」があるのか、「その母語話者にしかない誤用」があるのか等、検証的に考えることができる。

## ●成績評価の基準：

発表 :40%

レポート :30%

授業への参加姿勢 :30%

## ●留意事項：

授業の開始時に外国語ができる必要はない。

ただし、未習の外国語への積極的な姿勢は必須。

レポート提出の際などにmanabaを利用する。manabaを利用できる環境にしておくこと。

講義内容は受講生の人数などにより変更の可能性がある。

質問等はメールでも受け付ける

alamakboleh@gmail.com (◎を@に変更)

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

第1回 オリエンテーション

第2回 各言語の概要（音声、アクセント、文字表記）

第3回 各言語の概要（語順、名詞文、動詞文）

第4回 挨拶(1) 呼びかけ

第5回 挨拶(2) 表現

第6回 授受表現

第7回 依頼表現

第8回 断り表現

第9回 日本語学習者を招いての講義

第10回 誤用分析（日・英）

第11回 誤用分析（日・中）

第12回 誤用分析（日・馬、その他）

第13回 受講生による発表(1)

第14回 受講生による発表(2)

第15回 まとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）毎回の授業で、次回のテーマについての課題を出す。他の受講生に理解できるようにきちんと調べてくること。

（復習）授業での内容を踏まえ、担当言語以外の知識など様々な視点を持って、言語についての理解を深めてください。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

&lt;必携書&gt;

教室で指示する

## 漢文学Ⅰ

[担当者] 橘 英範

[開講期] 1期

[授業形態] 講義 [単位] 2

[科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

この講義は、中国古典文学の概説の授業です。前半は、中国の古典文学の主な特色について、日本など他の国の文学とも比較しながら、説明を加えていきます。後半は、中国古典詩の大まかな流れについて説明します。

## ●到達目標：

中国の古典文学と古典詩の基本的な特徴について説明できます。身につけた知識を他の作品の読解に応用できます。

## ●成績評価の基準：

課題：20%

期末試験：80%

## ●留意事項：

毎回出席をとり、課題を2回出題する予定です。意欲をもって授業に臨んでください。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1 ガイダンス・中国古典文学の特色1－継続性

2 中国古典文学の特色2－現実性

3 中国古典文学の特色3－政治性

4 中国古典文学の特色4－非恋愛性1

5 中国古典文学の特色5－非恋愛性2

6 中国古典文学の特色6－規範性

7 中国古典詩の流れ1－毛詩と楚辞

8 中国古典詩の流れ2－古詩と古楽府

9 中国古典詩の流れ3－三国六朝の詩1

10 中国古典詩の流れ4－三国六朝の詩2

11 中国古典詩の流れ5－初盛唐の詩1

12 中国古典詩の流れ6－初盛唐の詩2

13 中国古典詩の流れ7－中晩唐の詩1

14 中国古典詩の流れ8－中晩唐の詩2

15 中国古典詩の流れ9－宋以後の詩

16 期末試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

外国の文学に関する講義の授業です。特に予習は必要ありませんが、毎回の授業内容を常に日本や他の国の文学と比較しながら受講し、自ら視野を広げてください。また、授業の復習としても、日本や他の国の文学と比較して、考察を深めてください。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

&lt;必携書&gt;

プリントを配布します。

&lt;参考書等&gt;

講義の中で適宜紹介します。

## 漢文学Ⅱ

[担当者] 橋 英範  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

漢文学Ⅰを承けて、中国の散文と文言小説を取り上げ、その大まかな流れについて説明を加えていきます。

## ●到達目標：

中国の散文と文言小説の基本的な特徴について説明できます。  
 身につけた知識を他の作品の読解に応用できます。

## ●成績評価の基準：

課題：20%  
 期末試験：80%

## ●留意事項：

毎回出席をとり、課題を2回出題する予定です。意欲をもって授業に臨んでください。なお、「漢文学Ⅰ」を履修していることを前提とした内容になりますので、注意してください。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 ガイダンス・中国の散文の流れ1－古文1
- 2 中国の散文の流れ2－古文2
- 3 中国の散文の流れ3－辞賦1
- 4 中国の散文の流れ4－辞賦2
- 5 中国の散文の流れ5－駢文
- 6 中国の散文の流れ6－古文復興運動1
- 7 中国の散文の流れ7－古文復興運動2
- 8 中国文言小説の流れ1－中国文言小説の特徴
- 9 中国文言小説の流れ2－志人小説
- 10 中国文言小説の流れ3－志怪小説
- 11 中国文言小説の流れ4－唐代伝奇1
- 12 中国文言小説の流れ5－唐代伝奇2
- 13 中国文言小説の流れ6－唐代伝奇3
- 14 中国文言小説の流れ7－宋～明の小説
- 15 中国文言小説の流れ8－聊斎志異
- 16 期末試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

外国の文学に関する講義の授業ですので、特に予習は必要ありませんが、毎回の授業内容を常に日本や他の国の文学と比較しながら受講し、自ら視野を広げてください。また、授業の復習としても、日本や他の国の文学と比較して、考察を深めてください。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 プリントを配布します。

<参考書等>  
 講義の中で適宜紹介します。

## 日本漢文学史

[担当者] 本間 洋一  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

従来の日本文学史では触れられることのあまりない日本漢文学の史的展開を学び、中国古典文学の享受や日本文学自体への寄与を把握して、日本古典文学に対するより広角な視野を持っていただけたらと思う。

## ●到達目標：

漢詩を読むための語彙や、漢字の知識、訓読や読解力を高めることを目指す。

- ・漢詩の基礎知識が身につけている
- ・漢詩の形式・詩語について理解力を持つ
- ・漢詩に表現される内容を、現代語で適切に表現できる
- ・古典の時代背景（歴史・思想等）を広角的に考えられる

以上のことなどを旨とする。

## ●成績評価の基準：

授業への取組や貢献度 30%  
 毎回（3回）の課題レポート 70%

## ●留意事項：

3日間にわたる集中講義で、毎回講義後に課題を示しますので、記述して提出して頂きます。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 漢字の伝来と上代の漢文学
- 2 『懐風藻』とその周辺
- 3 勅撰三集の時代
- 4 『白氏文集』の伝来と影響
- 5 菅原道真の漢詩～父と子と～
- 6 菅原道真とその周辺
- 7 和歌と漢詩と
- 8 句題詩をめぐって
- 9 院政期の漢詩～いちごと遊女～
- 10 禅林の文学1～雪村友梅～
- 11 禅林の文学2～師錬・周信・中津～
- 12 禅林の文学3～一休宗純～
- 13 江戸漢詩の世界1～白石・徂徠～
- 14 江戸漢詩の世界2～菅茶山・頼山陽～
- 15 江戸漢詩の世界3～女流詩人(1)～
- 16 江戸漢詩の世界4～女流詩人(2)～課題レポート

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前に配布されたプリントに目を通し、講義後はまとめノートを作りましょう。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 担当教員の作成したプリントを日本語日本文学科合同研究室で受け取ってください。

<参考書等>  
 授業中に随時指示します。

## 日本語表現法 I

[担当者] 伊木 洋

[開講期] 1期

[授業形態] 講義・演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 230B1-3000-o2

## ●本授業の概要：

本授業では、コンポジション理論を基礎として文章を書くための知識と方法を学び、グループワークによる紹介文集の作成を通して、大学生として、社会人として、さらに中学校・高等学校国語科教師や日本語教師として求められる文章表現力及び音声言語活用能力の向上を図るとともに、国語科教育における「書くこと」の学習指導法を身に付ける。

## ●到達目標：

1. 文章を書くための知識と方法を実践的に学び、文章表現課題を書いて発表することができる。
2. 文字言語及び音声言語による表現活動として、紹介文集を作成することができる。

## ●成績評価の基準：

- 授業への参加姿勢・学習記録：30%（到達目標1,2）
- 提出課題・文章表現課題：40%（到達目標1）
- 成果課題（文集作成）への取り組み・内容：30%（到達目標2）

## ●留意事項：

- 言語表現の学びにふさわしい主体的な学びの姿勢で受講すること。
- 「日本語表現法Ⅱ」を継続して履修することが望ましい。
- 教職必修（中学校・高等学校国語）の授業であり、主として「書くこと」の学習指導についての学びも深める。
- 学科科目のため、教職課程履修者でなくとも受講できる。
- 毎時間の自己評価を記述し、提出すること。
- 課題への取り組みを充実させ、期限を厳守して提出すること。
- 学びのすべてを学習記録に整理し、提出すること。
- オフィスアワー：火曜日9・10時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

国語科教員として「書くこと」の教育実践に携わった経験に基づいて、書くことのための具体的な場を設定し、文章を書くための知識と方法を実践的に指導する。

## ●授業予定一覧：

- 1 書くこと的生活自己点検
- 2 文章表現の基本
- 3 定義する
- 4 描写する
- 5 説明する
- 6 論証する
- 7 物語る
- 8 聞き書き
- 9 書き出しの工夫
- 10 編集会議(1)（企画案の検討 グループワーク）
- 11 編集会議(2)（取材計画の検討 グループワーク）
- 12 編集会議(3)（企画案・取材計画の発表 グループワーク）
- 13 編集会議(4)（取材に基づく原稿作成 グループワーク）
- 14 編集会議(5)（原稿の校正・編集 グループワーク）
- 15 文集作成の振り返り  
成果課題（文集原稿）、レポート、学習記録の提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

言語表現課題に即して、取材・選材、構成、記述、推敲、交流等の表現活動に積極的に取り組むこと。学び得た知識と方法を生かして、成果課題に主体的・協働的に取り組むこと。

## 【必携書（教科書販売）】

「ことばの授業づくりハンドブック 中学校・高等学校「書くこと」学習指導 実践史をふまえて」、浜本純逸監修 田中宏幸編、淡水社  
「大学生のための文章表現入門」、速見博司、蒼丘書林

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

「中学校学習指導要領解説国語編」、文部科学省、東洋館出版社  
「高等学校学習指導要領解説国語編」、文部科学省、教育出版  
「大村はま国語教室 第5巻 書くことの計画と指導の方法」、大村はま、筑摩書房

## 日本語表現法Ⅱ

[担当者] 伊木 洋

[開講期] 2期

[授業形態] 講義・演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 230B1-3000-o2

## ●本授業の概要：

本授業では、音声表現理論を基礎としてより良く話し聞くための知識と方法を学び、グループによる音声表現番組の制作及び発表を通して、大学生として、社会人として、さらに中学校・高等学校国語科教師や日本語教師として求められる音声言語活用能力及び文章表現力の向上を図るとともに、国語科教育における「話すこと・聞くこと」の学習指導法を身に付ける。

## ●到達目標：

1. より良く話し聞くための知識と方法を実践的に学び、音声表現課題に取り組み、発表することができる。
2. 音声言語及び文字言語による表現活動として、シナリオを書き、音声表現番組を制作し、発表することができる。

## ●成績評価の基準：

- 授業への参加姿勢・学習記録：30%（到達目標1,2）
- 提出課題・音声表現課題：40%（到達目標1）
- 成果課題（音声表現番組制作）への取り組み・内容：30%（到達目標2）

## ●留意事項：

- 言語表現の学びにふさわしい主体的な学びの姿勢で受講すること。
- 「日本語表現法Ⅰ」を履修しておくこと。
- 教職必修（中学校・高等学校国語）の授業であり、主として「話すこと・聞くこと」の学習指導についても学びを深める。
- 学科科目のため教職課程履修者でなくとも受講できる。
- 毎時間の自己評価を記述し、提出すること。
- 課題の内容を充実させ、期限を厳守して提出すること。
- 学びのすべてを学習記録に整理し、提出すること。
- オフィスアワー：火曜日9・10時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

国語科教員として「話すこと・聞くこと」の教育実践に携わった経験に基づいて、話すこと・聞くことのための具体的な場を設定し、より良く話し聞くための知識と方法を実践的に指導する。

## ●授業予定一覧：

- 1 話しことば自己点検
- 2 聞きやすい声
- 3 めりはりのある話し方
- 4 音読・朗読
- 5 聞き上手
- 6 わかりやすい話し方
- 7 スピーチ(1)
- 8 スピーチ(2)
- 9 プレゼンテーションガイダンス、音声表現番組制作の方法
- 10 アナウンサーに学ぶ音声表現番組制作において大切にしていること（特別講義）
- 11 音声表現番組の制作・企画会議(1)（企画案の検討）
- 12 音声表現番組の制作・企画会議(2)（企画の調整）
- 13 音声表現番組の制作・リハーサル
- 14 音声表現番組発表会
- 15 音声表現番組制作の振り返り  
成果課題（音声表現番組レポート）、学習記録の提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

言語表現課題に即して、音声表現活動に積極的に取り組むこと。学び得た知識と方法を生かして、成果課題に主体的・協働的に取り組むこと。

## 【必携書（教科書販売）】

適宜、資料を配付する。

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

「中学校学習指導要領解説国語編」、文部科学省、東洋館出版社  
「高等学校学習指導要領解説国語編」、文部科学省、教育出版  
「大村はま国語教室 第2巻 聞くこと・話すことの指導の実践」、大村はま、筑摩書房

## 日本書法史

【担当者】佐野 榮輝  
 【開講期】2期  
 【授業形態】講義・実技 【単位】2  
 【科目ナンバリング】230B1-2300-o2

## ●本授業の概要：

日本における書の変遷をたどる。漢字伝来以降、書の文化の展開を時代思潮や政治・文化などと関わらせつつ扱う。書体および書風の特徴を理解し印象を深めるため、使用資料に基づき臨書課題（実技・時間外学習）を設ける。

## ●到達目標：

1. 日本書法史上の主要な書人・作品と時代や図版が理解できること。
2. 図版の文字や変体仮名などが読解できること。
3. 書法用語を正確に使用できること。
4. 臨書課題を達成できること。

## ●成績評価の基準：

授業への取り組み度 20%（到達目標2）  
 臨書課題 10%（到達目標4）  
 定期試験 70%（到達目標1,2,3）

## ●留意事項：

【教職免（書道）必修】  
 オフィスアワー 水曜日5・6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 基礎調査、文字の渡来と金石文の展開（古墳）
- 2 中国書法の影響と写経の展開（飛鳥・奈良）
- 3 三筆（平安）1 最澄・空海
- 4 三筆（平安）2 空海
- 5 三筆（平安）3 嵯峨天皇・橘逸勢
- 6 三跡（平安）1 小野道風
- 7 三跡（平安）2 藤原佐理・藤原行成
- 8 仮名の発生と平仮名の成立（奈良・平安）
- 9 仮名の発展（平安）
- 10 和様の完成と仮名の展開（平安）
- 11 世尊寺流と法勝寺流（平安・鎌倉）
- 12 書流の形成と中国宋代の影響、尊円親王の書（鎌倉・南北朝）
- 13 書流の形成化と沈滞（室町～江戸）、寛永の三筆と黄檗の三筆（江戸）
- 14 唐様の展開と復古和様、幕末の三筆と新しい書の動き（江戸・明治）
- 15 造形芸術としての書（明治～現代）
- 16 定期試験

\* 毎回20分程度、仮名古筆の解説を課す。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

仮名古筆の解説を予習しておくこと。

## 【必携書（教科書販売）】

『日本書道史年表』、名見耶 明編、二玄社

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

〈必携書〉継続図書  
 『書道芸術 漢字編』久米東郎編著、萱原書房  
 『書Ⅰ』、『書Ⅱ』、『書Ⅲ』、関 正人ほか、教育図書

## 中国書法史

【担当者】佐野 榮輝  
 【開講期】1期  
 【授業形態】講義・実技 【単位】2  
 【科目ナンバリング】230B1-2300-o2

## ●本授業の概要：

中国における書の変遷をたどる。漢字の起源、書体や書風の推移、書の文化の展開を時代思潮や政治・文化などと関わらせつつ扱う。書体および書風の特徴を理解し印象を深めるため使用資料に基づき臨書課題（実技・時間外学習）を課す。また後半に、各自が古典作品や書人を調査し、レジュメ発表を行う。

## ●到達目標：

1. 中国書法史上の主要な書人・作品と時代や図版を理解することができる。
2. 図版の書体（篆書・隸書・草書など）や、旧字・書写体を読解することができる。
3. 書法用語を正確に理解し、使用することができる。
4. 臨書課題を書くことができる。
5. 古典作品や書人を調査し、レジュメ発表を行うことができる。

## ●成績評価の基準：

・レジュメ発表 20%（到達目標5）  
 ・臨書課題 10%（到達目標4）  
 ・定期試験 70%（到達目標1,2,3）

## ●留意事項：

【教職免（書道）必修】  
 オフィスアワー 水曜日5・6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 基礎調査・レジュメ発表について・中国史概説
- 2 古代の漢字（殷・周・秦）
- 3 書体の分化・発展（漢・三国・晋）
- 4 現行書体の完成と王羲之（東晋・南北朝・隋）
- 5 書体と書風（唐）唐の四大家1 唐太宗・虞世南
- 6 唐の四大家2 歐陽詢
- 7 唐の四大家3 褚遂良
- 8 唐の四大家4 顔真卿
- 9 古法と新風の隆替（宋～明）
- 10 帖学派と碑学派の交流（清）
- 11 レジュメ発表1 二王ほか 11～15は受講者数に因って勘案。詳細は授業時に指示
- 12 レジュメ発表2 唐の四大家ほか
- 13 レジュメ発表3 宋の三大家ほか
- 14 レジュメ発表4 明代書人
- 15 レジュメ発表5 清代書人
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

レジュメ発表は4月に決定するので、資料の読み込みと、書道用語の丁寧な下調べを行っておくこと。

## 【必携書（教科書販売）】

『中国書道史年表』玉村舜山編 二玄社  
 新2年生のみ 『書Ⅱ』、『書Ⅲ』、教育図書

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

〈必携書〉継続図書  
 『書道芸術 漢字編』（改訂版）久米 公編著、萱原書房  
 『書Ⅰ』、『書Ⅱ』、『書Ⅲ』教育図書

## 文学創作論Ⅲ

[担当者] 山根 知子

[開講期] 1期

[授業形態] 講義・演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

小説を中心とした創作に挑戦し、実践を通して創作の基本を掴み、自分なりの自己表現として、創作の手段を身につけることをねらいとする。その際、朗読の勉強を同時に行うことで言語感覚を磨き、特別講義講師水野智晴氏より朗読指導を受け、豊かな表現力を養う。創作実践においては、特別講義講師の作家村田喜代子氏より創作指導を受け、創作の質を高める。

## ●到達目標：

- ① 朗読の基本を自分なりに身につけ発表できる。
- ② 創作の基本を自分なりに身につけ発表できる。
- ③ 言語感覚をときずまし、文学表現によって、自分が最も表現したいことは何なのかという自らの内面についての気づきを得ながら、自分らしい表現手段を獲得できる。
- ④ 他者の作品について、自らの価値観から評価することができる。
- ⑤ 他者からの評価に対応する自らの判断力をもって推敲ができ、完成度を増して上げることができる。

## ●成績評価の基準：

授業態度（合評・練習態度等）：30%（到達目標①、②、③、④）

朗読：30%（到達目標①）

完成させた創作作品：40%（到達目標②、③、④、⑤）

## ●留意事項：

- ・「文学創作論Ⅳ」を継続履修することが望ましい。
- ・通常の時間割以外に、土曜日に特別授業を行うので、事前に授業予定一覧の日程を確認し、さらに第1回目の授業での補足説明を聞き、土曜日の授業に出席可能であることを確認すること。
- ・オフィスアワーは、木曜日7,8時限。

## ●実務経験の授業への活用方法：

特別講義講師である水野智晴氏は、岡山において文学作品の朗読をする「朗読塾」を結成し長年朗読公演を行っている。その経験から朗読指導をいただくことで、基礎を踏まえて深い作品解釈による自分らしい朗読ができるようになる。

特別講義講師である村田喜代子氏は、1987年に第97回芥川賞を受賞し、今日に至るまでの長年の小説創作および出版経験の蓄積があるうえに、小説創作および文章表現の指導の経験も豊富な作家である。村田喜代子氏には、「文学創作論Ⅲ」「文学創作論Ⅳ」を通して、学生が創作した作品を読み、授業で講評していただくことで、一人ひとりの長所短所の指摘や個性を伸ばす方向で推敲し完成度を増していくためのアドバイスにより、作品を完成し自信をもって公表できるようになる。

## ●授業予定一覧：

1. イントロダクション
2. 朗読についての話し合い
3. 朗読練習（1）
4. 水野智晴氏による朗読指導（1）
5. 朗読練習（2）
6. 水野智晴氏による朗読指導（2）
- 7・8. 朗読本番（6月の土曜日1,2〜3,4限  
坪田譲治子どもの館にて）
9. 創作実践
10. 合評会（1）
11. 合評会（2）
12. 合評会（3）
13. 合評会（4）
- 14・15. 村田喜代子氏による創作指導（7月6日（土）3,4〜5,6限）
16. 前期創作作品提出 夏休み課題の確認と開始

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・この授業では、教員および学生同士の伝達、また創作課題の提出および閲覧・印刷等、あらゆる場面で、manaba を利用する。常に manaba 上での指示に対応して、全体の流れに応じて行動してほしい。
- ・1期では、朗読本番までの練習や打ち合わせ等については、授業外でも同グループや係での作業を進めてほしい。
- ・創作作品提出日が示されたら、数週間をかけて作品を完成させ、自分の作品に対する合評でアドバイスを受けたら、次の授業までに推敲をすること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

前年度の創作文集 500円（初回の授業中に販売する）

## 文学創作論Ⅳ

[担当者] 山根 知子

[開講期] 2期

[授業形態] 講義・演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 230B1-2340-o2

## ●本授業の概要：

小説を中心とした創作に挑戦し、実践を通して創作の基本を掴み、自分なりの自己表現として、創作の手段を身につけることをねらいとする。夏休みの創作課題に対して、履修生同士での合評を重ね、特別講義講師の作家村田喜代子氏より講評をしていただき、文集掲載作品を練り上げる。

## ●到達目標：

- ① 創作の基本を自分なりに身につけ発表できる。
- ② 言語感覚をときずまし、文学表現によって、自分が最も表現したいことは何なのかという自らの内面についての気づきを得ながら、自分らしい表現手段を獲得できる。
- ③ 他者の作品について、自らの価値観から評価することができる。
- ④ 他者からの評価に対応する自らの判断力をもって推敲ができ、完成度を増して上げることができる。
- ⑤ 編集過程で大切な作業を理解し、担った仕事を責任をもって入念にやり遂げることができる。

## ●成績評価の基準：

授業態度（合評・編集作業等）：30%（到達目標①、②、③、④、⑤）

授業での創作：30%（到達目標①、②）

文集掲載作品：40%（到達目標①、②、③、④、⑤）

## ●留意事項：

- ・前期に「文学創作論Ⅲ」を履修した者の継続履修であることが望ましい。
- ・通常の時間割以外に、土曜日に特別授業を行うので、事前に授業予定一覧の日程を確認し、参加可能であること。
- ・オフィスアワーは、木曜日7,8時限。

## ●実務経験の授業への活用方法：

特別講義講師である村田喜代子氏は、1987年に第97回芥川賞を受賞し、今日に至るまでの長年の小説創作および出版経験の蓄積があるうえに、小説創作および文章表現の指導の経験も豊富な作家である。村田喜代子氏には、「文学創作論Ⅲ」「文学創作論Ⅳ」を通して、学生が創作した作品を読み、授業で講評していただくことで、一人ひとりの長所短所の指摘や個性を伸ばす方向で推敲し完成度を増していくためのアドバイスにより、作品を完成し自信をもって公表できるようになる。

## ●授業予定一覧：

- （夏休み中） 創作課題を完成
1. 夏休み課題を提出し、全員に配布。  
今後の合評について 説明。
  2. 合評会（1）
  3. 合評会（2）
  4. 合評会（3）
  5. 合評会（4）
  - 6・7. 作家村田喜代子氏による作品講評  
（10月26日（土）1,2〜3,4限）
  8. 合評会（1）
  9. 合評会（2）
  10. 合評会（3）
  11. 合評会（4）
  12. 文集編集作業（作品校正）
  13. 文集編集作業（作品データ編集）
  14. 文集編集作業（目次・表紙・編集後記・各データの統合編集）
  15. 文集編集作業（印刷業者とのやりとり）
  16. 文集完成・文集贈呈作業

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・この授業では、教員および学生同士の伝達、また創作課題の提出および閲覧・印刷・編集等、あらゆる場面で、manaba を利用する。常に manaba 上での指示に対応して、全体の流れに応じて行動すること。
- ・創作作品提出日が示されたら、数週間をかけて作品を完成させ、自分の作品に対する合評でアドバイスを受けたら、次の授業までに推敲をすること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

前年度の創作文集（前期に入手済み）

## 書道卒業制作

〔担当 者〕 佐野 榮輝  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 演習・実技 [単位] 4  
 〔科目ナンバリング〕 230B3-4000-o4

## ●本授業の概要：

三年間、大学で書を学んで培った実技・理論を昇華させる最終ステージとして設定する。書の意義について理解し、表現力・鑑賞力を高め、学年末に学科主催による「第2回書道卒業制作展」を開催の予定。

日程上、3年次2月の「篆刻法」集中自主実習終了後、24期からの役割の引継ぎである「顔見世」から始動する。

## ●到達目標：

1、漢字、仮名もしくは漢字仮名交じりの書、一字書もしくは少字数書、篆刻などの分野から、臨書（模刻）・創作など、もっとも取り組みたい作品各自5点を目標に制作し、学外で卒業展を開催することができる。

出品点数や作品の大きさは履修者数と会場壁面を勘案して決定する。

2、履修者全員の協働によって書道卒業制作展を開催することができる。

3、所感文集「心画抄」を編集・発行することができる。

## ●成績評価の基準：

一年間、書とどのように取り組み、どのように活動したか。各自の計画性、自発性ととくに、各自の役割、履修者相互の連携、協調性を含めて総合的に評価する。

作品 50% (到達目標1)

所感文集 20% (到達目標3)

役割・協調性 30% (到達目標2)

## ●留意事項：

## 【受講条件】

万多数の場合の優先順位は①書教法履修②書の関係単位修得状況に拠る。

多くの場合、鑑賞作品には落款印を必要とするため、3年次後期「篆刻法」単位取得者に限る（ただし4年次後期に「篆刻法」履修することも可とする）。

費用：用具・用材等は自己負担。

## 【時間外学習】

作品制作・展覧会開催までにはかなり要する。

また他の曜日（主に土曜）への振替、休暇中の集中実習日もしくは夏季合宿を設ける。

【オフィスアワー】 水曜日9:00-18:00

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

下記はモデル・プラン。日程の詳細は3年次の2～3月中旬の「顔見世」で明示する。

★は集中実習予定日

制作作品 ①半切 ②全紙×2  
 ③漢字仮名交じりの書もしくは仮名の書  
 ④一字書もしくは少字数書 ⑤篆刻

2～3月中旬 顔見世・24期生からの事務引き継ぎ・役割分担・パネル布貼り実習・古典選択ほか

1～4 ①作品制作

★5月（土1～10限）裏打ち実習・①作品完成

5～6 ②作品制作

7～9 教育実習期間は集中実習日へ振替

10～11 ③作品制作

12～14 ②作品制作

15 ③作品選別・押印

★夏季集中実習・合宿 ②③作品裏打ち・完成

16～17 ⑤作品制作

18～19 ④作品制作

20～22 ⑤作品制作 ホスター・案内状原稿作成・入稿

23 ④作品選別・押印

24～25 集中実習へ振替

★冬季集中実習 ④⑤作品裏打ち・完成

26～27 卒業準備（所感文集「心画抄」版下作成・入稿ほか）

28～30 書道卒業制作展（1月を予定）

31～32 アンケート集計・作品集作成・教室・準備室等の整理整頓など

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

随時指示する。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>すべて継続図書

## 国語科教育法 I

〔担当 者〕 伊木 洋  
 〔開 講 期〕 2期  
 〔授 業 形 態〕 講義・演習 [単位] 2  
 〔科目ナンバリング〕 230B3-2000-o2

## ●本授業の概要：

本授業では、中学校及び高等学校学習指導要領に示された国語科の全体構造、目標、育成を目指す資質・能力、学習内容を理解し、国語単元学習など基礎となる学習指導理論を踏まえて、学習者主体の授業設計を行うための基本的な考え方を学ぶ。

## ●到達目標：

中学校及び高等学校学習指導要領における国語科の全体構造、目標、学習内容、学習評価、指導上の留意点等を理解し、基礎となる学習指導理論を踏まえ、学習者の実態に基づいて豊かな言語活動を組織し、教材及び情報機器等を効果的に活用して授業設計を行うための基本的な考え方を身に付ける。

## ●成績評価の基準：

○授業への主体的な参加姿勢・学習記録：30%

○提出課題・レポート：40%

○テスト：30%

## ●留意事項：

○教職課程履修生にふさわしいあり方で受講すること。

○国語教室の創造に向けて、自己の教育・国語教育観の確立を目指すこと。

○毎時間の自己評価を記述し、提出すること。

○課題への取り組みを充実させ、期限を厳守して提出すること。

○学習のすべてを国語学習記録に整理し、提出すること。

○オフィスアワー：火曜日9:10-18:00

## ●実務経験の授業への活用方法：

国語科教員として教育実践に携わっていた経験に基づいて、学習指導要領及び基礎となる学習指導理論を踏まえて、学習者主体の授業設計を行うための基本的な考え方を指導する。

## ●授業予定一覧：

1 国語科教育の全体構造

2 国語科教育の基本的な考え方

3 国語科教育の実践研究に学ぶ

4 学習者の実態に基づく授業設計

5 教材研究、学習材の開発

6 学習のてびきの活用、小テスト(1)

7 国語学習記録の価値

8 言語活動の充実、発展的な学習内容

9 国語教室通信の活用

10 学校図書館、情報機器等の活用、小テスト(2)

11 国語学力、学習評価の考え方

12 中学校学習指導要領国語科における各学年の目標

13 中学校学習指導要領国語科における各学年の内容、指導上の留意点

14 高等学校学習指導要領国語科における各科目の目標

15 高等学校学習指導要領国語科における各科目の内容、指導上の留意点

定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

学習指導要領をふまえ、大村はま国語単元学習に学びつつ、国語教室を創造するための基本的な考え方を習得する。本学図書館の資料（伊木指定図書）を積極的に活用してレポートを作成し、主体的に学びを深めること。

## 【必携書（教科書販売）】

『中学校学習指導要領解説国語編』（平成29年7月）、文部科学省、東洋館出版社

『高等学校学習指導要領解説国語編』（平成30年7月）、文部科学省、教育出版

『平成29年版中学校新学習指導要領の展開国語編』、富山哲也編著、明治図書

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）、文部科学省

『高等学校学習指導要領』（平成30年告示）、文部科学省

<参考書等>

『大村はま国語教室 全15巻 別巻1』、大村はま、筑摩書房

『大村はま国語教室全15巻別巻1 巻別内容総覧』、橋本暢夫編、溪水社

## 国語科教育法Ⅱ

[担当者] 伊木 洋

[開講期] 1期

[授業形態] 講義・演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 230B3-3000-o2

## ●本授業の概要：

本授業では、学習指導理論を踏まえた多様な学習指導法を実践事例を通して探究するとともに、中学校及び高等学校学習指導要領国語科の目標及び内容を踏まえて、単元を構想し、学習指導案を作成する基本的な方法を学ぶ。

## ●到達目標：

中学校及び高等学校学習指導要領に示された国語科の目標、育成を目指す資質・能力、学習内容について理解を深め、学習指導理論を踏まえて、具体的な実践事例に基づいて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基本的な能力を身に付ける。

## ●成績評価の基準：

- 授業への主体的な参加姿勢・学習記録：30%
- 提出課題・レポート：40%
- テスト：30%

## ●留意事項：

- 教職課程履修生にふさわしい在り方で受講すること。
- 国語教室の創造に向けて、自己の教育・国語教育観の確立を目指すこと。
- 毎時間の自己評価を記述し、提出すること。
- 課題への取り組みを充実させ、期限を厳守して提出すること。
- 学習のすべてを国語学習記録に整理し、提出すること。
- オフィスアワー：火曜日9・10時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

国語科教員として教育実践に携わった経験に基づいて、学習指導要領及び学習指導理論を踏まえ、具体的な実践事例を示して、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基本的な能力を指導する。

## ●授業予定一覧：

- 1 国語科教育の目標、内容、実践研究の動向
- 2 学習指導法の研究（〔知識及び技能〕）
- 3 学習指導法の研究（〔思考力、判断力、表現力等〕「話すこと・聞くこと」）
- 4 学習指導法の研究（〔思考力、判断力、表現力等〕「書くこと」）
- 5 学習指導法の研究（〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」）
- 6 学習指導法の研究（学習指導過程論）
- 7 学習指導法の研究（国語教育論争）
- 8 学習評価の研究、小テスト(1)
- 9 教材研究、単元構想の理論と方法
- 10 中学校学習指導案作成の方法（学習者の実態の把握、目標、単元の指導と評価の計画）
- 11 中学校学習指導案作成の方法（本時案、本時目標、言語活動、評価、指導上の留意点）
- 12 高等学校学習指導案作成の方法（学習者の実態の把握、目標、単元の指導と評価の計画）
- 13 高等学校学習指導案作成の方法（本時案、本時目標、言語活動、評価、指導上の留意点）
- 14 学校図書館・情報機器等の活用法、小テスト(2)
- 15 関連指導及び発展的な学習内容の探究  
定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

本学図書館の資料（伊木指定図書）を積極的に活用し、具体的な実践事例に幅広く目を通し、主体的に学びを深めること。

## 【必携書（教科書販売）】

『中学校国語科学習指導の創造』、伊木洋、淡水社

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『中学校学習指導要領』（平成29年3月）、文部科学省

『高等学校学習指導要領』（平成30年告示）、文部科学省

『中学校学習指導要領解説国語編』（平成29年7月）、文部科学省、東洋館出版社

『高等学校学習指導要領解説国語編』（平成30年7月）、文部科学省、教育出版

『平成29年版中学校新学習指導要領の展開国語編』、富山哲也編著、明治図書

<参考書等>

『大村はま国語教室 全15巻 別巻1』、大村はま、筑摩書房

『大村はま国語教室全15巻別巻1 別巻内容総覧』、橋本暢夫編、淡水社

## 書道科教育法Ⅰ

[担当者] 佐野 榮輝

[開講期] 1期

[授業形態] 演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 230B3-3000-o2

## ●本授業の概要：

高等学校芸術科書道教育に関する理論と方法について、実技を交えながら概説する。学習指導要領の芸術科ならびに「書道」各科目の目標・内容・内容の取り扱いを検討し、さらに内容の指導事項、背景となる学問領域を理解して教材研究に活用し、学習評価および発展的な学習内容について探る。

## ●到達目標：

芸術科書道における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

## ●成績評価の基準：

- ・定期試験 60点
- ・レポート 20点
- ・発表 20点

## ●留意事項：

【教職免〈書道〉「教職に関する科目」必修】

【受講条件】①履修登録の際は、履修費を納入すること

②時間外学習を必要とする

【発展科目】2期開講の「書道科教育法Ⅱ」も必修

【オフィスアワー】水曜日5・6限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 国語科書写から芸術科書道へ 学習指導要領の目標・内容・全体構成(1)「書道Ⅰ」について
- 2 学習指導要領の目標・内容・全体構成(2)「書道Ⅱ」について
- 3 学習指導要領の目標・内容・全体構成(3)「書道Ⅲ」について
- 4 表現と鑑賞、臨書と創作における評価について
- 5 年間学習計画の立案(1)「書道Ⅰ」について
- 6 年間学習計画の立案(2)「書道Ⅱ」について
- 7 年間学習計画の立案(3)「書道Ⅲ」について
- 8 指導事項・内容の調査発表(1)漢字仮名交じりの書「俳句・短歌」について
- 9 指導事項・内容の調査発表(2)漢字仮名交じりの書「散文」について
- 10 指導事項・内容の調査発表(3)漢字の書「楷書・行書」について
- 11 指導事項・内容の調査発表(4)漢字の書「篆書・隸書・草書」について
- 12 指導事項・内容の調査発表(5)仮名の書「高野切」について
- 13 指導事項・内容の調査発表(6)仮名の書「三色紙」について
- 14 表現と鑑賞、臨書と創作における評価についての再検討
- 15 実践研究例について(1)漢字仮名交じりの書の授業案について((2)は第2期第1回に)
- 16 定期試験

第8回から、各社の教科書教材・書道ⅠからⅢまでをグループごとに、調査・比較し、指導事項の内容を探り、レジュメを作成・発表する予定。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

『高等学校学習指導要領』（平成30年告示 文部科学省）

『高等学校学習指導要領解説・芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（平成30年7月 文部科学省）

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書> 継続

『書道芸術 漢字編』、久米 公、萱原書房

『書Ⅰ』（平成28年検定済み）、『書Ⅱ』（平成29年検定済み）、『書Ⅲ』（平成26年検定済み）、教育図書

## 書道科教育法Ⅱ

[担当者] 佐野 榮輝  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B3-3000-o2

## ●本授業の概要：

1期開講の「書道科教育法Ⅰ」を踏まえた上で、各自が年間指導計画・単元指導計画さらに本時案を作成し、後半に模擬授業を行い、その振り返りを通して、教材の作り方や指導の技術・方法について、授業改善に向けて、工夫・検討する。「教育の方法及び技術を含む」。

## ●到達目標：

芸術科書道における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

## ●成績評価の基準：

・指導案 30点  
 ・模擬授業 40点  
 ・授業改善レポート 30点

## ●留意事項：

【教職免（書道）「教職に関する科目」必修】  
 【受講条件】①1期開講の「書道科教育法Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。  
 ②時間外学習を必要とする。  
 【オフィスアワー】水曜日5・6限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 実践研究例について (2) 漢字の書、仮名の書の授業案について
- 2 単元指導計画の立案 (1) 担当単元の決定・模擬授業日程案について
- 3 単元指導計画の立案 (2) 担当単元計画の発表
- 4 本時案の指導計画と教材研究 (1) 担当教材の研究発表
- 5 本時案の指導計画と教材研究 (2) 担当教材の再検討
- 6 「方法及び技術」(情報機器及び教材の効果的な活用法を含む) (1) 範書・板書計画
- 7 「方法及び技術」(情報機器及び教材の効果的な活用法を含む) (2) 副教材・ワークシート・評価票の作成
- 8 模擬授業指導案の最終再検討
- 9 模擬授業と授業改善 (1) 楷書の学習 初唐の三大家
- 10 模擬授業と授業改善 (2) 楷書の学習 北魏の楷書
- 11 模擬授業と授業改善 (3) 行書の学習 王羲之「蘭亭序」
- 12 模擬授業と授業改善 (4) 行書の学習 空海「風信帖」
- 13 模擬授業と授業改善 (5) 仮名の学習 仮名の基本用筆・連綿・変体仮名
- 14 模擬授業と授業改善 (6) 仮名の学習 「高野切」
- 15 まとめ

定期試験は実施しない

・模擬授業実践後、生徒役からのコメントカードをまとめ、授業改善についてのレポートを作成配付。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：  
 随時指示する。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>継続図書  
 1期「書道科教育法Ⅰ」指定図書  
 『高等学校学習指導要領』（平成30年告示 文部科学省）  
 『高等学校学習指導要領解説・芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（平成30年7月 文部科学省）  
 『書道芸術 漢字編』久米 公、菅原書房  
 『書Ⅰ』（平成28年検定済み）、『書Ⅱ』（平成29年検定済み）、『書Ⅲ』（平成26年検定済み）、教育図書

## 書法基礎

[担当者] 佐野 榮輝  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 実技 [単位] 1  
 [科目ナンバリング] 230B4-1000-o1

## ●本授業の概要：

四年間、書を学ぶための最初のステージ。書写を含め、基礎的知識・技能の習得を図り、併せて古典を体験して書美の理解に勉め、漢字の各体（五書体の弁別、書写体・活字体、新旧の別）理解のため、書体字典の使い方に習熟する。

## ●到達目標：

- 1、「書」についての概念を改めて問い直し、毛筆の多機能性に注目して、用筆・線質の違いと書の多様な美との関係を理解し、表現できること。
- 2、字書は学書に不可欠の工具書であり、部首を覚え自由に駆使することができること。
- 3、簡単な和綴り製本ができること。

## ●成績評価の基準：

- ①毛筆課題「書法基礎帖」 60%（到達目標1、2、3）
- ②硬筆課題 20%（到達目標1、2、3）
- ③レポート 20%（到達目標1、3）

## ●留意事項：

【教職免（書道）必修（中学国語）選択】  
 【受講条件】第1週目に必ず出席すること。  
 【時間外学習】かなり要する。教職免（中学国語）取得希望者は、3年次開講科目「書写法Ⅰ」（中学国語・必修）「書写法Ⅱ」「硬筆書法」「書式研究」（「書写を中心とする」）を履修することが望ましい。詳しくは「書写法Ⅰ・同Ⅱ」を参照。  
 【発展科目】2期開講「楷・行書法Ⅰ」  
 【オフィスアワー】水曜日5・6限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. ガイダンス・基礎調査・用具用材の説明と発注
2. 磨墨法、姿勢、執筆法、運筆法
3. 楷書基本点画
4. 背勢と向勢
5. 露鋒と藏鋒
6. 順筆と逆筆
7. 直筆と円筆（篆書の用筆）
8. 側筆と方筆（隸書の用筆）
9. 意連と形連（草書の用筆）
10. 意連と形連（行書の用筆）
11. 字書の使い方（部首と画数、書写体と活字体、許容体）
12. 字書から集字する（題箋・落款）
13. 和綴り実習①
14. 和綴り実習②
15. 所感文作成 作品提出
16. 定期試験 作品返却 夏季課題について

\*上記講義内容は、随時、中学書写と関連させつつ扱う（「書写を含む」）。

\*第1週目に用具の説明・発注をするので、必ず出席すること。なお、書道用具があれば持参すること。（第1週目に欠席する場合は前もって担当者に連絡するか、事後は早急に相談すること。それ以降は各自で用具を準備し、講義に臨むこと）

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

かなり時間外学習を要する。毎時の終わりに次時の課題を予告するので、あらかじめ半紙での臨書作品と、トレーシングペーパーでの双鉤を採って、講義に臨むこと。

## 【必携書（教科書販売）】

『書Ⅰ』、關 正人ほか編、教育図書  
 『書道芸術〈漢字編〉』改訂版、久米東郎、菅原書房

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 伏見冲敬編『角川書道字典』角川書店（やや高価だが、生涯使用できる工具書なので、早くから引き慣れることが望ましい）

## 漢字仮名交じり書法 I

[担当者] 倉橋 肇  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 実技 [単位] 1  
 [科目ナンバリング] 230B4-1000-o1

## ●本授業の概要：

中国で生まれた漢字と日本で作られた仮名、それを混交させているのが現代の日本語の表記法である。漢字と仮名の調和をことばや詩文を題材として学び、理解を深める。

## ●到達目標：

漢字と仮名の基本的な調和について、その要点を説明できる。身近の書に関心を持ち、応用する力を体得する。

## ●成績評価の基準：

- ・提出課題 80点
- ・要点の理解度 20点

## ●留意事項：

【教職免（書道）必修】  
 【受講条件】定員あり  
 【発展科目】後期「仮名書法Ⅰ」  
 3年次「漢字仮名交じり書法Ⅱ」

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 基礎調査・用具発注
2. 日本語表記の特徴
3. 歴史上の表記方法
4. 明治時代以降に見られる漢字仮名交じり書
5. 漢字を基調とした漢字仮名交じり書①（楷書）
6. 漢字を基調とした漢字仮名交じり書②（楷書）
7. 漢字を基調とした漢字仮名交じり書③（行書）
8. 仮名を基調とした漢字仮名交じり書①（太細）
9. 仮名を基調とした漢字仮名交じり書②（連綿）
10. 仮名を基調とした漢字仮名交じり書③（潤濁）
11. 名文を書く①（俳句）
12. 名文を書く②（和歌）
13. 名文を書く③（和歌）
14. 名文を書く④（古文）
15. 名文を書く⑤（古文）
16. 作品のまとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

【必携書（教科書販売）】  
 『書Ⅰ』、關 正人ほか編、教育図書

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
 <参考書等>  
 配布プリント

## 楷・行書法 I

[担当者] 佐野 榮輝  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 実技 [単位] 1  
 [科目ナンバリング] 230B4-1000-o1

## ●本授業の概要：

1期「書法基礎」で培った基礎的知識・技能をさらに深化・発展させ、自在な運筆と鋒の開閉を修得するために、行書は『蘭亭序』を多角的に学び、さらに楷書は『蘇孝慈墓誌銘』によって基本点画・結構法を学ぶ。書写を含む。

## ●到達目標：

1. 『蘭亭序』下記全臨5本+発展課題2本を含め7本以上を書き上げることができる。  
 (A 半紙4行自己添削本, B 半紙4行清書本, C 原寸臨書本, D 半紙6字拡大臨書本, E 硬筆骨書き本)
2. 『蘇孝慈墓誌銘』の基本点画を理解し、臨書することができる。
3. 和綴り製本ができる。

## ●成績評価の基準：

- ・行書課題 70%（到達目標1,3）
  - ・楷書課題 20%（到達目標2,3）
  - ・レポート 10%（到達目標1,2）
- 授業態度・意欲・要点の理解、問題点の克服を高く評価する。

## ●留意事項：

【教職免（書道）必修・（中学国語）選択】  
 【受講条件】1期開講「書法基礎」を履修していることが望ましい。はじめて履修する場合は書道用具。テキストは自身で用意すること  
 【時間外学習】かなり要する。  
 【オフィスアワー】水曜日5・6限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 行書の歴史と名品、行書の特徴と基本用筆、王羲之と蘭亭序
2. 【蘭亭序】以下、講義では小筆を主として、自己添削を行いつつ、上記「到達目標」 1A～Eを同時進行すること。  
 本文第1～3行目（3行）
3. 本文第4～7行目（4行）
4. 本文第8～12行目（5行）
5. 本文第13～17行目（5行）
6. 本文第18～22行目（5行）
7. 本文第23～28行目（6行）
8. 題箋・落款の書き方、字書からの集字①〔二十四節気による落款法〕
9. 題箋・落款の書き方、字書からの集字②
10. 【蘇孝慈墓誌】による基本点画（大筆・半紙）①点
11. ②横、③豎 【卒展参観のための芳名録の書き方①】
12. ④撇 【卒展参観のための芳名録の書き方②】
13. ⑤捺、⑥挑
14. ⑦折、⑧鈎
15. 和綴り実習・作品提出
16. 定期試験 作品返却

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：  
 随時指示する。

【必携書（教科書販売）】  
 『行書がうまくなる本 蘭亭序を習う』、筒井茂徳、二玄社

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
 <必携書>  
 ○1期「書法基礎」指定図書

<参考書等>  
 伏見冲敬『角川書道字典』（角川書店）

## 仮名書法 I

[担当者] 倉橋 肇  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 実技 [単位] 1  
 [科目ナンバリング] 230B4-1000-o1

### ●本授業の概要：

仮名の筆使づかいと、リズムカルな運筆に慣れる。俳句や和歌を題材にして、散らし書きという仮名独自の紙面構成を学ぶ。美しい仮名の料紙を使い平安期の美にふれる。

### ●到達目標：

仮名の技法を理解し、仮名の美しさを構成する要素を説明できる。日本独自の仮名の用筆・運筆を表現できる。

### ●成績評価の基準：

- ・提出課題 80点
- ・要点の理解度 20点

### ●留意事項：

【受講条件】前期「漢字仮名交じり書法Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【教職免（書道）必修】

【発展科目】3年次「仮名書法Ⅱ」

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

1. 仮名の成立
2. いろは歌①（基本の線）
3. いろは歌②（形）
4. いろは歌③（潤濁）
5. 変体仮名①（特色）
6. 変体仮名②（役割り）
7. 連綿①（運筆）
8. 連綿②（運筆）
9. 俳句を書く①（濃淡）
10. 俳句を書く②（潤濁）
11. 俳句を書く③（墨継ぎ）
12. 和歌を書く①（四行書き）
13. 和歌を書く②（四行書き）
14. 和歌を書く③（散らし書き）
15. 和歌を書く④（散らし書き）
16. 作品のまとめ

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

#### 【必携書（教科書販売）】

『かなのレッスン1』, 村上翠亭, 二玄社

#### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 配布プリント

## 書写法 I

[担当者] 佐野 榮輝  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 実技 [単位] 1  
 [科目ナンバリング] 230B4-3000-o1

### ●本授業の概要：

国語科書写教育に関する理論と方法について、楷書・行書を中心に実技を交えながら概説する。文字を手書きすることの意義を踏まえ、書写の目標を明確にし、基本的学習指導過程の確立を探求する指導者の育成を目指す。書写を中心とする。

### ●到達目標：

1. 指導者としての自覚を持って、姿勢・執筆法を説明できる。
2. 学年別漢字配当表の漢字の筆順と、行書の「筆順の変化」が説明できる。
3. 硬筆・毛筆の書字力の向上に努めることができる。
4. 書写用語を正確に用いることができる。
5. 簡単な和綴り製本ができる。

### ●成績評価の基準：

- ・提出課題
- ①毛筆「書写帖（上）」50%（到達目標1、3、5）
- ②硬筆「筆順ノート」20%（到達目標2）
- ③試験（あるいはレポート）30%（到達目標4）

### ●留意事項：

【教職免（中学国語）選択必修】

【時間外学習】かなり要する。

【発展科目】Ⅱ期開講「書写法Ⅱ」も履修することが望ましい。

【オフィスアワー】水曜日5・6時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

1. 書写と書道、基礎調査、用具発注
2. 用具の扱い方、姿勢・執筆・用筆・運筆
3. 楷書の学習①基本点画、字形Ⅰ
4.     〃     ②字形Ⅱ
5.     〃     ③字形Ⅲ
6.     〃     ④筆順・許容
7.     〃     ⑤配列
8. 行書の学習①基本点画、点画の変化
9.     〃     ②方向の変化
10.    〃     ③点画の連続
11.    〃     ④筆順の変化
12.    〃     ⑤行書と仮名の調和
13. 題箋・落款の書き方・字書から集字
14. 和綴り実習①
15.    〃     ②作品提出
16. 試験 作品返却

学習指導要領と単元指導計画、基本的学習指導過程と「30分10枚学習法」などについては随時に織り込む。

第1週目に用具の説明・発注をするので、必ず出席すること。なお、書道用具があれば持参すること。以降は各自で用具を準備し講義に臨むこと。

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

随時指示する。

#### 【必携書（教科書販売）】

『中学書写 一・二・三年』, 光村図書

『漢字指導の手引き』第七版, 久米東都編著, 教育出版

『明解・書写教育』増補改訂版, 全国大学書写書道教育学会編, 萱原書房

#### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 書写法Ⅱ

[担当者] 佐野 榮輝  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 実技 [単位] 1  
 [科目ナンバリング] 230B4-3000-o1

## ●本授業の概要：

1期「書写法Ⅰ」での国語科書写教育に関する理論と方法を踏まえ、楷書・行書を中心に教材研究を進め、各自が指導計画・指導案・副教材などを作成して、模擬授業を行う。

## ●到達目標：

1. 授業計画を立案し、教材分析や指導方法を考えて、模擬授業ができること。
2. 模擬授業を通じて、指導方法・指導態度などについての問題点を明らかにすることができること。
3. 和綴り製本ができること。
4. 書字力の向上に努めることができる。

## ●成績評価の基準：

- ・提出課題 毛筆「書写帖（下）」 20%（到達目標1、2、3、4）
- ・夏期課題（硬筆・毛筆） 20%（到達目標3、4）
- ・模擬授業 30%（到達目標1、2）
- ・試験（あるいはレポート） 30%（到達目標1、2、4）

## ●留意事項：

【教職免（中学国語）選択必修】  
 【時間外学習】かなり要する  
 【履修条件】1期開講の「書写法Ⅰ」を履修していることが望ましい。  
 【オフィスアワー】水曜5・6限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 模擬授業日程案・題材、目標と基準・評価、学習指導案作成
2. 教材・ワークシート（応用課題を含む）の開発
3. 機器の活用法、板書計画、示範練習
4. 模擬授業①楷書の筆順 \*4～13回については受講生数により勘案する
5. 模擬授業②字形の要素と概形・中心 詳細については第1回目に指示
6. 模擬授業③点画の長短と画間
7. 模擬授業④方向と接し方
8. 模擬授業⑤交わり方
9. 模擬授業⑥「左右」、「上下」、「内外」からなる文字
10. 模擬授業⑦許容される書き方
11. 模擬授業⑧行書の特徴
12. 模擬授業⑨楷書の「許容される書き方」と行書の関係
13. 模擬授業⑩行書の「筆順の変化」
14. 和綴り実習①（模擬授業作品集）
15. 和綴り実習② 作品提出
16. 定期試験・作品返却

模擬授業（1コマ90分で1人35分×2人を予定）の回数は履修者数によって勘案する。なお、模擬授業終了後、次週には、授業者は生徒役からのアドバイスをまとめ、自分のコメントとともに、自己評価のレジメを作成し、配布すること。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

随時指示する。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 1期「書写法Ⅰ」指定図書

## 硬筆書法

[担当者] 倉橋 肇  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 実技 [単位] 1  
 [科目ナンバリング] 230B4-3000-o1

## ●本授業の概要：

日常生活に使用する鉛筆・ボールペン・万年筆など、筆記用具の特性を理解する。それぞれの用具に応じた執筆法を学び、硬筆書写の基礎を学習し身につける。

## ●到達目標：

基礎となる力を養い、表現方法を習得する。正しく美しく書くという書写の能力を伸ばし、日常の書写の中へ応用できる力を養う。

## ●成績評価の基準：

- ・提出課題 80点
- ・要点の理解度 20点

## ●留意事項：

【教職免（中学国語）選択必修】

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 基礎調査・用具発注
2. 鉛筆による硬筆の書法①（用具）
3. 鉛筆による硬筆の書法②（運筆）
4. 鉛筆による硬筆の書法③（まとめ）
5. ボールペンによる硬筆の書法①（用具）
6. ボールペンによる硬筆の書法②（運筆）
7. ボールペンによる硬筆の書法③（まとめ）
8. 万年筆による硬筆の書法①（用具）
9. 万年筆による硬筆の書法②（運筆）
10. 万年筆による硬筆の書法③（まとめ）
11. フェルトペンによる硬筆の書法
12. 古文を書く①（百人一首）
13. 古文を書く②（百人一首）
14. 創作①
15. 創作②
16. 作品のまとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

『中学書写一・二・三年』光村図書（「書写法Ⅰ」と共通）

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 配布プリント

## 書式研究

[担当者] 倉橋 肇  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 実技 [単位] 1  
 [科目ナンバリング] 230B4-3000-o1

## ●本授業の概要：

我々の生活の中には、手紙・葉書・贈答用の表書きをはじめとして、形式により書く上でのきまりが多々ある。実用書式から鑑賞用書式までを実技と知識を通して学ぶ。

## ●到達目標：

それぞれの書式の基本を理解し、その形式を説明できる。応用として陶器の皿に、自由な表現で文字を刻む。

## ●成績評価の基準：

- ・提出課題 80点
- ・要点の理解度 20点

## ●留意事項：

【教職免（中学国語）選択必修】

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

実用の書・生活の書

1. 手紙の書き方①
2. 手紙の書き方②
3. 手紙の書き方③
4. 葉書の書き方①
5. 葉書の書き方②
6. 表書きの書き方①
7. 表書きの書き方②
8. 履歴書を書く
9. 年賀状の加工
10. 色紙・短冊①
11. 色紙・短冊②
12. 陶書作品① 題材
13. 陶書作品② 下書き
14. 陶書作品③ 削る
15. 陶書作品④ 仕上げ
16. 作品のまとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

『中学書写一・二・三年』光村図書（『書写法Ⅰ・Ⅱ』と共通）

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 配布プリント

## 楷・行書法Ⅱ

[担当者] 倉橋 肇  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 実技 [単位] 1  
 [科目ナンバリング] 230B4-2000-o1

## ●本授業の概要：

今日、日常生活の中で最も目にする事多い楷書。点画の連続による動きと変化のある行書。長い歴史の中で残された名品を通して様々な書きぶりを学習する。

## ●到達目標：

同じ書体であっても、書風の違いはどこから生まれるのか。用筆・運筆といった技術的なことから、筆者の個性・時代背景をも説明できる。

## ●成績評価の基準：

- ・提出課題 80点
- ・要点の理解度 20点

## ●留意事項：

【教職免（書道）必修】

実技の習得には繰り返しが重要であることを理解し、予習・復習などに時間外学習を要する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 楷書と行書の歴史的背景
2. 初唐の三大家 ①
3. 初唐の三大家 ②
4. 初唐の三大家 ③
5. 顔真卿の楷書
6. 北魏の書
7. 鍾繇の書
8. 半切作品にまとめる
9. 王羲之の書
10. 顔真卿の行書
11. 宋時代の書
12. 三筆の書 ①
13. 三筆の書 ②
14. 三筆の書 ③
15. 半切作品にまとめる
16. 作品のまとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

『書Ⅱ』、關 正人ほか編、教育図書

『書道芸術（漢字編）』改訂版、久米 東邨、萱原書房

『書Ⅰ』、關 正人ほか編、教育図書

『書Ⅲ』、關 正人ほか編、教育図書

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 草書法

[担当者] 倉橋 肇  
 [開講期] 2期  
 [授業形態] 実技 [単位] 1  
 [科目ナンバリング] 230B4-2000-o1

## ●本授業の概要：

日常生活の中でつかわれることの少ない草書は、省略と変化のある姿で作品制作の中では多々用いられている。「十七帖」「書譜」等、中国の古典から日本の草書の名称までを学習する。

## ●到達目標：

古典学習を通して、草書の崩し方・用筆・運筆を体得し、躍動的な作品制作へと発展させる。その書体の成り立ち、更には草書が省略されて我が国の「かな」が生まれたことへも応用できる。

## ●成績評価の基準：

- ・提出課題 80点
- ・要点の理解度 20点

## ●留意事項：

## 【教職免（書道）必修】

実技の習得には繰り返しが必要であることを理解し、予習・復習などに時間外学習を要する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 真草書千字文 ①
2. 真草書千字文 ②
3. 王羲之の書 ①
4. 王羲之の書 ②
5. 書譜 ①
6. 書譜 ②
7. 宋時代の書 ①
8. 宋時代の書 ②
9. 明・清時代の書 ①
10. 明・清時代の書 ②
11. 明・清時代の書 ③
12. 三筆・三跡の書 ①
13. 三筆・三跡の書 ②
14. 三筆・三跡の書 ③
15. 半切作品にまとめる
16. 作品のまとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

『書Ⅱ』、關 正人ほか編、教育図書  
 『書Ⅰ』、關 正人ほか編、教育図書  
 『書Ⅲ』、關 正人ほか編、教育図書  
 『書道芸術（漢字編）』、久米 東郎、萱原書房

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 漢字仮名交じり書法Ⅱ

[担当者] 倉橋 肇  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 実技 [単位] 1  
 [科目ナンバリング] 230B4-3000-o1

## ●本授業の概要：

書道における古典—漢字や仮名と違い、漢字仮名交じり書には古典といえる作品が少ない。だからこそ新しいものが生まれる可能性もある。古典を反映した技法を身につける。

## ●到達目標：

「漢字仮名交じり書法Ⅰ」の発展として、自らの思いや言葉を探り、作品を通して表現できる。更に独自の書風として応用できる。

## ●成績評価の基準：

- ・提出課題 80点
- ・要点の理解度 20点

## ●留意事項：

## 【教職免（書道）必修】

「漢字仮名交じり書法Ⅰ」を履修していることが望ましい。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 「漢字仮名交じり書法Ⅱ」の年間予定を説明。
2. 中国の漢字古典を作品に生かす①（唐の楷書）
3. 中国の漢字古典を作品に生かす②（唐の楷書）
4. 中国の漢字古典を作品に生かす③（北魏の楷書）
5. 中国の漢字古典を作品に生かす④（王羲之）
6. 中国の漢字古典を作品に生かす⑤（王羲之）
7. 日本の漢字古典を作品に生かす①（空海）
8. 日本の漢字古典を作品に生かす②（空海）
9. 日本の仮名古典を作品に生かす①（和漢朗詠集）
10. 日本の仮名古典を作品に生かす②（和漢朗詠集）
11. 独自の作品を作る①（素材）
12. 独自の作品を作る②（形式）
13. 独自の作品を作る③（潤濁）
14. 独自の作品を作る④（仕上げ）
15. 独自の作品を作る⑤（仕上げ）
16. 作品のまとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

『書Ⅰ』、關 正人ほか編、教育図書（「書道科教育法Ⅰ」と共通）

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 配布プリント

## 篆・隸書法

〔担当者〕佐野 榮輝  
 〔開講期〕1期  
 〔授業形態〕実技 [単位] 1  
 〔科目ナンバリング〕230B4-3000-o1

## ●本授業の概要：

前半は近代書体としての隸書（古隸・八分）を、後半は古代書体としての篆書（甲骨文・金文・小篆・印篆）を学ぶ。この二書体の書法学習は、漢字の成立・構造を知り、毛筆の機能性を再発見する恰好の場となろう。

## ●到達目標：

1、露鋒・藏鋒、方筆・円筆、側筆・直筆などの用筆技法を自在に駆使して篆書や隸書を表現できること。  
 2、楷書の構成法（バランス感覚）から脱却し、篆隸特有の構成法を習得し、その原理を応用できること。

## ●成績評価の基準：

・隸書課題 50%（到達目標1,2）  
 ・篆書課題 50%（到達目標1,2）

授業態度・意欲・要点の理解、問題点の克服と技能の習熟度を高く評価する。

## ●留意事項：

【教職免（書道）必修】  
 【時間外学習】かなり要する  
 【発展科目】Ⅱ期開講「篆刻法」を履修するためには、用具の準備・発注もあるので、本科目を履修していることが望ましい。  
 【オフィスアワー】水曜日5・6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 【隸書法】隸書の歴史と名品、隸書基本用筆
2. 木簡・前漢の隸書（魯孝王刻石・萊子侯刻石）
3. 石門頌・乙瑛碑・礼器碑
4. 史晨碑・西狭頌・張遷碑
5. 曹全碑①
6. 曹全碑②
7. 曹全碑③
8. 【篆書法】篆書の歴史と名品、篆書基本用筆
9. 甲骨文・金文
10. 石鼓文・泰山刻石
11. 王福庵書篆書基本部首214部①【A】
12. 王福庵書篆書基本部首214部②
13. 呉讓之書宋武帝勅①【B】
14. 呉讓之書宋武帝勅②
15. 呉讓之書宋武帝勅③
16. 夏季課題、Ⅱ期開講「篆刻法」の用具用材の準備について

篆書は今までに馴染みの薄い書体であることを考慮して、上記A・Bは、【発展科目】Ⅱ期開講「篆刻法」履修者には、技能の習熟化を図るための夏季課題とする。また印影を30顆籠字にとり、『双鉤印譜』の制作を課す。

Ⅱ期開講の「篆刻法」では、名印のほかに雅号印も刻すので、自らの雅号を決める必要がある。雅号についての知識やエピソードなどについても時間をかけて熟慮し、命号すること。また逐次、篆刻に関する談義も組み入れ、その知識を養う。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

随時指示する。

## 【必携書（教科書販売）】

『書Ⅱ』、『書Ⅲ』（教育図書）

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書> 継続図書

『書道芸術 漢字編』久米 公編著、萱原書房

『書Ⅰ』関 正人ほか、教育図書

<参考書等>

伏見冲敬『角川書道字典』（角川書店）

## 篆刻法

〔担当者〕佐野 榮輝  
 〔開講期〕2期  
 〔授業形態〕実技 [単位] 1  
 〔科目ナンバリング〕230B4-3000-o1

## ●本授業の概要：

Ⅰ期開講「篆・隸書法」での篆書法を踏まえ、篆刻を学ぶ。各自の名印・雅号印・引首印・干支印・賀状印・仮名印など朱白、大小、一字・二字印をあわせて10顆程度（予定一覧A～J）を刻す。

文字を「刻す」こともまた書であることを再認識したい。

## ●到達目標：

- 1、字書から検字して、校字・印稿を作ることができる。
- 2、印刀を正しく奏刀でき、印泥を適切に付着させて、清楚な印影を捺すことができる。
- 3、典故などに拠って雅号を付けることができる。
- 4、自用印を指定の顆数刻すことができる。
- 5、「日文読本」、及び「菜」の題字を提出することができる

## ●成績評価の基準：

・篆刻課題:80%（到達目標1,2,3,4）  
 ・「日文読本」題字揮毫:10%（到達目標5）  
 ・オリエンテーション「菜」題字揮毫:10%（到達目標5）

授業態度・意欲・要点の理解、問題点の克服、技能習熟度を評価する。

## ●留意事項：

【教職免（書道）必修】  
 【時間外学習】かなり要する。2月中旬に集中自主実習日を設ける。  
 【履修条件】篆刻用具の発注は夏季休業中にする。さらにその他の各自で準備する用具も多々あるため、Ⅰ期開講「篆・隸書法」を履修していることが望ましい。用具・用材費用として1万数千円程度必要。  
 【オフィスアワー】水曜日5・6時限  
 「書道卒業制作」について  
 4年次の「書道卒業制作」は、自用印が必須であるため、本授業の単位取得者を履修対象とする（ただし4年次に本授業を履修することも可）。さらにそれを履修するためには、3年次の2～3月中旬の「顔見世」に出席することが条件。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 用具・用材の頒布  
篆刻の歴史と名品・用具用材の呼称と使い方
2. 布字・刻法
3. 印稿の書き方①
4. 白文（8分）一字名印A
5. 朱文（8分）一字名印B
6. 印稿の書き方②
7. 白文（8分）二字名印①C
8. 白文（8分）二字名印②
9. 印稿の書き方③
10. 朱文（8分）二字雅号印①D
11. 白文（8分）二字雅号印②
12. 賀状印・干支印（寸法・朱白任意）E・F
13. 引首印（8分・朱白任意）G
14. 仮名条幅用名印もしくは雅号印（朱文・6分・一字）H
15. 発展課題（4分の白文名印・朱文雅号印）I・J
16. 印譜作成についての諸注意

なお2月中・下旬に集中自主実習日を設け、発展課題の完遂と、「自刻自用印譜」の押印・和綴じ製本を行う。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

随時指示する。

## 【必携書（教科書販売）】

『新修墨場必携』上・下、山本正一、法政大学出版局

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書> 継続図書

久米東都編著『書道芸術・漢字編』萱原書房

『書Ⅰ』『書Ⅱ』『書Ⅲ』教育図書

<参考書等>

その他の各種篆書字典は書道準備室に配架

## 仮名書法Ⅱ

〔担当者〕 倉橋 肇  
 〔開講期〕 2期  
 〔授業形態〕 実技 [単位] 1  
 〔科目ナンバリング〕 230B4-3000-o1

### ●本授業の概要：

「仮名書法Ⅰ」の学習を踏まえた上で、平安期の古筆を鑑賞し、臨書を通して線質・字形・用筆などの表現方法を学ぶ。

### ●到達目標：

基本となる古筆「高野切」を卷子本の形式に仕上げる。又、他の歴史上の古筆にも取り組み、多彩な古筆の特徴を説明できる。

### ●成績評価の基準：

- ・提出課題 80点
- ・要点の理解度 20点

### ●留意事項：

#### 【教職免（書道）必修】

「仮名書法Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。

### ●実務経験の授業への活用方法：

#### ●授業予定一覧：

1. 平安時代の古筆
2. 高野切を学ぶ①（特色）
3. 高野切を学ぶ②（濃淡）
4. 高野切を学ぶ③（潤濁）
5. 高野切を学ぶ④（連綿）
6. 高野切を学ぶ⑤（構成）
7. 高野切を学ぶ⑥（料紙）
8. 高野切を学ぶ⑦（形式）
9. 三色紙を学ぶ①（寸松庵色紙）
10. 三色紙を学ぶ②（継色紙）
11. 三色紙を学ぶ③（樹色紙）
12. 関戸本古今集を学ぶ①（連綿）
13. 関戸本古今集を学ぶ②（多彩な表現）
14. 元永本古今集を学ぶ①（ちらしの妙）
15. 元永本古今集を学ぶ②（料紙の美）
16. 作品のまとめ

#### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

古筆の臨書にはそれぞれに合わせた料紙を用いるので、その準備が必要である。

#### 【必携書（教科書販売）】

日本名筆選1『高野切第一種』二文社

#### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

配布プリント

## 日本文化史Ⅱ

〔担当者〕 江草 弥由起  
 〔開講期〕 2期  
 〔授業形態〕 講義 [単位] 2  
 〔科目ナンバリング〕 230B6-2340-o2

### ●本授業の概要：

古代から中世の文化の変遷を学ぶことにより、日本の文化がどのように形成されてきたか、また現代を生きる我々の美意識・価値観にどのような影響を与えているかを理解することを目的とする。授業では、和歌・物語などの古典作品を例にあげ、学んだ文化知識でもって古典作品の読解を深めることを実感できる機会を持つ。また、和歌披露（和歌を声に出して歌い上げること）のように授業内で体験できるものは、積極的に体験してもらいたい。

### ●到達目標：

1. 日本文化への知識を増やすことで、古典作品の読解を深めることができる。
2. 日本文化に明るくない他者にも、日本文化を分かりやすく説明することができる。
3. 現代文化について考える場面で、今日に至るまでの文化の変遷を認識し考察することができる。

### ●成績評価の基準：

出席・授業内に実施する小テスト 30%（到達目標1,2）  
 定期試験 70%（到達目標1,2,3）

### ●留意事項：

### ●実務経験の授業への活用方法：

#### ●授業予定一覧：

1. 文化史について 上代文化①衣服
2. 上代文化②衣服と風土
3. 上代文化③住居と食
4. 上代文化④美術・楽・遊び
5. 小テスト(一) 中古文化①衣服
6. 中古文化②衣服と風土
7. 中古文化③住居と食
8. 中古文化④美術・楽
9. 中古文化⑤遊び
10. 小テスト(二) 中世文化①衣服
11. 中世文化②衣服と風土
12. 中世文化③住居と食
13. 中世文化④美術・楽
14. 中世文化⑤遊び
15. まとめ 古典作品と文化（和歌披露の体験学習）

#### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業内容の復習は必ず行いましょう。定着度を確認するために小テストを数回行います。なお、小テスト・定期試験はいずれもノート・配布プリントのみ持ち込み可で行います。

#### 【必携書（教科書販売）】

#### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

配布プリント

## 日本美術史Ⅱ

[担当者] 五十嵐 公一  
 [開講期] 1期  
 [授業形態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 230B6-2340-o2

## ●本授業の概要：

辻惟雄『奇想の系譜』が刊行されて50年になります。この本は岩佐又兵衛、狩野山雪、伊藤若冲、曾我蕭白、長沢芦雪、歌川国芳という江戸時代の絵師たち六人について書いた一般書です。現在、伊藤若冲を筆頭に彼らは非常に人気のある絵師たちです。彼らの展覧会が開催されると多く人が見に来ます。しかし、この『奇想の系譜』が刊行される前、彼らは殆ど注目されていない絵師たちでした。つまり、彼らが注目される契機となったのが『奇想の系譜』だった訳です。その『奇想の系譜』を題材に、日本近世絵画史を考えて行きます。

## ●到達目標：

1. 日本近世絵画史の概略が理解できる。
2. 『奇想の系譜』の内容が理解できる。
3. 日本近世絵画の作品を楽しむことができる。

## ●成績評価の基準：

講義の際に行う小アンケート 30% (到達目的1.2.3)  
 レポート 70% (到達目的1.2.3)

## ●留意事項：

特になし

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 日本近世絵画史の概略
- 2 『奇想の系譜』の概略
- 3 岩佐又兵衛について
- 4 『奇想の系譜』における岩佐又兵衛
- 5 狩野山雪について
- 6 『奇想の系譜』における狩野山雪
- 7 伊藤若冲について
- 8 『奇想の系譜』における伊藤若冲
- 9 曾我蕭白について
- 10 『奇想の系譜』における曾我蕭白
- 11 長沢芦雪について
- 12 『奇想の系譜』における長沢芦雪
- 13 歌川国芳について
- 14 『奇想の系譜』における歌川国芳
- 15 『奇想の系譜』の影響力

## ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

特になし

## 【必携書(教科書販売)】

## 【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<参考書等>

辻惟雄『奇想の系譜』筑摩書房

## 卒業論文[日a]

[担当者] 綾目 広治  
 [開講期] 通年  
 [授業形態] 演習 [単位] 6  
 [科目ナンバリング] 230B5-4000-o6

## ●本授業の概要：

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する(400字詰原稿用紙に換算して60枚以上)。

## ●各ゼミ担当者より：

- ①ゼミの進め方や特色
- 第Ⅰ期は各自の勉強の報告を中心に、ゼミ生同士で意見交換を行う。第Ⅱ期は各自が書いてきた下書きの添削をする。
- ②ゼミ所属以降に満たす必要のある条件  
必ずしも必須ではないが、近代文学の授業を履修していることが望ましい。
- ③「希望ゼミ調査票」記載上の注意  
その時点で考えているテーマを、複数でも構わないから書くこと。
- ④第2希望第3希望の場合の注意  
とくに無し。
- ⑤オフィスアワー  
金曜日の9・10時限
- ⑥その他  
精力的に文献を多数読むことを心がけること。

## ●到達目標：

1. 自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。
2. 4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。
3. 自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。
4. 上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。

## ●成績評価の基準：

- 1月から2月にかけて、口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。
- ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。(到達目標1・2・3・4)
  - ・論理性と実証性を備えた論文である。(到達目標1・2・3・4)
  - ・研究論文としての独創性を備えている。(到達目標3・4)

## ●留意事項：

- ・キリスト教文化研究所開講科目の「特殊講義」4単位以上、「演習」4単位以上の、計8単位以上修得又は修得見込みの場合には、学科の承認を得て、キリスト教文化研究所所属教員の指導のもとに卒業論文を作成することができる。
- ・各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。佐野ゼミ7名。
- キリスト教文化研究所 山根道公ゼミ7名、須沢ゼミ5名。
- ・所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。
- ・卒業論文に関する具体的な連絡事項は掲示により伝える。
- ・提出書類の書式は、マナバ・フォーリオに掲載する。
- ・履修登録は、4年次第1期に行うこと。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

## ●卒業論文に関するスケジュール

【3年次】

4月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション  
 6月10日(月)～21日(金) 「希望ゼミ調査票」提出期間  
 6月21日(金) 「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 7月12日(金) 所属ゼミ発表 於 学科掲示板

【4年次】

4月 履修登録  
 5月7日(火) 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 12月9日(月)～20日(金) 卒業論文提出期間  
 12月20日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係  
 1月 口頭試問(～2月上旬)  
 2月4日(火) 要旨(清書版)提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 12日(水) 卒業論文(清書版)提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 【卒業延期学生(9月卒業予定者)】  
 5月7日(火) 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 6月7日(金)～6月20日(木) 卒業論文提出期間  
 6月20日(木) 卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係

その他の書籍等

- ・提出卒業論文要旨集(1部500円)を、昨年度と今年度の2部、頒布する。

## ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

第Ⅰ期の勉強報告では、報告の内容を簡単なレジюмеを作って参加するようにする。できれば、ゼミ生全員分の枚数を印刷する。第Ⅱ期ではともかくも文章化したものをゼミに持ってくるようにする。その回には持ってくるのが不可能な場合でも、ゼミ参加だけはしようと心がける。

## 【必携書(教科書販売)】

## 【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<必携書>

- ・提出卒業論文要旨集(1部500円)を、昨年度と今年度の2部、頒布する。

## 卒業論文 [日 b]

[担当者] 伊木 洋  
 [開講期] 通年  
 [授業形態] 演習 [単位] 6  
 [科目ナンバリング] 230B5-4000-o6

## ●本授業の概要：

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する（400字詰原稿用紙に換算して60枚以上）。

## ●各ゼミ担当者より：

- ①ゼミの進め方や特色
  - ・ゼミ生の報告・討議を行う。
- ②ゼミ所属以降に満たす必要のある条件
  - ・国語科教育への興味・関心を高めていくことが望ましい。
- ③「希望ゼミ調査票」記載上の注意
  - ・国語科教育に関する興味・関心があることが望ましい。
  - ・自己の問題意識及び研究の構想を具体的に記入すること。
- ④第2希望第3希望の場合の注意
  - ・国語科教育に興味・関心があることが望ましい。
  - ・研究の構想を十分に練った上で、必ず事前相談に来ること。
- ⑤オフィスアワー
  - ・火曜日9・10時限
- ⑥その他
  - ・教育実習があるため、計画を十分に練り、早めに取り組みを進めておく必要がある。
  - ・8月下旬～9月中旬に学外研修を実施することがある。

## ●到達目標：

1. 自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。
2. 4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。
3. 自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。
4. 上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。

## ●成績評価の基準：

1月から2月にかけて、口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。  
 ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。（到達目標1・2・3・4）  
 ・論理性と実証性を備えた論文である。（到達目標1・2・3・4）  
 ・研究論文としての独創性を備えている。（到達目標3・4）

## ●留意事項：

- ・キリスト教文化研究所開講科目の「特殊講義」4単位以上、「演習」4単位以上の、計8単位以上修得又は修得見込みの場合には、学科の承認を得て、キリスト教文化研究所所属教員の指導のもとに卒業論文を作成することができる。
  - ・各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。佐野ゼミ7名。
  - キリスト教文化研究所 山根道公ゼミ7名、須沢ゼミ5名。
  - ・所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。
  - ・卒業論文に関する具体的な連絡事項は掲示により伝える。
  - ・提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。
  - ・履修登録は、4年次第1期に行うこと。
  - 「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点
  - (1) 希望する指導教員には第1希望・第2希望・第3希望を問わず、必ず事前に相談に行くこと（全員）。
  - (2) 今年度は、次のゼミは第2希望・第3希望を受け付けることができない。
- 東城ゼミ

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

●卒業論文に関するスケジュール  
 【3年次】  
 4月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション  
 6月10日（月）～21日（金）「希望ゼミ調査票」提出期間  
 6月21日（金）「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 7月12日（金）所属ゼミ発表 於 学科掲示板  
 【4年次】  
 4月 履修登録  
 5月7日（火）「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 12月9日（月）～20日（金）卒業論文提出期間  
 12月20日（金）卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係  
 1月 口頭試問（～2月上旬）  
 2月4日（火）要旨（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 12日（水）卒業論文（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 【卒業延期学生（9月卒業予定者）】  
 5月7日（火）「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 6月7日（金）～6月20日（木）卒業論文提出期間  
 6月20日（木）卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係

## その他の書籍等

・提出卒業論文要旨集（1部500円）を、昨年度と今年度の2部、頒布する。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

研究計画に基づき、研究を積み重ねていくことを重視する。先行研究を踏まえ、テーマに即して十分考察を深め、報告できるよう準備すること。また、ゼミの記録を蓄積し、ゼミでの討議を生かして報告したことをその都度推敲し、修正していくこと。なお、重要な連絡事項は掲示及びマナバ・フォリオに掲載されるので、自己責任で必ず確認すること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 ・提出卒業論文要旨集（1部500円）を、昨年度と今年度の2部、頒布する。

## 卒業論文 [日 c]

[担当者] 尾崎 喜光  
 [開講期] 通年  
 [授業形態] 演習 [単位] 6  
 [科目ナンバリング] 230B5-4000-o6

## ●本授業の概要：

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する（400字詰原稿用紙に換算して60枚以上）。

## ●各ゼミ担当者より：

- ①ゼミの進め方や特色
  - ・全員参加による討論。毎回三人前後が、研究計画・調査状況・分析等について発表し、高く評価できる点、改善を要すると思われる点などについて一緒に議論し、よりよい研究に展開することをめざす。
  - ・ゼミ所属以降に満たす必要のある条件
- ② 卒業論文の準備的授業でもある「日本語学演習Ⅰ」（尾崎担当）を履修すること。ただし、資格等の授業と授業時間が重なり履修が困難な場合は必須条件としない。
- ③ 「希望ゼミ調査票」記載上の注意
  - ・どのようなことに関心があるか、どのようなことを研究課題としたか（あるいは研究課題とする可能性があるか）等について具体的に記述すること。複数あってもかまわない。
- ④ 第2希望で希望する場合の注意
  - ・特になし。
- ⑤ オフィスアワー
  - ・金曜日7・8限（第1期・第2期とも）。相談がある場合は、事前予約の上来ること。
- ⑥ その他
  - ・遅刻時間の長短にかかわらず、遅刻2回で欠席1回とみなす。ただし、公共交通機関の遅延など本人の責めに帰すことができない理由による遅刻は、遅延証明書添付でその旨の申告があった場合に限り遅刻扱いにしない。
  - ・5月下旬～6月中旬頃に「オープンゼミ」を数回行う予定である。ゼミ希望を考えている3年生は、4年生のゼミを見学することで、ゼミ希望を考える際の参考にしてほしい。参加を希望する場合は、直接またはメールで事前に連絡すること。

## ●到達目標：

1. 自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。
2. 4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。
3. 自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。
4. 上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。

## ●成績評価の基準：

1月から2月にかけて、口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。  
 ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。（到達目標1・2・3・4）  
 ・論理性と実証性を備えた論文である。（到達目標1・2・3・4）  
 ・研究論文としての独創性を備えている。（到達目標3・4）

## ●留意事項：

- ・キリスト教文化研究所開講科目の「特殊講義」4単位以上、「演習」4単位以上の、計8単位以上修得又は修得見込みの場合には、学科の承認を得て、キリスト教文化研究所所属教員の指導のもとに卒業論文を作成することができる。
  - ・各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。佐野ゼミ7名。
  - キリスト教文化研究所 山根道公ゼミ7名、須沢ゼミ5名。
  - ・所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。
  - ・卒業論文に関する具体的な連絡事項は掲示により伝える。
  - ・提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。
  - ・履修登録は、4年次第1期に行うこと。
  - 「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点
  - (1) 希望する指導教員には第1希望・第2希望・第3希望を問わず、必ず事前に相談に行くこと（全員）。
  - (2) 今年度は、次のゼミは第2希望・第3希望を受け付けることができない。
- 東城ゼミ

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

●卒業論文に関するスケジュール  
 【3年次】  
 4月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション  
 6月10日（月）～21日（金）「希望ゼミ調査票」提出期間  
 6月21日（金）「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 7月12日（金）所属ゼミ発表 於 学科掲示板  
 【4年次】  
 4月 履修登録  
 5月7日（火）「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 12月9日（月）～20日（金）卒業論文提出期間  
 12月20日（金）卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係  
 1月 口頭試問（～2月上旬）  
 2月4日（火）要旨（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 12日（水）卒業論文（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 【卒業延期学生（9月卒業予定者）】  
 5月7日（火）「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 6月7日（金）～6月20日（木）卒業論文提出期間  
 6月20日（木）卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 ・提出卒業論文要旨集（1部500円）を、昨年度と今年度の2部、頒布する。

## 卒業論文 [日 e]

[担当者] 佐野 榮輝  
 [開講期] 通年  
 [授業形態] 演習 [単位] 6  
 [科目ナンバリング] 230B5-4000-o6

## ●本授業の概要：

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する（400字詰原稿用紙に換算して60枚以上）。

## ●各ゼミ担当者より：

- ①ゼミの進め方や特色  
 日本・中国の書法史上の書の古典や書人に関して、テーマを決め考察する。  
 ②ゼミ所属以降に満たす必要のある条件  
 Ⅲ年次1期までの普通免許必修となっている書道実技・書道特講科目（ただし書道科教育法Ⅰ・Ⅱは除く）を履修すること。  
 ③「希望ゼミ調査票」記載上の注意  
 研究対象を複数挙げて、できるだけそのテーマを狭めて記述すること。  
 ④第2希望第3希望の場合の注意  
 上記③に同じ。  
 ⑤オフィスアワー  
 水曜日5・6時限  
 ⑥その他  
 ゼミの時間割は「集中」にしてあるが、履修者と相談のうえ決定する。

## ●到達目標：

1. 自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。
2. 4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。
3. 自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。
4. 上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して精確に伝えることができる。

## ●成績評価の基準：

- 1月から2月にかけて、口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。  
 ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。（到達目標1・2・3・4）  
 ・論理性と実証性を備えた論文である。（到達目標1・2・3・4）  
 ・研究論文としての独創性を備えている。（到達目標3・4）

## ●留意事項：

- ・キリスト教文化研究所開講科目の「特殊講義」4単位以上、「演習」4単位以上の、計8単位以上修得又は修得見込みの場合には、学科の承認を得て、キリスト教文化研究所所属教員の指導のもとに卒業論文を作成することができる。
- ・各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。佐野ゼミ7名。キリスト教文化研究所 山根道公ゼミ7名、須沢ゼミ5名。
- ・所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。
- ・卒業論文に関する具体的な連絡事項は提示により伝える。
- ・提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。
- ・履修登録は、4年次第1期に行うこと。

## ●「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点

- (1) 希望する指導教員には第1希望・第2希望・第3希望を問わず、必ず事前に相談に行くこと（全員）。
- (2) 今年度は、次のゼミは第2希望・第3希望を受け付けることができない。  
東城ゼミ

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

## ●卒業論文に関するスケジュール

## 【3年次】

4月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション  
 6月10日（月）～21日（金）「希望ゼミ調査票」提出期間  
 6月21日（金）「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 7月12日（金）所属ゼミ発表 於 学科掲示板

## 【4年次】

4月 履修登録  
 5月7日（火）「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 12月9日（月）～20日（金）卒業論文提出期間  
 12月20日（金）卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係  
 1月 口頭試問（～2月上旬）  
 2月4日（火）要旨（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 12日（水）卒業論文（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 【卒業延期学生（9月卒業予定者）】  
 5月7日（火）「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 6月7日（金）～6月20日（木）卒業論文提出期間  
 6月20日（木）卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>  
 ・提出卒業論文要旨集（1部500円）を、昨年度と今年度の2部、頒布する。

## 卒業論文 [日 f]

[担当者] 東城 敏毅  
 [開講期] 通年  
 [授業形態] 演習 [単位] 6  
 [科目ナンバリング] 230B5-4000-o6

## ●本授業の概要：

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する（400字詰原稿用紙に換算して60枚以上）。

## ●各ゼミ担当者より：

- ①ゼミの進め方や特色  
 (4年)1期は、週1回のゼミを実施する。ゼミは、報告・討議・発表を実施し、1期中に2回程度発表する。2期は、個人面談を随時実施し（週1程度）、執筆・推敲・添削を繰り返す。  
 (3年)月1回程度のゼミを実施する。ゼミは報告・討議を実施する。  
 ②ゼミ所属以降に満たす必要のある条件  
 (3年)卒業執筆方法を演習する「古代文学演習Ⅱ」を履修することが望ましい。  
 ③「希望ゼミ調査票」記載上の注意  
 研究内容を具体的に記すこと。ただし、テーマが絞れていない場合も、相談しながら検討することもできるので、随時相談に来ること。  
 ④第2希望第3希望の場合の注意  
 ⑤オフィスアワー  
 月曜日7・8限目  
 ⑥その他  
 (4年)夏季休業中に「研修旅行」を実施する。  
 (3年)夏季休業中に「万葉旅行」（飛鳥・奈良）を実施する（2泊3日）。

## ●到達目標：

1. 自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。
2. 4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。
3. 自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。
4. 上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して精確に伝えることができる。

## ●成績評価の基準：

- 1月から2月にかけて、口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。  
 ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。（到達目標1・2・3・4）  
 ・論理性と実証性を備えた論文である。（到達目標1・2・3・4）  
 ・研究論文としての独創性を備えている。（到達目標3・4）

## ●留意事項：

- ・キリスト教文化研究所開講科目の「特殊講義」4単位以上、「演習」4単位以上の、計8単位以上修得又は修得見込みの場合には、学科の承認を得て、キリスト教文化研究所所属教員の指導のもとに卒業論文を作成することができる。
- ・各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。佐野ゼミ7名。キリスト教文化研究所 山根道公ゼミ7名、須沢ゼミ5名。
- ・所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。
- ・卒業論文に関する具体的な連絡事項は提示により伝える。
- ・提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。
- ・履修登録は、4年次第1期に行うこと。

## ●「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点

- (1) 希望する指導教員には第1希望・第2希望・第3希望を問わず、必ず事前に相談に行くこと（全員）。
- (2) 今年度は、次のゼミは第2希望・第3希望を受け付けることができない。  
東城ゼミ

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

## ●卒業論文に関するスケジュール

## 【3年次】

4月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション  
 6月10日（月）～21日（金）「希望ゼミ調査票」提出期間  
 6月21日（金）「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 7月12日（金）所属ゼミ発表 於 学科掲示板

## 【4年次】

4月 履修登録  
 5月7日（火）「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 12月9日（月）～20日（金）卒業論文提出期間  
 12月20日（金）卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係  
 1月 口頭試問（～2月上旬）  
 2月4日（火）要旨（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 12日（水）卒業論文（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 【卒業延期学生（9月卒業予定者）】  
 5月7日（火）「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 6月7日（金）～6月20日（木）卒業論文提出期間  
 6月20日（木）卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>  
 ・提出卒業論文要旨集（1部500円）を、昨年度と今年度の2部、頒布する。

## 卒業論文 [日 g]

【担当者】野澤 真樹  
 【開講期】通年  
 【授業形態】演習 [単位] 6  
 【科目ナンバリング】230B5-4000-o6

## ●本授業の概要：

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する（400字詰原稿用紙に換算して60枚以上）。

## ●各ゼミ担当者より：

- ①ゼミの進め方や特色  
 (4年)1期は1回の授業につき2名程度の中間報告を行う。2期は卒論の執筆を進め、主に個人面談・指導を行う。  
 (3年)月に1度変体仮名の読解演習を行う。1月に大阪の国立文楽劇場で文楽鑑賞、2月に卒論テーマ発表を行う（1人につき発表時間20分）。  
 ②ゼミ所属以降に満たす必要のある条件  
 卒論テーマで近世文学を扱う予定の者は「近世文学」関連の学科専攻科目を履修することが望ましい（4年になってからでもかまわない）。  
 ③「希望ゼミ調査票」記載上の注意  
 気になる作品や課題についてできるだけ詳しく書くこと。調査票の時点でテーマを絞れていない場合は複数のテーマに及言してもよい。  
 ④第2希望第3希望の場合の注意  
 特になし。③に準ずる。  
 ⑤オフィスアワー  
 月曜日5・6限  
 ⑥その他  
 行事等については所属学生と相談の上決定する。

## ●到達目標：

1. 自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。
2. 4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。
3. 自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。
4. 上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。

## ●成績評価の基準：

1月から2月にかけて、口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。  
 ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。（到達目標1・2・3・4）  
 ・論理性と実証性を備えた論文である。（到達目標1・2・3・4）  
 ・研究論文としての独創性を備えている。（到達目標3・4）

## ●留意事項：

・キリスト教文化研究所開講科目の「特殊講義」4単位以上、「演習」4単位以上の、計8単位以上修得又は修得見込みの場合には、学科の承認を得て、キリスト教文化研究所所属教員の指導のもとに卒業論文を作成することができる。  
 ・各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。佐野ゼミ7名。  
 キリスト教文化研究所 山根道公ゼミ7名、須沢ゼミ5名。  
 ・所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。  
 ・卒業論文に関する具体的な連絡事項は掲示により伝える。  
 ・提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。  
 ・履修登録は、4年次第1期に行うこと。

## ●「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点

- (1) 希望する指導教員には第1希望・第2希望・第3希望を問わず、必ず事前に相談に行くこと（全員）。
- (2) 今年度は、次のゼミは第2希望・第3希望を受け付けることができない。  
東城ゼミ

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

## 【3年次】

4月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション  
 6月10日(月)～21日(金) 「希望ゼミ調査票」提出期間  
 6月21日(金)「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 7月12日(金)所属ゼミ発表 於 学科掲示板

## 【4年次】

4月 履修登録  
 5月7日(火)「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 12月9日(月)～20日(金) 卒業論文提出期間  
 12月20日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係  
 1月 口頭試問(～2月上旬)  
 2月4日(火)要旨(清書版)提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 12日(水)卒業論文(清書版)提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 【卒業延期学生(9月卒業予定者)】  
 5月7日(火)「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 6月7日(金)～6月20日(木)卒業論文提出期間  
 6月20日(木) 卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係

## ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

## 【必携書(教科書販売)】

## 【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<必携書>  
 ・提出卒業論文要旨集(1部500円)を、昨年度と今年度の2部、頒布する。

## 卒業論文 [日 h]

【担当者】原 豊二  
 【開講期】通年  
 【授業形態】演習 [単位] 6  
 【科目ナンバリング】230B5-4000-o6

## ●本授業の概要：

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する（400字詰原稿用紙に換算して60枚以上）。

## ●各ゼミ担当者より：

- ①ゼミの進め方や特色  
 週1回、3年生、4年生合同で、ゼミ生の報告・討議を行う。(3年生はⅡ期から)
- ②ゼミ所属以降に満たす必要のある条件  
 古代文学演習Ⅲ・Ⅳを履修することが望ましい。
- ③「希望ゼミ調査票」記載上の注意  
 研究対象とする作品、研究テーマ、目的、考察方法などを具体的に記すこと。
- ④第2希望・第3希望の場合の注意  
 特になし。
- ⑤オフィスアワー  
 月曜日5・6限  
 ⑥その他  
 週1回の卒論ゼミでは、無断欠席は認められません。  
 ゼミの所属後、数回の発表を課します。  
 3年生・4年生ともに休暇中にレポートを課します。  
 例年、ゼミ合宿(文学旅行)を実施しています。

## ●到達目標：

1. 自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。
2. 4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。
3. 自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。
4. 上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。

## ●成績評価の基準：

1月から2月にかけて、口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。  
 ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。（到達目標1・2・3・4）  
 ・論理性と実証性を備えた論文である。（到達目標1・2・3・4）  
 ・研究論文としての独創性を備えている。（到達目標3・4）

## ●留意事項：

・キリスト教文化研究所開講科目の「特殊講義」4単位以上、「演習」4単位以上の、計8単位以上修得又は修得見込みの場合には、学科の承認を得て、キリスト教文化研究所所属教員の指導のもとに卒業論文を作成することができる。  
 ・各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。佐野ゼミ7名。  
 キリスト教文化研究所 山根道公ゼミ7名、須沢ゼミ5名。  
 ・所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。  
 ・卒業論文に関する具体的な連絡事項は掲示により伝える。  
 ・提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。  
 ・履修登録は、4年次第1期に行うこと。

## ●「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点

- (1) 希望する指導教員には第1希望・第2希望・第3希望を問わず、必ず事前に相談に行くこと（全員）。
- (2) 今年度は、次のゼミは第2希望・第3希望を受け付けることができない。  
東城ゼミ

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

## ●卒業論文に関するスケジュール

## 【3年次】

4月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション  
 6月10日(月)～21日(金) 「希望ゼミ調査票」提出期間  
 6月21日(金)「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 7月12日(金)所属ゼミ発表 於 学科掲示板

## 【4年次】

4月 履修登録  
 5月7日(火)「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 12月9日(月)～20日(金) 卒業論文提出期間  
 12月20日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係  
 1月 口頭試問(～2月上旬)  
 2月4日(火)要旨(清書版)提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 12日(水)卒業論文(清書版)提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 【卒業延期学生(9月卒業予定者)】  
 5月7日(火)「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 6月7日(金)～6月20日(木)卒業論文提出期間  
 6月20日(木) 卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係

## ●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

## 【必携書(教科書販売)】

## 【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<必携書>  
 ・提出卒業論文要旨集(1部500円)を、昨年度と今年度の2部、頒布する。

## 卒業論文〔日〕

〔担当者〕 星野 佳之  
 〔開講期〕 通年  
 〔授業形態〕 演習 [単位] 6  
 〔科目ナンバリング〕 230B5-4000-o6

## ●本授業の概要：

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する（400字語原稿用紙に換算して60枚以上）。

## ●各ゼミ担当者より：

- ① ゼミの進め方や特色  
各自のテーマについて、毎週1回程度、所属生全員参加による討議を行う。
- ② ゼミ所属以降に満たす必要のある条件  
各自のテーマに関連する専攻科目（特講、講義、演習）を履修すること。  
マナバフォリオの「コミュニティ」「日本語日本文学科 星野佳之ゼミ」に登録すること（履修登録と連動した「マイコース」のものとは別なので注意）。
- ③ 「希望ゼミ調査票」記載上の注意  
具体的に記すこと。
- ④ 第2希望第3希望の場合の注意  
具体的に記すこと。
- ⑤ オフィスアワー  
木曜日7・8時限
- ⑥ その他  
特になし。

## ●到達目標：

1. 自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。
2. 4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。
3. 自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。
4. 上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。

## ●成績評価の基準：

- 1月から2月にかけて、口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。
- ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。（到達目標1・2・3・4）
  - ・論理性と実証性を備えた論文である。（到達目標1・2・3・4）
  - ・研究論文としての独創性を備えている。（到達目標3・4）

## ●留意事項：

- ・キリスト教文化研究所開講科目の「特殊講義」4単位以上、「演習」4単位以上の、計8単位以上修得又は修得見込みの場合には、学科の承認を得て、キリスト教文化研究所所属教員の指導のもとに卒業論文を作成することができる。
- ・各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。佐野ゼミ7名。
- ・キリスト教文化研究所 山根道公ゼミ7名、須沢ゼミ5名。
- ・所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。
- ・卒業論文に関する具体的な連絡事項は掲示により伝える。
- ・提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。
- ・履修登録は、4年次第1期に行うこと。

## ●「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点

- (1) 希望する指導教員には第1希望・第2希望・第3希望を問わず、必ず事前に相談に行くこと（全員）。
- (2) 今年度は、次のゼミは第2希望・第3希望を受け付けることができない。  
東城ゼミ

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

## ●卒業論文に関するスケジュール

## 【3年次】

- 4月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション  
 6月10日（月）～21日（金） 「希望ゼミ調査票」提出期間  
 6月21日（金） 「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 7月12日（金） 所属ゼミ発表 於 学科掲示板

## 【4年次】

- 4月 履修登録  
 5月7日（火） 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 12月9日（月）～20日（金） 卒業論文提出期間  
 12月20日（金） 卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係  
 1月 口頭試問（～2月上旬）  
 2月4日（火） 要旨（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 12日（水） 卒業論文（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 【卒業延期学生（9月卒業予定者）】  
 5月7日（火） 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 6月7日（金）～6月20日（木） 卒業論文提出期間  
 6月20日（木） 卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>  
 ・提出卒業論文要旨集（1部500円）を、昨年度と今年度の2部、頒布する。

## 卒業論文〔日〕

〔担当者〕 山根 知子  
 〔開講期〕 通年  
 〔授業形態〕 演習 [単位] 6  
 〔科目ナンバリング〕 230B5-4000-o6

## ●本授業の概要：

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する（400字語原稿用紙に換算して60枚以上）。

## ●各ゼミ担当者より：

- ① ゼミの進め方や特色  
近代から現代に至る小説・児童文学・詩・短歌・俳句に関する研究を対象とする。  
3年次では、選んだ作家の全作品を読破した研究ノートを作成し、作家情報を収集して問題点を見極め、先行研究を網羅的に集めて読み研究史を把握する作業を進めるなかで、段階的研究を積み上げる。  
4年次では、毎週2コマのゼミを行う。前期では授業での発表を行い、夏休みには中間発表会での発表を行う。中間発表後は、毎週決めた目次の箇所を執筆して完成に至る。
- ② ゼミ所属以降に満たす必要のある条件  
近代文学講読（半期）と、近代文学演習（前期と後期）を履修すること。近代文学特講については、開講された授業内容が自らの卒業論文の作家・テーマ・ジャンルと重なる場合には履修すること。
- ③ 「希望ゼミ調査票」記載上の注意  
研究対象とする作家や作品、研究テーマ、ねらい、分析方法など、現時点で考えている研究の方針（迷っている場合には幾通りかの候補）をできるだけ具体的に記載すること。
- ④ 第2希望第3希望の場合の注意  
必ず早めに連絡をとり相談に来ること。
- ⑤ オフィスアワー  
木曜日7、8時限。随時メールでも質問に対応する。
- ⑥ その他  
積極的な構えを持って主体的、計画的に毎週の課題に取り組むこと。

## ●到達目標：

1. 自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。
2. 4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。
3. 自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。
4. 上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。

## ●成績評価の基準：

- 1月から2月にかけて、口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。
- ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。（到達目標1・2・3・4）
  - ・論理性と実証性を備えた論文である。（到達目標1・2・3・4）
  - ・研究論文としての独創性を備えている。（到達目標3・4）

## ●留意事項：

- ・キリスト教文化研究所開講科目の「特殊講義」4単位以上、「演習」4単位以上の、計8単位以上修得又は修得見込みの場合には、学科の承認を得て、キリスト教文化研究所所属教員の指導のもとに卒業論文を作成することができる。
- ・各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。佐野ゼミ7名。
- ・キリスト教文化研究所 山根道公ゼミ7名、須沢ゼミ5名。
- ・所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。
- ・卒業論文に関する具体的な連絡事項は掲示により伝える。
- ・提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。
- ・履修登録は、4年次第1期に行うこと。

## ●「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点

- (1) 希望する指導教員には第1希望・第2希望・第3希望を問わず、必ず事前に相談に行くこと（全員）。
- (2) 今年度は、次のゼミは第2希望・第3希望を受け付けることができない。  
東城ゼミ

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

## ●卒業論文に関するスケジュール

## 【3年次】

- 4月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション  
 6月10日（月）～21日（金） 「希望ゼミ調査票」提出期間  
 6月21日（金） 「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 7月12日（金） 所属ゼミ発表 於 学科掲示板

## 【4年次】

- 4月 履修登録  
 5月7日（火） 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 12月9日（月）～20日（金） 卒業論文提出期間  
 12月20日（金） 卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係  
 1月 口頭試問（～2月上旬）  
 2月4日（火） 要旨（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 12日（水） 卒業論文（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 【卒業延期学生（9月卒業予定者）】  
 5月7日（火） 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 6月7日（金）～6月20日（木） 卒業論文提出期間  
 6月20日（木） 卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

ゼミ生全員が各係を担い、主体的にゼミ進行上の計画を立て、それらをmanabaで発信し、各々の卒論執筆計画の進捗状況を日々確認しながら進める。卒論完成までの過程で、ゼミ生同士の連携を大切にし責任感と実行力を養い、自らの内的成長へむけて挑んでほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>  
 ・提出卒業論文要旨集（1部500円）を、昨年度と今年度の2部、頒布する。

## 卒業論文 [日 K]

[担当者] 山根 道公  
 [開講期] 通年  
 [授業形態] 演習 [単位] 6  
 [科目ナンバリング] 230B5-4000-o6

## ●本授業の概要：

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する（400字詰原稿用紙に換算して60枚以上）。

## ●各ゼミ担当者より：

- ①ゼミの進め方や特色  
 週1回、3年生・4年生合同で発表・討議を行う。夏休みに中間発表会を行う。  
 ②ゼミ所属以降に満たす必要がある条件  
 キリスト教文化研究所開講科目の「キリスト教文化特講Ⅱ」「キリスト教文化演習Ⅱ」を履修していない場合は4年次で履修すること。  
 ③「希望ゼミ調査票」記載上の注意  
 現時点で考えていることを、迷っていることも含めてできるだけ書くこと。  
 ④第2希望・第3希望の場合の注意  
 必ず事前に相談にくること。  
 ⑤オフィスアワー  
 木曜・金曜の昼休み  
 ⑥その他  
 日本の近・現代文学でキリスト教と接点のある作家・作品は多いので、迷ったり、不明な点のある学生は事前に相談にくること。

## ●到達目標：

1. 自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。
2. 4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。
3. 自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。
4. 上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。

## ●成績評価の基準：

- 1月から2月にかけて、口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。
- ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。（到達目標1・2・3・4）
  - ・論理性と実証性を備えた論文である。（到達目標1・2・3・4）
  - ・研究論文としての独創性を備えている。（到達目標3・4）

## ●留意事項：

- ・キリスト教文化研究所開講科目の「特殊講義」4単位以上、「演習」4単位以上の、計8単位以上修得又は修得見込みの場合には、学科の承認を得て、キリスト教文化研究所所属教員の指導のもとに卒業論文を作成することができる。
  - ・各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。佐野ゼミ7名。
- キリスト教文化研究所 山根道公ゼミ7名、須沢ゼミ5名。
- ・所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。
  - ・卒業論文に関する具体的な連絡事項は掲示により伝える。
  - ・提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。
  - ・履修登録は、4年次第1期に行うこと。

## ●「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点

- (1) 希望する指導教員には第1希望・第2希望・第3希望を問わず、必ず事前に相談に行くこと（全員）。
- (2) 今年度は、次のゼミは第2希望・第3希望を受け付けることができない。  
東城ゼミ

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

## ●卒業論文に関するスケジュール

- 【3年次】  
 4月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション  
 6月10日（月）～21日（金） 「希望ゼミ調査票」提出期間  
 6月21日（金） 「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 7月12日（金） 所属ゼミ発表 於 学科掲示板  
 【4年次】  
 4月 履修登録  
 5月7日（火） 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 12月9日（月）～20日（金） 卒業論文提出期間  
 12月20日（金） 卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係  
 1月 口頭試問（～2月上旬）  
 2月4日（火） 要旨（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 12日（水） 卒業論文（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 【卒業延期学生（9月卒業予定者）】  
 5月7日（火） 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 6月7日（金）～6月20日（木） 卒業論文提出期間  
 6月20日（木） 卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>  
 ・提出卒業論文要旨集（1部500円）を、昨年度と今年度の2部、頒布する。

## 卒業論文 [日 I]

[担当者] 須沢 かおり  
 [開講期] 通年  
 [授業形態] 演習 [単位] 6  
 [科目ナンバリング] 230B5-4000-o6

## ●本授業の概要：

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する（400字詰原稿用紙に換算して60枚以上）。

## ●各ゼミ担当者より：

- ①ゼミの進め方や特色  
 それぞれの関心のあるテーマを選び、演習形式で進める。発表、討論を重視し、ゼミのなかで卒論の書き方を学ぶ。  
 ②ゼミ所属以降に満たす必要がある条件  
 卒業までにキ文研開講科目を8単位履修すること。  
 ③「希望ゼミ調査票」記載上の注意  
 特になし。  
 ④第2希望第3希望の場合の注意  
 前近代であれば近世、または近現代の文化や文学に興味関心があることが望ましい。  
 ⑤オフィスアワー  
 水曜15:56時限  
 ⑥その他  
 特になし。

## ●到達目標：

1. 自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。
2. 4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。
3. 自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。
4. 上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。

## ●成績評価の基準：

- 1月から2月にかけて、口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。
- ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。（到達目標1・2・3・4）
  - ・論理性と実証性を備えた論文である。（到達目標1・2・3・4）
  - ・研究論文としての独創性を備えている。（到達目標3・4）

## ●留意事項：

- ・キリスト教文化研究所開講科目の「特殊講義」4単位以上、「演習」4単位以上の、計8単位以上修得又は修得見込みの場合には、学科の承認を得て、キリスト教文化研究所所属教員の指導のもとに卒業論文を作成することができる。
  - ・各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。佐野ゼミ7名。
- キリスト教文化研究所 山根道公ゼミ7名、須沢ゼミ5名。
- ・所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。
  - ・卒業論文に関する具体的な連絡事項は掲示により伝える。
  - ・提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。
  - ・履修登録は、4年次第1期に行うこと。

## ●「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点

- (1) 希望する指導教員には第1希望・第2希望・第3希望を問わず、必ず事前に相談に行くこと（全員）。
- (2) 今年度は、次のゼミは第2希望・第3希望を受け付けることができない。  
東城ゼミ

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

## ●卒業論文に関するスケジュール

- 【3年次】  
 4月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション  
 6月10日（月）～21日（金） 「希望ゼミ調査票」提出期間  
 6月21日（金） 「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 7月12日（金） 所属ゼミ発表 於 学科掲示板  
 【4年次】  
 4月 履修登録  
 5月7日（火） 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 12月9日（月）～20日（金） 卒業論文提出期間  
 12月20日（金） 卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係  
 1月 口頭試問（～2月上旬）  
 2月4日（火） 要旨（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 12日（水） 卒業論文（清書版）提出締切 16:00まで 於 学生合研  
 【卒業延期学生（9月卒業予定者）】  
 5月7日（火） 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 於 学生合研  
 6月7日（金）～6月20日（木） 卒業論文提出期間  
 6月20日（木） 卒業論文提出締切 13:30まで 於 教務係

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>  
 ・提出卒業論文要旨集（1部500円）を、昨年度と今年度の2部、頒布する。